

2026年度

シラバス

貞静学園短期大学

(2026.4.1 発行)

I 貞静学園短期大学の教育理念・目的

本学は、「学問と人格の切磋琢磨・心の教育」の基本方針の下、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」を教育理念とし、知識および実践力の向上、そして中断のない研究と幅広い人間教育に重点を置く大学教育機関として活動を展開しています。

本学は、「幼児教育・保育の特殊性・専門性を兼ね備えた柔軟性のある保育者養成」を教育目的とし、特に、教育の基本は人間教育であることを踏まえ、社会で生きていくためにどうあるべきか、どのような姿勢で研究を進めていくのか等、人として生きていく姿勢を絶えず念頭に置き、教育課程に反映してまいります。

また、本学は、より豊かな社会生活を実現するための教養教育及び教養教育と実務教育とが結合した専門的職業教育、さらには地域社会に密着した生涯学習の機会を与えていくことも視野に入れ、幼児教育・保育の分野において求められる専門的な知識・技術の修得は勿論のこと、心の教育を重視し、乳幼児・弱者に対する思いやりや気配りとともに、職場・社会で相手の立場に立ったものの見方・考え方ができるような人間教育を実施してまいります。

さらに、日本の未来を担う子どもの豊かな成長を、家庭と保育現場から捉え、乳幼児期の家庭のしつけが、その人間の一生を左右するほど重要であることを認識し、家庭と保育現場の双方の連帯関係の重要性という視点に立ち、真に社会に役立つ幅の広い柔軟性のある人材の養成を目指してまいります。

さらにまた、急速に進む高齢社会に対応する為に平成22年4月より、従来の専門学校介護福祉専攻科から短期大学専攻科介護福祉専攻を新たに開設し、より資質の高い介護福祉士養成をめざしてまいります。

II 3つの方針

1) アドミッションポリシー

○保育学科

本学は、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」を教育の理念とし、資質の高い保育士・幼稚園教諭の養成を目標としています。

そのため、以下のとおり入学者受け入れ方針を設けています。

- ①幼児教育・保育・福祉に関わる職につくことを希望し、その意志を持ち続けることができる人（至誠）
- ②子どもについて深く学び、誰に対しても公平にコミュニケーションを取ろうとする人（和敬）
- ③ひと、もの、ことに慈しみの心をもって、保育・福祉で社会に貢献しようとする人（慈愛）
- ④国語の基礎力があり、言葉の重みを理解し、豊かな表現力を身につけようとする人

○専攻科介護福祉専攻（1年課程）

本学は、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」を教育の理念とし、資質の高い介護福祉士養成を目標としています。

そのため、以下のとおり入学者受け入れ方針を設けています。

- ①介護福祉士の職に就くことを希望し、その意志を持ち続けることができる人
- ②大学・短期大学もしくは専門学校で保育士の資格を取得し、積極的に介護実践力を身につけようとする人
- ③高齢者および障害者を取り巻く環境に関心を持ち、福祉・教育について学ぶ意欲のある人
- ④誠実で真摯な心を持ち、コミュニケーションを大切にする人

2) ディプロマポリシー

本学保育学科に2年以上在籍し、卒業に必要な単位数を修得して、広い保育学の知識と優れた保育の技能並びに保育者に相応しい豊かな人間性を有し、真に社会で活躍できる人材であると、教授会において認定した学生に対して、短期大学士（保育学）の学位を授与する。

3) カリキュラムポリシー

貞静学園短期大学の教育課程は、保育・幼児教育に携わる一人の人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力や現実を正しく理解する力の涵養と、幅広く深い教養と保育に関する専門科目を総合的に教授することを目的としている。

1. 教育課程を「教養教育科目」と「専門教育科目」に分け、「教養教育科目」と「専門教育科目」を履修することにより、一般教養・専門的知識を修得し、保育・幼児教育に関する研鑽を積み、保育の専門家として卒業後も成長できる保育者養成を目指す。
2. 教養教育科目は、「教養科目」、「体育」、「語学」、「情報」に分け、保育・幼児教育を専門に学び実践する者として、幅広い知識を修得し、社会で応用できる基礎能力に必要な教養を身につけ、社会に役立つ人材を育成するための授業科目を設定する。「教養科目」の中に「キャリア教育」を卒業必修として設置し、建学の精神のもと本学独自の科目を履修することにより、本学卒業生として獲得すべき学習成果の基盤を創る。
3. 専門教育科目は、「基礎技能科目」、「基礎理論科目」、「保育の内容・方法」、「保育の対象・理解」、「保育教育実践演習」、「教育・保育実習」、「ゼミナール」から編成し、知識の獲得・活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決能力、表現力、コミュニケーション能力など、保育の専門職や社会人として必要な知識や技能を修得させるために講義、演習、実習など、多様な科目設定をする。
4. 保育学科2年間で社会に役立つ保育者を養成するため、本学独自の科目を「教養科目」、「保育の内容・方法」ならびに「保育の対象・理解」の各分野に新たに開設した。さらに保育学科2年間の学習の総まとめとして、選択科目ゼミナールを開設し、個々の学生達が絵本づくりや、伝承玩具、おもちゃづくり等、また少子社会、地域の子育て支援等、保育に関する様々な課題について、各自の研究テーマを定め、課題解決のための対応策・方法・技術等を研究し、保育者としての資質向上をはかることを目的に、ていねいな個別指導を行う。
5. 2年間で4期にわけて、基礎的・基本的な科目から総合的に実践し、応用でき

る科目へと順次学べるように編成する。そのため、科目は各期を基準にするが、通年科目についても各期のまとまりを持つように編成する。

6. 卒業と同時に幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の二つの免許・資格を取得できる教育課程を編成する。

Ⅲ学習成果

本学は、建学の精神「至誠、和敬、慈愛」に基づき、「これからの社会に役立つ、人間性豊かな知性と教養ある人材の育成」を教育理念としている。その教育理念を実現するために、自ら学び努力していく姿勢と、強くしなやかな意志を育むことを基盤として、専門的学習成果と汎用的学習成果の両面から学習成果を定めている。

専門的学習成果（保育者としての学習成果）とは、保育及び教育に必要な専門的知識・技術・技能を習得し、一人一人の最善の幸福を考え、倫理観を持って保育・教育を実践する能力を身に付けることである。

汎用的学習成果（社会人としての学習成果）とは、伝統文化、社会、自然についての理解を深め、社会で生じる様々な問題や意見に向き合い、他者と協力し、科学的・論理的に考え、積極的に解決に取り組むことが出来るようになることである。

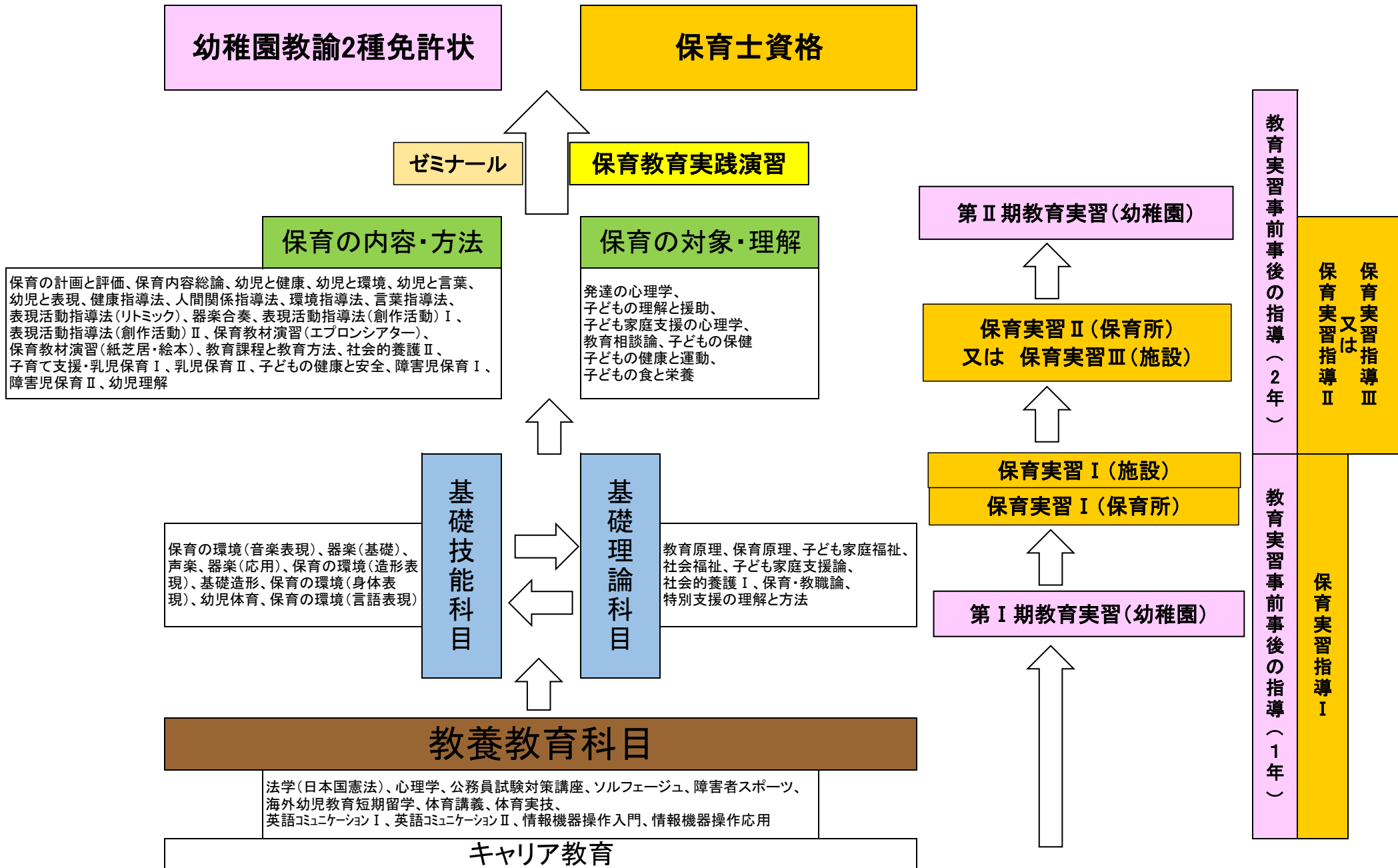
専門的学習成果（保育者としての学習成果）

1. 子どもや特別な支援を要する人の発達特性や個性について学び、一人一人の最善の幸福を考え、保育・教育および家庭支援を実践するための様々な知識・技術・技能を習得する。
2. 子どもの「生きる力」を育むために、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五領域についての技術や技能を習得する。
3. 保育者として子どもの人権を尊重し、倫理観を持って他者と協調すると共に、子どもの心身の健康と安全に努めながら保育・教育に取り組むことができる。
4. 獲得した知識・技能・態度を基礎として、継続的に向上心を持って学習することができる。
5. 他国の人や文化を尊重しグローバルな視点で、子ども、職場、社会を捉え、保育・教育および家庭支援について知識と理解を深めていく姿勢をつくる。

汎用的学習成果（社会人としての学習成果）

6. 文化、社会や自然に対する知識を豊かにし、多様な価値観や意見を理解し、自ら学んでいく。
7. 読む、書く、聞く、話す能力をはじめ、情報を収集・分析する能力、数や量を理解する能力を高め、他者と協働して新しい視点や発想、柔軟な方法で問題を解決することができる。
8. 社会規範や職場のルールを理解し守り、様々な人々と協調して仕事や課題に積極的に取り組み、実現へ向けて計画し、やり遂げる強い意志を獲得する。

貞静学園短期大学保育学科カリキュラムツリー



カリキュラムマップ (保育学科)

※シラバス用

卒業要件：66単位以上、幼稚園教諭2種免許状：66単位以上、保育士資格：70単位以上

- ★印：必修科目29単位以外に選択科目29単位以上の修得が必要。
 - 印：卒業又は幼稚園教諭又は保育士必修単位（選択必修を含む）
 - 印：選択科目
 - ▲印：どちらかを選択
- ※印：50分授業

科目区分		卒業単位		幼稚園教諭		保育士		1年		2年		授業形態			特記事項	学習成果
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	講義	演習・実技	実験・実習		
教養教育科目	教養科目	キャリア教育 ※	2				2	●	●				✓			3. 4. 6. 7. 8
		法学（日本国憲法）		2	2		2		●				✓			3. 5. 6. 7. 8
		心理学		2			2		○				✓			4. 6. 7. 8
		公務員試験対策講座		1						○				✓		1. 4. 6. 7
		ソルフエージュ		1			1	○						✓		1. 2. 3. 6. 8
		障害者スポーツ		1			1	○						✓		1. 3. 5. 6
		海外幼児教育短期留学		1			1	○			○				✓	1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	体育	体育講義 ※	1		1		1	●					✓			1. 4. 5. 6
		体育実技	1		1		1	●						✓		1. 3. 4. 6. 8
		英語コミュニケーションⅠ	1		1		1	●						✓		5
	語学	英語コミュニケーションⅡ	1		1		1		●					✓		5
		情報機器操作入門		1	1		1	●						✓		4. 7
	情報	情報機器操作応用		1	1		1					●		✓		4. 7
小計（13科目）		6	10	8		4	11	-		-					-	
専門教育科目	基礎技能科目	保育の環境（音楽表現）	1		1		1	●	●					✓		1. 2. 4. 5. 6. 7
		器楽（基礎）	1		1		1	●	●					✓		1. 2. 4. 5. 6. 7
		声楽 ※		1	1	1	1			●	●			✓		1. 2. 4. 5. 6. 7. 8
		器楽（応用）		1	1	1	1			●	●			✓		1. 2. 4. 5. 6. 7
		保育の環境（造形表現）	1		1		1		●					✓		1. 2. 3. 4
		基礎造形	1		1		1	●						✓		1. 2. 4. 8
		保育の環境（身体表現）	1		1		1		●					✓		1. 2. 3. 4. 6
		幼児体育	1		1		1					●		✓		1. 3. 4. 5. 6. 8
		保育の環境（言語表現）	1		1		1	●						✓		2. 4. 6. 7
	小計（9科目）	7	2	8	1	4	5	-		-					-	
	基礎理論科目	教育原理	2		2		2		●				✓			1. 4. 5. 6
		保育原理	2		2		2				●		✓			1. 3. 5. 6. 8
		子ども家庭福祉		2			2				●		✓			1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
社会福祉			2			2	●					✓			1. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
子ども家庭支援論			2			2					●	✓			1. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
社会的養護Ⅰ			2			2	●					✓			1. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
保育・教職論			2	2		2	●					✓			3. 4. 6. 7. 8	
特別支援の理解と方法		1		1						●			✓		1. 3. 4. 6. 7. 8	
小計（8科目）	5	10	7		14		-		-					-		

必修科目6単位及び選択科目2単位以上修得すること

★参照

		卒業単位		幼稚園教諭		保育士		1年		2年		授業形態			特記事項	学習成果	
科目区分	授業科目の名称	必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	講義	演習・実技	実験・実習			
専門教育科目	保育の内容・方法	保育の計画と評価		2			2				●		✓			1. 3. 7	
		保育内容総論	1		1		1					●		✓			1. 2. 7. 8
		幼児と健康	1		1		1			●				✓			1. 2. 3. 4. 6
		幼児と環境	1		1		1				●			✓			1. 2. 4. 6. 7
		幼児と言葉	1		1		1			●				✓			2. 4. 6
		幼児と表現	1		1		1			●				✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8
		健康指導法	1		1		1				●			✓			1. 2. 3. 4. 7
		人間関係指導法	1		1		1			●				✓			1. 2. 3. 4. 5. 6
		環境指導法	1		1		1					●		✓			1. 2. 4. 6. 7
		言葉指導法	1		1		1					●		✓			2. 4. 6
		表現活動指導法(リミック)	1		1		1					●		✓			1. 2. 3. 4. 6. 8
		器楽合奏		1		1		1				○		✓			1. 2. 4. 6. 8
		表現活動指導法(創作活動)Ⅰ		1	1			1				●		✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8
		表現活動指導法(創作活動)Ⅱ		1	1			1					●	✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8
		保育教材演習(エプロンシアター)		1		1					○			✓			1. 2. 4
		保育教材演習(紙芝居・絵本)		1		1						○		✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7
		教育課程と教育方法	1		1					●				✓			1. 2. 7
		社会的養護Ⅱ		1				1					●	✓			1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
		子育て支援		1				1					●	✓			1. 3. 5. 6
		乳児保育Ⅰ		2				2		●				✓			1. 3. 4
		乳児保育Ⅱ		1				1			●			✓			1. 3. 4. 6
		子どもの健康と安全		1				1			●			✓			1. 3. 4. 8
		障害児保育Ⅰ		1				1		●				✓			1. 3. 7
		障害児保育Ⅱ		1				1			●			✓			1. 3. 7
		幼児理解	2		2			2		●				✓			1. 2. 3
	小計(25科目)	13	15	15	3	16	9		-		-		-			-	
	保育の対象・理解	発達心理学	2		2		2		●				✓				1. 3. 4. 6. 7
		子ども家庭支援の心理学		2			2			●			✓				1. 3. 4. 5. 7
		子どもの理解と援助		1			1				●			✓			1. 3. 4. 6. 8
		教育相談論		2	2							●	✓				1. 3. 4. 7. 8
		子どもの保健		2			2		●				✓				1. 3. 4. 8
		子どもの健康と運動		1		1		1			○			✓			1. 2
		子どもの食と栄養		2			2		●	●				✓			2. 6
		小計(7科目)	2	10	4	1	9	1		-		-		-			-
		保育教育実践演習	2		2		2						●	✓			1. 3. 4. 5. 7. 8. 9
	小計(1科目)	2		2		2			-		-		-			-	
	教育・保育実習	教育実習(5単位)							1年後期及び2年後期						✓	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
		教育実習事前事後の指導1年※			5				●	●						✓	1. 7. 8
		教育実習事前事後の指導2年※									●	●				✓	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8
		保育実習Ⅰ(保育所)(2単位)					2			●					✓		1. 5. 7. 8
		保育実習Ⅰ(施設)(2単位)					2				●				✓		1. 5. 7. 8
		保育実習指導Ⅰ(2単位)					2		●	●				✓			1. 5. 7. 8
		保育実習Ⅱ(2単位)					2					▲			✓		1. 5. 7. 8
		保育実習指導Ⅱ(1単位)					1					▲			✓		1. 5. 7. 8
		保育実習Ⅲ(2単位)					2					▲			✓		1. 5. 7. 8
保育実習指導Ⅲ(1単位)						1					▲			✓		1. 5. 7. 8	
小計(8科目)		17	5		9			-		-		-			-		
ゼミナール	ゼミナール		2			2				○	○		✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
	小計(2科目)		2			2		-		-		-				-	
		35	66	48	5	58	27	-		-		-				-	

★参照

ナンバリング（保育学科科目コード表）

A A B C D E E E F F F

①

②

③

④

⑤

⑥

① 科目区分

教養教育科目 教養科目	11
教養教育科目 体育	12
教養教育科目 語学	13
教養教育科目 情報	14
専門教育科目 基礎技能科目	21
専門教育科目 基礎理論科目	22
専門教育科目 保育の内容・方法	23
専門教育科目 保育の対象・理解	24
専門教育科目 保育教育実践演習	25
専門教育科目 教育・保育実習	26
専門教育科目 ゼミナール	27

② 卒業必修

必修	1
その他	0

③ 幼稚園教諭 2 種免許状取得

必修	1
選択必修	2
その他	0

④ 保育士資格取得

必修	1
選択必修	2
その他	0

⑤ 保育学科通し番号

保育学科コード番号 1 を先頭にした 3 桁

⑥ 開講時期

1 年通年	10
1 年前期	11
1 年後期	12
2 年通年	20
2 年前期	21
2 年後期	22
1・2 年	13

保育学科科目コード一覧表

キャリア教育	1110210110
法学(日本国憲法)	1101210212
心理学	1100210312
公務員試験対策講座	1100010412
ソルフェージュ	1100210511
障害者スポーツ	1100210611
海外幼児教育短期留学	1100210711
体育講義	1211110811
体育実技	1211110912
英語コミュニケーションⅠ	1311111011
英語コミュニケーションⅡ	1311111112
情報機器操作入門	1401211211
情報機器操作応用	1401211322
保育の環境(音楽表現)	2111111410
器楽(基礎)	2111211510
声楽	2102211620
器楽(応用)	2102211720
保育の環境(造形表現)	2111111812
基礎造形	2111211911
保育の環境(身体表現)	2111112012
幼児体育	2111212122
保育の環境(言語表現)	2111112211
教育原理	2211112312
保育原理	2211112421
子ども家庭福祉	2200112521
社会福祉	2200112611
子ども家庭支援論	2200112722
社会的養護Ⅰ	2200112811
保育・教職論	2201112911
特別支援の理解と方法	2211013021
保育の計画と評価	2300113121
保育内容総論	2311113222
幼児と健康	2311213312
幼児と環境	2311213421
幼児と言葉	2311213512
幼児と表現	2311213612

健康指導法	2311113721
人間関係指導法	2311113812
環境指導法	2311113922
言葉指導法	2311114021
表現活動指導法(リミック)	2311114121
器楽合奏	2300214221
表現活動指導法(創作活動)Ⅰ	2301214321
表現活動指導法(創作活動)Ⅱ	2301214422
保育教材演習(エプロンシアター)	2300014512
保育教材演習(紙芝居・絵本)	2300014621
教育課程と教育方法	2311014711
社会的養護Ⅱ	2300114822
子育て支援	2300114922
乳児保育Ⅰ	2300115011
乳児保育Ⅱ	2300115112
子どもの健康と安全	2300115212
障害児保育Ⅰ	2300115311
障害児保育Ⅱ	2300115412
幼児理解	2311215511
発達心理学	2411115611
子ども家庭支援の心理学	2400115712
子どもの理解と援助	2400115821
教育相談論	2401015922
子どもの保健	2400116011
子どもの健康と運動	2400216112
子どもの食と栄養	2400116210
保育教育実践演習	2511116322
教育実習	2601016413
保育実習Ⅰ(保育所)	2600116512
保育実習Ⅰ(施設)	2600116621
保育実習指導Ⅰ	2600116710
保育実習Ⅱ	2600216821
保育実習指導Ⅱ	2600216921
保育実習Ⅲ	2600217021
保育実習指導Ⅲ	2600217121
ゼミナール	2700217220

2026年度 貞静学園短期大学保育学科シラバス

補足資料

実務経験のある教員等による授業科目の配置

科目名称	単位	開講 学年	担当教員		授業内容
表現活動指導法(創作活動)Ⅰ 表現活動指導法(創作活動)Ⅱ	1 1	2年	別府 浩実	特任 教授	絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。
言葉指導法	1	2年	山本 伸一	准教授	幼稚園教員養成課程を卒業し、幼稚園並びに小学校教諭として長年勤務してきた。その間に大学院において学校教育を専攻し、研鑽を積み、小学校並びに幼稚園教諭専修免許状を取得している。その経験を生かして、領域言葉の指導法について実践的に教授する。
子育て支援	2	2年	村上 悦子	講師	保育園での30年以上にわたる勤務経験を活かし、現状の支援制度と共に実践現場での具体的事例を交えながら、支援の実際について等を教授する。
保育実習指導Ⅱ	1	2年	村上 悦子	講師	保育園での30年以上にわたる勤務経験を活かし、実践現場での多様な具体的事例を交えながら、実習のための事前事後指導を実践的に行う。

単位数合計

6

保育学科

※必要に応じて Teams 等を利用した遠隔授業を実施する場合があります。

授業科目名：1100210711 海外幼児教育短期留学（選択） 2年前期	必修：	単位数： 1単位	担当教員名：桑原章寧・岩井幸博 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【到達目標】			
1. オーストラリアの語学学校に短期留学することにより、英語の読む・聞く・話すスキルの上達と、実際の生活の中で英会話を実践することにより、英語のコミュニケーションスキルを身につける。			
2. 保育に関する特別講義と託児所や小学校の見学・文化研修に関する演習を行うことにより、オーストラリアの保育現場の理解を深める。			
【テーマ】			
1. 海外留学を通じて幼児教育の視野を広げ、多文化理解を深める。			
授業の概要：			
1. 出発前の事前指導において、渡航の準備、海外での生活や多文化理解について学ぶ。			
2. 提携校のプログラムに参加することにより、英語研修とオーストラリアの幼児教育について総合的に学ぶ。託児所等の訪問やホームステイなどを体験的に学ぶ。			
3. 帰国後の事後指導において、振り返りを行うことにより、英語学習とオーストラリアの幼児教育に関する理解の定着とグローバルな視点を養う。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	出発前の事前指導①：オーストラリア研修の概要を把握する。小テストを実施する。	オーストラリアについて下調べをする。（60分）	
第2回	出発前の事前指導②：多文化社会における保育・幼児教育について理解する。小テストのフィードバックをする。	オーストラリアの保育・幼児教育について下調べをする。（60分）	
第3回	オリエンテーション：短期留学における研修目的と日程、及び研修内容の確認、インターネットアクセスの設定、ホームステイなどの注意事項を確認する。	英語で自己紹介や日常動作を伝えられるように準備する。（60分）	
第4回	グリフィス大学にて、歓迎式とオリエンテーション、諸手続きの説明とIDカード用の写真撮影、キャンパスツアー		
第5回	午前：英語研修 午後：託児所訪問		
第6回	午前：英語研修 午後：特別講義「オーストラリアの幼児教育について」		
第7回	午前：英語研修 午後：英語研修		
第8回	午前：英語研修 午後：自由研修		
第9回	午前・午後：カランビン野生保護センター訪問（動物園）		
第10回	ホームステイ先の家族と自由行動		
第11回	午前：英語研修 午後：現地小学校訪問		
第12回	午前：LOGAN CITY SPECIAL SCHOOL 訪問 午後：アボリジニ文化研修		
第13回	午前：英語研修 午後：「オーストラリアの幼児教育について」		
第14回	帰国後の事後指導①：オーストラリア研修の振り返りを行い、英語研修・幼児教育に関する講義・託児所等訪問・ホームステイ体験に関する発表会を行い、講評する。	短期留学の経験を振り返り発表会の準備をする。（120分）	
第15回	帰国後の事後指導②：海外幼児教育短期留学の経験に基づ	オーストラリア短期留学を	

いてレポート作成・小テストを行う。 定期試験 現地研修終了時の試験成績、研修後の発表、レポート、小テストを定期試験とする。	テーマに、レポート作成の準備をする(90分)
フィードバックの方法 ：第2回に証テストのフィードバックを行う。	
テキスト ：なし(授業の中で、適宜資料を配布する)	
参考資料等 ：外務省～海外旅行のトラブル回避マニュアル～海外安全虎の巻 文部科学省「5分でわかる！留学安全対策動画 by トビタテ！留学 JAPAN https://www.youtube.com/watch?v=5OjDzu2ZlSg	
オープンな教育リソース ：	
学生に対する評価 ：1～3を総合して評価する 1. 事前指導における取り組みと準備学習 10% 2. 研修全日程の修了(修了した者に対して、提携校より修了証が授与される) 80% 3. 事後指導における発表、レポート、小テスト 10%	

授業科目名：1401211322 情報機器操作応用 2年後期	必修：幼	単位数： 1単位	担当教員名：岩井 幸博 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
学習成果該当番号：4. 7.			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】保育現場における ICT 実務に対応できるスキルを身につける。 【テーマ】 ①園務としてお知らせ、おたよりなどの文書を PC やスマホ、タブレット等で作成できるようになる。 ②園の情報発信（ショート動画、SNS 投稿、掲示・配布資料）を倫理的配慮込みで作成できる。 ③園で採用しているシステムに合わせて何が出来るかを理解し、運用上の注意点を説明できる。 ④多様な家庭（多言語、外国籍、ひとり親、障害・特性）に配慮した連絡・文書を作ることができる。 ⑤業務を効率化できる Web サービス、生成 AI、プログラミング (VBA やマクロの利用)、アプリなどによるデザインを学び、業務効率改善に役立てる。			
授業の概要：保育現場の ICT 業務全体像を把握し、Word、PowerPoint、Excel、生成 AI、Web サービス等を園業務に利活用する方法を学ぶ。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	情報機器操作入門の復習と保育現場の ICT 業務全体像の把握 ・パソコン基本操作の復習 ・スマホによる Word・PowerPoint 利用 ・園務データの種類（名簿・出欠・記録・請求・写真などのデータ）の確認	これまでに習得した Windows の操作方法を復習しておく (60分)。	
第 2回	Excel①名簿・出欠・印刷 入力・整形・印刷までの一連の流れを把握する ・名簿の作成 ・印刷設定 課題「園児名簿」を作成する	Excel 基本機能について下調べをする (60分)。	
第 3回	Excel②集計 毎月の集計や報告書の作成 ・基本関数（合計・平均・条件付き書式など） ・グラフの作成方法 課題「成長記録のグラフ」を作成する	Excel のグラフ機能について下調べをする (60分)。	
第 4回	Excel③条件付き書式・役立つ関数 条件付き書式、役立つ関数によるデータの活用と分析 ・間違えないためのデータ利用 ・役立つ関数を活用する 課題「アレルギー表と配布用シートの作成」	Excel の役立つ関数について下調べをする (60分)。	
第 5回	幼保実務文書作成① 文書・情報発信のユニバーサルデザイン ・やさしい日本語、ふりがな、ピクトグラム等のデザイン ・多様な家庭への配慮 課題「多様な家庭に伝わる文書作成 通常版・日本語版」	ユニバーサルデザインについて下調べをする (60分)。	
第 6回	幼保実務文書作成② 差し込み印刷の方法 ・Word と Excel のデータを用いて差し込み印刷の PDF ファイルを作成する 課題「差し込み印刷で名札作成」	差し込み印刷について下調べをする (60分)。	

第7回	<p>幼保実務文書作成③ PowerPointの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointでGIFアニメを作成する ・PowerPointで分岐する紙芝居を作成する <p>課題「アニメ・紙芝居を作成する」</p>	GIFアニメ・ページ内、外部リンクについて下調べをする(60分)。
第8回	<p>幼保実務文書作成④ アンケート作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Forms・Googleフォームなどの活用 ・アンケート機能を把握する ・保護者アンケート、園内研修用アンケート等を作成する <p>課題「アンケートを作成し、回答をフィードバックする」</p>	アンケート機能について下調べをする(60分)。
第9回	<p>園務アプリ概観 園で使用しているアプリ機能を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、お知らせ、投降園、検温・体調、出欠、写真販売、アンケート等の機能 ・現場運用でのミスについて <p>課題「園の1日の業務フロー図作成」</p>	園務アプリについて下調べをする(60分)。
第10回	<p>情報発信①アプリで園向けテンプレ制作(チラシ・お知らせ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンプレ選定、フォント、配色、写真の扱い ・多様な家庭向け やさしい日本語、ふりがな、二言語併記の作り方 <p>課題「園の行事案内通常版+やさしい日本語版」</p>	Canvaなどオンラインデザインツールについて下調べをする(60分)。
第11回	<p>情報発信②ショート動画(15~30秒)制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影→編集→字幕 ・顔出ししない撮影、手元・素材・イラスト活用 ・字幕(音なし視聴前提)、個人情報映り込まない編集 <p>課題「例えば親子運動遊び紹介動画(字幕つき・個人情報ゼロ)の作成」</p>	アプリでの動画作成について下調べをする(60分)。
第12回	<p>情報発信③SNS投稿の設計(配慮・運用ルール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用ルールを決めて投稿する ・配慮:特定家庭が不利益にならない表現、写真掲載同意、タイムリー連絡の限界 <p>課題「架空投稿の実践(画像・動画・テキスト)」</p>	SNS投稿について下調べをする(60分)。
第13回	<p>情報発信④ドキュメンテーションの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の様子をドキュメンテーションにする ・掲示、配信に対応させる <p>課題「ドキュメンテーションの作成」</p>	ドキュメンテーションについて下調べをする(60分)。
第14回	<p>成果物の発表</p> <p>課題「これまで作成したもの(Excel、Word、PowerPoint、SNS、アプリ等)をプレゼンテーションする」</p>	プレゼンの事前練習をする(60分)。
第15回	<p>振り返りとまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できることの確認 ・これからのICT学習計画を立てる 	これまでの成果物をポートフォリオとしてまとめしておく(60分)。
定期試験 最終課題を課し、締切までにファイル提出する。		
フィードバックの方法: フィードバックとして課題提出・採点後に優秀作品の掲示と解説を行う。		
テキスト: テキストは使用しない。教材は各回に配布する。		
参考書・参考資料等: 杉本くみ子(著)『30時間アカデミック Office2021』実教出版。		

mikimiki web school (著) 『Canva 使い方入門 (ENJOY DESIGN)』 ソシム。

オープンな教育リソース：

学生に対する評価：

演習課題（30％）：毎回の提出された課題を評価する。

受講態度（60％）：積極的な受講態度などを評価する。

最終課題（10％）：提出された課題を評価する。

授業科目名：2102211620 声楽 2年通年（前期）	必修：（卒）・（幼）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：津布楽 杏里 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 楽譜に親しみ楽譜上の決まり事を理解する。季節や行事などの歌を知り歌えるようにする。そして、子どもたちと歌を楽しむための指導法や声を合わせる楽しさを、演奏を通して体感する。 【テーマ】 楽譜を読めるようにする。多くの歌を知り、歌う楽しさを感じる。			
授業の概要： 楽譜（音符）の読み方、簡単な音楽記号や用語を理解する。わらべうた、唱歌、童謡、さらにその先の子どもの歌を歌い、様々な歌を演奏を通して味わう。そして、子どもたちと歌うために大切な事や指導法、指揮法などについても学んでいく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	<u>楽譜の読み方</u> (譜表・音部記号) <u>わらべうた、季節の歌</u> (わらべうた・春にふさわしい歌)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	
第2回	<u>楽譜の読み方</u> (階名・音名) <u>わらべうた、季節の歌</u> (わらべうた・春にふさわしい歌)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	
第3回	<u>楽譜の読み方</u> (変化記号・タイ・スラー) <u>わらべうた、季節の歌</u> (わらべうた・春にふさわしい歌)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	
第4回	<u>楽譜の読み方</u> (反復記号1リピート) <u>わらべうた、生活の歌</u> (わらべうた・生活の歌おはよう～おかえり)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	
第5回	<u>楽譜の読み方</u> (反復記号2D.C.、D.S.) <u>わらべうた、生活の歌</u> (わらべうた・生活の歌はみがき～あなたのお名前は)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	
第6回	<u>楽譜の読み方</u> (反復記号3コード記号、まとめ) <u>唱歌、季節の歌</u> (唱歌・夏にふさわしい歌)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	
第7回	<u>楽譜の読み方</u> (強弱記号、速度について) <u>唱歌、季節の歌</u> (唱歌・夏にふさわしい歌)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	
第8回	<u>楽譜の読み方</u> (音符) <u>唱歌、季節の歌</u> (唱歌・夏にふさわしい歌)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	
第9回	<u>楽譜の読み方</u> (休符) <u>童謡、動物の歌</u> (童謡・動物が出てくる歌)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	
第10回	<u>楽譜の読み方</u> (拍子)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)	

第11回	<u>童謡、動物の歌</u> (童謡・動物が出てくる歌) <u>楽譜の読み方</u> (指揮)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)
第12回	<u>童謡、動物の歌</u> (童謡・動物が出てくる歌) <u>楽譜の読み方</u> (音階)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)
第13回	<u>現場でよく歌われている歌</u> (新しい朝の歌など) <u>楽譜の読み方</u> (長調と短調)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)
第14回	<u>現場でよく歌われている歌</u> (アニメの歌、ジブリなど) <u>楽譜の読み方</u> (長三和音)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)
第15回	<u>現場でよく歌われている歌</u> (アニメの歌、ジブリなど) <u>楽譜の読み方</u> (短三和音)	授業内容についての事前学習及び復習をすること。(60分)
	<u>現場でよく歌われている歌</u> (これまでの復習)	
定期試験 歌の実技テスト(グループ)及び楽典のテストを実施。		
フィードバックの方法：毎回のプリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。		
テキスト：おんがくのしくみ(教育芸術社)、幼児の音楽教育(教育芸術社)		
参考書・参考資料等：その都度配付		
オープンな教育リソース： つぶあん・YouTube		
学生に対する評価：定期試験からの評価(25%)と授業に対する姿勢、演奏からの評価(50%)、準備学習として出された演奏課題に取り組んでいたかの評価(25%)を総合して評価する。		

授業科目名：2102211620 声楽 2年通年（後期）	必修：（卒）・（幼）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：津布楽 杏里 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】楽譜に親しみ楽譜上の決まり事を理解する。季節や行事などの歌を知り歌えるようにする。そして、子どもたちと歌を楽しむための指導法や声を合わせる楽しさを、演奏を通して体感する。 【テーマ】楽譜を読めるようにする。多くの歌を知り、歌う楽しさを感じる。			
授業の概要：楽譜（音符）の読み方、簡単な音楽記号や用語を理解する。わらべうた、唱歌、童謡、さらにその先の子どもの歌を歌い、様々な歌を演奏を通して味わう。そして、子どもたちと歌うために大切な事や指導法、指揮法などについても学んでいく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第16回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> これまで歌ってきた合唱曲や新しい歌を発表に向けて練習する。	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第17回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> これまで歌ってきた合唱曲や新しい歌を発表に向けて練習する。	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第18回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> これまで歌ってきた合唱曲や新しい歌を発表に向けて練習する。（指揮者・伴奏者の決定）	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第19回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> これまで歌ってきた合唱曲や新しい歌を発表に向けて練習する。（指揮者・伴奏者との合わせ）	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第20回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> これまで歌ってきた合唱曲や新しい歌を発表に向けて練習する。（指揮者・伴奏者との合わせ）	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第21回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> これまで歌ってきた合唱曲や新しい歌を発表に向けて練習する。（指揮者・伴奏者との合わせ）	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第22回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> これまで歌ってきた合唱曲や新しい歌を発表に向けて練習する。（指揮者・伴奏者との合わせ）	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第23回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> 保育現場の行事等で歌われている歌を練習し歌ってみる。	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第24回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> 保育現場の行事等で歌われている歌を練習し歌ってみる。	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第25回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> 卒園などの行事で歌われている歌を歌ってみる。	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第26回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> 卒園などの行事で歌われている歌を歌ってみる。	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第27回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> 卒園などの行事で歌われている歌を歌ってみる。	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第28回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> 卒園などの行事で歌われている歌を歌ってみる。	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第29回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u> 卒園などの行事で歌われている歌を歌ってみる。	授業内容についての事前学習及び復習をすること。（60分）	
第30回	<u>声を合わせる楽しさを感じよう</u>	授業内容についての事前学習	

卒園などの行事で歌われている歌を歌ってみる。 定期試験 歌の実技テスト（グループ）を実施。	及び復習をすること。（60分）
フィードバックの方法：毎回のプリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	
テキスト：おんがくのしくみ（教育芸術社）、幼児の音楽教育（教育芸術社）	
参考書・参考資料等： その都度配付	
オープンな教育リソース： つぶあん - YouTube	
学生に対する評価：定期試験からの評価(25%)と授業に対する姿勢、演奏からの評価(50%)、準備学習として出された演奏課題に取り組んでいたかの評価(25%)を総合して評価する。	

授業科目名：2102211720 器楽（応用） 2年通年	必修：（幼）	単位数： 1単位	担当教員名：津布楽 杏里、大村 新 担当形態：演習 分担																
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：その他の科目																		
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7																			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 幼児教育において、ピアノ伴奏は、子どもの表現を引き出し、高めるための重要な役割を担っている。本科目では、演奏を通して、ピアノに関する実践的な知識や技術を身につけ、保育の中で扱う教材の伴奏法や、その教材の展開に必要な知識を習得させることをねらいとする。具体的にはピアノ曲 2 曲以上、行進曲 2 曲以上、弾き歌い曲 20 曲以上が弾けること。そのためには日々の練習が重要である。 【テーマ】 幼稚園教育要領「表現」には「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」と示されている。このような子どもの活動を保障するために、弾き歌いの活動を通して、弾きながら歌うことに慣れ、初見の楽譜でも簡単な伴奏を付けて歌えるようにする。また自分が弾く歌だけでなく、他人の演奏から歌を知ることも大切である。さらに現場のさまざまな場面で弾かれる行進曲などの習得も目指す。																			
授業の概要： それぞれのレベルに応じた課題曲を演奏することで、演奏技能を高める。音楽用語や解釈について意見を発表し、よりよい奏法について考える。さまざまなテキストを用い多くの楽曲に触れ、豊かな音楽性を養う。また現場を想定して、実際に歌われている曲の演奏方法を習得する。グループレッスン（コロナ感染状況により変更有）の授業形態をとることで、他人の演奏から相互に学び高め合う効果も期待できる。																			
授業計画： <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">回数</th> <th style="width:60%;">内容</th> <th style="width:30%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回 ～ 第 5回</td> <td><u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 楽譜に書かれている通りの演奏を目指す。何よりも指使いに留意する。その他、強弱やフレージングも正確に弾き分けること。弾き歌い曲は生活の歌を中心に多くの曲を知り演奏する。</td> <td rowspan="10">準備学習として毎回課題として出される曲を次回レッスンまでに練習し、授業に臨むこと。その際、楽譜に書かれている音楽用語等についても調べること。レッスン後は学習した演奏法、注意された箇所の復習及び習得を目指すこと。知らない楽曲についてはCD等を活用し、事前に曲を知ること。 (60分程度)それが練習を行う意欲につながる。</td> </tr> <tr> <td>第 6回 ～ 第10回</td> <td><u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 任意の楽曲について、その背景を知る。作曲家、作曲年代等から楽曲の特徴を考察する。弾き歌い曲は広く知られている歌を中心に、季節も考慮して選曲していく。</td> </tr> <tr> <td>第11回 ～ 第15回</td> <td><u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 任意の楽曲における様々な音型からイメージできる内容について考察する。演奏曲の題名から楽曲の雰囲気想像し演奏に結びつける。弾き歌い曲は教育実習で弾く曲を中心に演奏する。</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>課題曲：弾き歌い曲：2曲、行進曲：1曲 全3曲</td> </tr> <tr> <td>第16回 ～ 第20回</td> <td><u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 楽譜には明確に書かれていない強弱、テンポの揺れを意識しながら演奏する。弾き歌い曲は教育実習で弾く曲を、現場を想定しながら演奏する。園生活の弾き歌い曲について、一日の流れを把握して演奏する。</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td><u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u></td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第 1回 ～ 第 5回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 楽譜に書かれている通りの演奏を目指す。何よりも指使いに留意する。その他、強弱やフレージングも正確に弾き分けること。弾き歌い曲は生活の歌を中心に多くの曲を知り演奏する。	準備学習として毎回課題として出される曲を次回レッスンまでに練習し、授業に臨むこと。その際、楽譜に書かれている音楽用語等についても調べること。レッスン後は学習した演奏法、注意された箇所の復習及び習得を目指すこと。知らない楽曲についてはCD等を活用し、事前に曲を知ること。 (60分程度)それが練習を行う意欲につながる。	第 6回 ～ 第10回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 任意の楽曲について、その背景を知る。作曲家、作曲年代等から楽曲の特徴を考察する。弾き歌い曲は広く知られている歌を中心に、季節も考慮して選曲していく。	第11回 ～ 第15回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 任意の楽曲における様々な音型からイメージできる内容について考察する。演奏曲の題名から楽曲の雰囲気想像し演奏に結びつける。弾き歌い曲は教育実習で弾く曲を中心に演奏する。	定期試験	課題曲：弾き歌い曲：2曲、行進曲：1曲 全3曲	第16回 ～ 第20回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 楽譜には明確に書かれていない強弱、テンポの揺れを意識しながら演奏する。弾き歌い曲は教育実習で弾く曲を、現場を想定しながら演奏する。園生活の弾き歌い曲について、一日の流れを把握して演奏する。	第21回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u>
回数	内容	準備学習																	
第 1回 ～ 第 5回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 楽譜に書かれている通りの演奏を目指す。何よりも指使いに留意する。その他、強弱やフレージングも正確に弾き分けること。弾き歌い曲は生活の歌を中心に多くの曲を知り演奏する。	準備学習として毎回課題として出される曲を次回レッスンまでに練習し、授業に臨むこと。その際、楽譜に書かれている音楽用語等についても調べること。レッスン後は学習した演奏法、注意された箇所の復習及び習得を目指すこと。知らない楽曲についてはCD等を活用し、事前に曲を知ること。 (60分程度)それが練習を行う意欲につながる。																	
第 6回 ～ 第10回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 任意の楽曲について、その背景を知る。作曲家、作曲年代等から楽曲の特徴を考察する。弾き歌い曲は広く知られている歌を中心に、季節も考慮して選曲していく。																		
第11回 ～ 第15回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 任意の楽曲における様々な音型からイメージできる内容について考察する。演奏曲の題名から楽曲の雰囲気想像し演奏に結びつける。弾き歌い曲は教育実習で弾く曲を中心に演奏する。																		
定期試験	課題曲：弾き歌い曲：2曲、行進曲：1曲 全3曲																		
第16回 ～ 第20回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 楽譜には明確に書かれていない強弱、テンポの揺れを意識しながら演奏する。弾き歌い曲は教育実習で弾く曲を、現場を想定しながら演奏する。園生活の弾き歌い曲について、一日の流れを把握して演奏する。																		
第21回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u>																		

～ 第25回	楽譜に指示されていることを踏まえ、自らの解釈も大切に演奏を構築する。弾き歌い曲は教育実習から学んだことを活かして選曲及び演奏をする。季節も考慮して選曲する。
第26回 ～ 第30回	個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲） 子どもにも広く知られている楽曲を演奏する。ペダルの使い方を再考し、効果的な使用法を迫る。弾き歌い曲は知らない歌を中心に選曲する。知らない曲を演奏することで、楽譜から音楽を読みとる力を養う。あらゆるジャンルの歌について抵抗感をなくす。
定期試験	課題曲：弾き歌い曲：2曲、行進曲：1曲 全3曲
フィードバックの方法：毎回の授業で、前回授業中に実践した奏法等の定着を確認する。	
テキスト：『弾き歌いピアノ曲集』（ドレミ楽譜出版社）、『幼児のための音楽教育』（教育芸術社）、『ブルグミュラー 25の練習曲』（全音楽譜出版社）等	
参考書・参考資料等：ソナチネアルバム、ソナタアルバム、『幼稚園教育要領解説』等	
オープンな教育リソース： つぶあん - YouTube	
学生に対する評価：年間でピアノ曲2曲、弾き歌い曲20曲以上、行進曲2曲を行うこと。試験曲は弾き歌い曲を2曲、行進曲を1曲の全3曲とする。試験はすべて暗譜で行い、グループごとにレッスン担当教員が評価する。定期試験（前期・後期）の結果、授業までの取り組み（準備学習実施状況）、授業態度及び意欲を総合的に評価する。	
定期試験：50%、授業までの取り組みと授業での実技、態度及び意欲：50%	

授業科目名：2111212122 幼児体育 2年後期	必修：卒・幼・(保)	単位数： 1単位	担当教員名：岩井 幸博 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ・乳幼児期に経験すべき基本的な動作を説明することができる。 ・様々な幼児ダンスや運動遊びを指導することができる。 ・伝承遊びや遊具を使った遊びを指導することができる。 【テーマ】 乳幼児期に経験すべき基本的な運動動作を多種多様な幼児ダンス、運動遊び、伝承遊び、遊具を用いた遊び等の中で経験し、さらに子どもに対する指導法、援助法を身につける。			
授業の概要： 運動遊びや幼児ダンスの知識や技術を発表しあい、共有する。学生は2～3名のグループに分かれ、幼児ダンス・運動遊びの模擬授業を行う。その際、幼児ダンス振付の図や運動遊びのルールなどが記載された資料を作成し、配布する。発表を通して、運動場面の設定の仕方、指導法や補助法を学ぶ。幼児ダンスや運動遊びによってどのような運動動作や感覚を経験できるか、何が育つかを考える。 また、伝承遊びやいろいろな素材を使った遊具の遊び等を体験し、幼児への運動指導法、補助法を実践する。さらに授業内容をノートに記録し、現場に出てからの指導書として使用できるように作成する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	ガイダンス（授業の進め方、発表・資料作成・ノート作成についての説明） ・幼児ダンス『ゴリラのゴリちゃん』を踊る ・幼児ダンス・運動遊び発表グループと日程の決定	幼児ダンスや運動遊びについて予習しておく（60分）	
第2回	幼児ダンス・運動遊びの紹介・伝承遊び『独楽回し』 ・前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス『しりとろうた』を踊る ・運動遊び『ジャンケン系のゲーム』を行う ・伝承遊び『独楽回し』ひもの巻き方、こまの持ち方、投げ方を習得する	前回幼児ダンスの振りを復習する。こま回しのひもの巻き方や投げ方を調べる（60分）	
第3回	幼児ダンス・運動遊び発表①・伝承遊び『けん玉』 ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表① グループ発表を行う ・伝承遊び『けん玉』持ち方・遊び方を理解し、技を習得する	前回幼児ダンスの振りを復習する。こま回しの歴史や起源を調べる（60分）	
第4回	幼児ダンス・運動遊び発表②・伝承遊び『皿回し』 ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表② グループ発表を行う ・伝承遊び『皿回し』微細な手の使い方を体験する	前回幼児ダンスの振りを復習する。けん玉の歴史や起源を調べる（60分）	
第5回	幼児ダンス・運動遊び発表③・伝承遊び『竹馬』 ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表③ グループ発表を行う ・伝承遊び『竹馬』竹馬の乗り方、補助の仕方を学ぶ	前回幼児ダンスの振りを復習する。皿回しについて調べる（60分）	
第6回	幼児ダンス・運動遊び発表④・『鉄棒』を使った遊び① ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表④ グループ発表を行う ・『鉄棒』を使った遊び① 鉄棒の設置の仕方、遊びの種類、補助方法を学ぶ	前回幼児ダンスの振りを復習する。竹馬について調べる（60分）	

第7回	<p>幼児ダンス・運動遊び発表⑤・『鉄棒』を使った遊び②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑤ グループ発表を行う ・『鉄棒』を使った遊び② <p>遊びの種類、補助方法を学ぶ</p>	<p>前回幼児ダンスの振りを復習する。鉄棒の遊び方や技について調べる (60分)</p>
第8回	<p>幼児ダンス・運動遊び発表⑥・『スラックライン』①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑥ グループ発表を行う ・『スラックライン』① <p>設置、補助法を学び、バランス遊びを体験する</p>	<p>前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)</p>
第9回	<p>幼児ダンス・運動遊び発表⑦・『スラックライン』②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑦ グループ発表を行う ・『スラックライン』② <p>バランス遊びを通して、バランス感覚を養う補助法を習得する</p>	<p>前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)</p>
第10回	<p>幼児ダンス・運動遊び発表⑧・『跳び箱』を使った遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑧ グループ発表を行う ・『跳び箱』を使った遊び <p>設置方法、安全面の確保について理解する。跳び箱を使った様々な遊びを体験する。</p>	<p>前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)</p>
第11回	<p>幼児ダンス・運動遊び発表⑨・『マット』を使った遊び①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑨ グループ発表を行う ・『マット』を使った遊び① <p>マットを用いて基本的な動作を含んだ遊びを体験する</p>	<p>前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)</p>
第12回	<p>幼児ダンス・運動遊び発表⑩・『マット』を使った遊び②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑩ グループ発表を行う ・『マット』を使った遊び② <p>マットを用いて基本的な動作を含んだ遊びを体験する</p>	<p>前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)</p>
第13回	<p>幼児ダンス・運動遊び発表⑪・『ボール』を使った遊び①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑪ グループ発表を行う ・『ボール』を使った遊び① <p>様々な種類のボールを使って、投げる、捕る、蹴るなどの遊びを学ぶ</p>	<p>前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)</p>
第14回	<p>幼児ダンスメドレー・『ボール』を使った遊び②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・今まで踊った幼児ダンスのメドレーを踊る ・『ボール』を使った遊び② <p>様々な種類のボールと他の遊具を組み合わせた遊びを考え、実践する</p>	<p>前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)</p>
第15回	<p>授業の振り返りとまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りとまとめ ・幼児ダンス、運動あそびノート提出日の指定 	<p>幼児ダンス、運動遊びの資料の確認、ノート作成をすすめる (60分)</p>
定期試験	<p>定期試験期間中に各授業で配布したプリント、課題等の達成度、感想等を記載したノート（ファイル）の提出日を設け、提出することを定期試験とする。</p>	
<p>フィードバックの方法：各回で発表した幼児ダンス、運動遊びについて発表後すぐにフィードバックを行う。具体的には学生同士の相互評価として良かった点、改善点などの意見を述べる時間を設け、かつ教員から良かった点、改善点などをコメントする。ノートは内容の評価し、コメントを付して返却する。</p>		

ICT活用について：学生同士の相互評価は双方向型としてMicrosoft Teamsを活用する。自主学習支援として幼児ダンス、運動遊びの様子は映像で記録し、学生が視聴できるようにMicrosoft streamで公開する。幼児ダンスの振りの確認、運動遊びのルール確認など実施した様子から振り返りを各自が行う。

遠隔授業の場合：状況によっては遠隔授業に切り替える場合がある。Microsoft Teamsを使用して、リアルタイムまたはオンデマンド型で実施する。

テキスト：

- ・授業発表者がプリントを作成し、発表する。
- ・授業内容に関するプリントを適宜配布する。

参考書・参考資料等：

- ・『0歳からはじめるうごきづくり』太田昌秀・豊田泰代・久保景子著，幻冬舎ルネッサンス，2008.
- ・『身体表現遊びプレイソング2』田中（賀来）良江・豊田泰代，チャイルド本社，2005.
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省
- ・『保育所保育指針解説』厚生労働省
- ・『幼児期運動指針』文部科学省

発表資料作成にあたって（幼児ダンス、運動遊びの参考図書及び音楽CDについて）

- ・本学図書館の資料を利用する
- ・居住地にある図書館を利用する
- ・インターネットで手に入る資料を利用する

オープンな教育リソース：

学生に対する評価：

- ・授業に取り組む姿勢、態度、仲間への補助や指導の実施等の評価（20％）：観察によって評価する
- ・実技課題の習熟度の評価（20％）：観察によって評価する
- ・幼児ダンス・運動遊びの発表の評価（30％）：資料作成と配布、発表の準備、内容等を学生の相互評価および教員による評価より総合的に判断する
- ・ノート（ファイル）提出の評価（30％）：授業内容に関するノート（ファイル）を作成し、提出する。配布プリントの貼付、授業内容と感想、課題の到達度の記述、現場で活用できるノートとして作成されているかなどを評価する

授業科目名：2211112421 保育原理 2年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：姜 華 担当形態：講義 単独																											
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎理論科目 幼：大学が独自に設定する科目 保：保育の本質・目的に関する科目 保育原理																													
学習成果該当番号：1. 3. 5. 6. 8																														
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ①保育の意義及び目的を理解する。②保育に関わる法令や制度を理解する。③保育の歴史・思想の歴史と現代論の特質を理解する。④保育所保育指針における保育の基本を理解する。 【テーマ】 保育所保育を中心に、その原理・制度・歴史・方法などがテーマとなる。																														
授業の概要： 近年、保育士の役割は多様になっている。本授業は「保育とは何か」といった疑問から、保育の歴史・制度・保育内容などの知識を習得し、その中で保育の意義、原理、原則を理解していく。また、現代家族を概観し、保育所の社会的役割、保育ニーズ、健やかな子どもの成長を育む保育について検討する。さらに保育計画や評価の方法などを通して、保育所の実際を学んでいく。																														
授業計画： <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">回数</th> <th style="width:60%;">内容</th> <th style="width:30%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回</td> <td><u>「保育」とはなにか</u> 保育の概念、保育の社会的役割と責任、保育の対象、子どもの最善の利益について理解する。</td> <td>『保育所保育指針解説』の目次を通読 (60分)</td> </tr> <tr> <td>第 2回</td> <td><u>保育の歴史に学ぶ (西洋)</u> 中世から近代にかけての子どもの捉え方、近代における子どもの発見、代表的な近代西欧保育思想とその変遷について理解する</td> <td>『保育所保育指針解説』序章の通読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第 3回</td> <td><u>保育の歴史に学ぶ (日本)</u> 代表的な保育思想・保育施設の歴史とその変遷について理解する。</td> <td>第2回配布資料の通読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第 4回</td> <td><u>保育と子ども理解</u> 子ども理解・カウンセリングマインド・子どもを見るまなざし・子どもの発達の見え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領における発達の捉え方を理解する。</td> <td>第3回配布資料の通読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第 5回</td> <td><u>子どもを取り巻く環境の変化</u> 家庭環境・社会環境の変化、保護者の子育て意識の変化 保育のニーズの多様化について考える。保育所保育指針と幼稚園教育要領の改訂の変遷を概観し、現在に至った経緯を理解する。</td> <td>『保育所保育指針解説』p.328-332の通読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第 6回</td> <td><u>保育の内容① 環境を通しての保育</u> 環境による保育(保育所保育指針・幼稚園教育要領における環境の捉え方)、物的環境に込められた保育者の願い、人的環境としての保育者、環境構成について、メディアと環境との関係について考える。</td> <td>『保育所保育指針解説』p.13-29の通読 (60分)</td> </tr> <tr> <td>第 7回</td> <td><u>保育の内容② 養護と教育の一体</u> 保育における用語と教育の一体について学び、保育実践における保育者の役割について保育事例を通して学び、他者と考えを共有する。</td> <td>『保育所保育指針解説』p.30-38の通読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第 8回</td> <td><u>保育の方法・形態</u> 「保育内容」の根拠と実際の保育内容、ねらい・内容・領域の捉え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領の構成と特徴を理解する。 保育方法の原理、保育の形態(自由保育と一斉保育・設定保育・チーム保育・コーナー保育・統合保育。多文化共生保育・異年齢保育・担当制保育等)と子どもの活動、遊びによる総合的な指導について考える。</td> <td>『保育所保育指針解説』第2章の通読(60分)</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第 1回	<u>「保育」とはなにか</u> 保育の概念、保育の社会的役割と責任、保育の対象、子どもの最善の利益について理解する。	『保育所保育指針解説』の目次を通読 (60分)	第 2回	<u>保育の歴史に学ぶ (西洋)</u> 中世から近代にかけての子どもの捉え方、近代における子どもの発見、代表的な近代西欧保育思想とその変遷について理解する	『保育所保育指針解説』序章の通読(60分)	第 3回	<u>保育の歴史に学ぶ (日本)</u> 代表的な保育思想・保育施設の歴史とその変遷について理解する。	第2回配布資料の通読(60分)	第 4回	<u>保育と子ども理解</u> 子ども理解・カウンセリングマインド・子どもを見るまなざし・子どもの発達の見え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領における発達の捉え方を理解する。	第3回配布資料の通読(60分)	第 5回	<u>子どもを取り巻く環境の変化</u> 家庭環境・社会環境の変化、保護者の子育て意識の変化 保育のニーズの多様化について考える。保育所保育指針と幼稚園教育要領の改訂の変遷を概観し、現在に至った経緯を理解する。	『保育所保育指針解説』p.328-332の通読(60分)	第 6回	<u>保育の内容① 環境を通しての保育</u> 環境による保育(保育所保育指針・幼稚園教育要領における環境の捉え方)、物的環境に込められた保育者の願い、人的環境としての保育者、環境構成について、メディアと環境との関係について考える。	『保育所保育指針解説』p.13-29の通読 (60分)	第 7回	<u>保育の内容② 養護と教育の一体</u> 保育における用語と教育の一体について学び、保育実践における保育者の役割について保育事例を通して学び、他者と考えを共有する。	『保育所保育指針解説』p.30-38の通読(60分)	第 8回	<u>保育の方法・形態</u> 「保育内容」の根拠と実際の保育内容、ねらい・内容・領域の捉え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領の構成と特徴を理解する。 保育方法の原理、保育の形態(自由保育と一斉保育・設定保育・チーム保育・コーナー保育・統合保育。多文化共生保育・異年齢保育・担当制保育等)と子どもの活動、遊びによる総合的な指導について考える。	『保育所保育指針解説』第2章の通読(60分)
回数	内容	準備学習																												
第 1回	<u>「保育」とはなにか</u> 保育の概念、保育の社会的役割と責任、保育の対象、子どもの最善の利益について理解する。	『保育所保育指針解説』の目次を通読 (60分)																												
第 2回	<u>保育の歴史に学ぶ (西洋)</u> 中世から近代にかけての子どもの捉え方、近代における子どもの発見、代表的な近代西欧保育思想とその変遷について理解する	『保育所保育指針解説』序章の通読(60分)																												
第 3回	<u>保育の歴史に学ぶ (日本)</u> 代表的な保育思想・保育施設の歴史とその変遷について理解する。	第2回配布資料の通読(60分)																												
第 4回	<u>保育と子ども理解</u> 子ども理解・カウンセリングマインド・子どもを見るまなざし・子どもの発達の見え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領における発達の捉え方を理解する。	第3回配布資料の通読(60分)																												
第 5回	<u>子どもを取り巻く環境の変化</u> 家庭環境・社会環境の変化、保護者の子育て意識の変化 保育のニーズの多様化について考える。保育所保育指針と幼稚園教育要領の改訂の変遷を概観し、現在に至った経緯を理解する。	『保育所保育指針解説』p.328-332の通読(60分)																												
第 6回	<u>保育の内容① 環境を通しての保育</u> 環境による保育(保育所保育指針・幼稚園教育要領における環境の捉え方)、物的環境に込められた保育者の願い、人的環境としての保育者、環境構成について、メディアと環境との関係について考える。	『保育所保育指針解説』p.13-29の通読 (60分)																												
第 7回	<u>保育の内容② 養護と教育の一体</u> 保育における用語と教育の一体について学び、保育実践における保育者の役割について保育事例を通して学び、他者と考えを共有する。	『保育所保育指針解説』p.30-38の通読(60分)																												
第 8回	<u>保育の方法・形態</u> 「保育内容」の根拠と実際の保育内容、ねらい・内容・領域の捉え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領の構成と特徴を理解する。 保育方法の原理、保育の形態(自由保育と一斉保育・設定保育・チーム保育・コーナー保育・統合保育。多文化共生保育・異年齢保育・担当制保育等)と子どもの活動、遊びによる総合的な指導について考える。	『保育所保育指針解説』第2章の通読(60分)																												

第9回	<u>保育の計画と評価</u> 保育における計画と実践の原理、実践から計画、改善などの必要性を検討する。保育の記録と評価、循環する保育実践とカリキュラム・マネジメント、苦情解決の原則と仕組みを学ぶ。	『保育所保育指針解説』 p.38-59の通読(60分)
第10回	<u>保育と子育て支援</u> 子育て支援の背景、子育て支援センターとしての保育所・幼稚園の役割を理解する。相談援助者としての保育者のあり方・最新の保育制度について学ぶ。 課題：地元の子育て支援センターについて調べる	『保育所保育指針解説』 第4章の通読(60分)
第11回	<u>健康・安全と乳児保育</u> 安全教育・防災教育等危機管理全般に関すること、保育における子どもの健康と安全について保育事故事例等から学び、保育におけるリスクマネジメントや多職種連携について考える。 課題：身近な危険について調べてくる	第10回の課題作成(60分)
第12回	<u>多様な子どもの理解と保育</u> 虐待対応の基本、配慮を要する子どもへの対応、集団生活の中での障がいのある子どもの保育について理解する	第11回の課題作成(60分)
第13回	<u>保育者の専門性と資質向上</u> 保育者の倫理観・子どもの人権・プライバシーの保護、保育者の専門性を考える。保育の質の向上を目指し、保育の評価と保育者の研修について検討する。	『保育所保育指針解説』 第5章の通読(60分)
第14回	<u>家庭・小学校・地域との連携</u> 家庭との連携の必要性と連携の方法、保育園と幼稚園との連携・幼保小の連携の必要性並びに連携の実際を学ぶ。幼児期に育みたい資質と小学校教育への接続を理解する。	『保育所保育指針解説』 p.288-293の通読(60分)
第15回	<u>これからの保育の課題と展望</u> 待機児童の現状・保育の民営化・地域型保育所・認証保育所・保育の質と第三者評価・幼保一元化等、保育園・幼稚園現代日本における保育の現状を把握し、課題について検討する。	第1回から14回までの資料通読(60分) 保育士倫理綱領の通読
<p>定期試験 定期試験期間中にレポートの提出を求める。 ・毎回授業内で2～4人でのディスカッションを行う。 フィードバックの方法： 適宜、授業終了時に記入する振り返り用紙に、コメントを付して返却する。</p>		
<p>テキスト： 『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館） 適宜プリントを配布</p>		
<p>参考書・参考資料等：</p>		
<p>オープンな教育リソース：</p>		
<p>学生に対する評価：以下の3点を総合的に評価して成績を判定する。 授業への取り組み45％・課題55％（定期試験期間中に、レポートを作成し提出する）を総合的に評価する。</p>		

授業科目名：2200112521 子ども家庭福祉 2年前期	必修：(卒)・保	単位数： 2単位	担当教員名：上田 美香 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の本質・目的に関する科目 子ども家庭福祉		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 1. 現代社会における子ども家庭福祉の理念と概念、そして歴史の変遷について説明できる。 2. 子どもの人権擁護について理解し、説明できる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体制等について説明できる。 4. 子ども家庭福祉の動向と展望について考察できる。 【テーマ】 1. 権利主体としての子どもを捉えていく視点を養うこと。 2. 子ども家庭福祉サービスにより、子育て家庭の問題状況がどのように解決・改善されているかを理解すること。			
授業の概要：日本における家族・社会の変化と、それに伴う子ども家庭福祉の歴史の変遷について、法・制度、実施体制などに焦点をあてて学ぶ。特に、子ども家庭福祉の一分野としての保育の役割について、理解を深める。さらに現代社会における子どもに関する問題に焦点をあて、求められる子ども家庭福祉や今後の課題について理解を深める。子ども家庭福祉の根底である子どもの「人権」に対する理解を深め、保育者としてふさわしい子ども家庭福祉の視点を養う。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	少子・高齢社会からみえる子どもと家庭を取り巻く現状を理解する。 少子・高齢社会の現状、それがもたらす社会的影響、少子化の要因、社会的背景について、子ども家庭福祉の観点から理解する。	教科書pp. 10-22を読み、少子化について説明できるように下調べをする(60分)。	
第2回	子どもと家庭を取り巻く環境の変化と生活問題について理解する。 世帯構造の変化や地域社会での繋がりの希薄化が及ぼす、子育て家庭への影響について理解する。	教科書pp. 23-28を読み、子ども家庭福祉における生活問題について下調べをする(60分)。	
第3回	子どもの人権について理解する。 子どもの人権や権利について、国際的な子どもの権利に関する条約をふまえ、日本の子どもの権利に関する法整備や取組を理解する。	教科書pp. 29-43を読み、子どもの人権について下調べをする(60分)。	
第4回	子ども家庭福祉にかかわる諸外国の歴史の変遷について理解する。 欧米の子ども家庭福祉の特徴を概観し、ニーズの変化や担い手の変化をとらえる。	教科書pp. 44-51を読み、欧米の子ども家庭福祉の歴史について下調べをする(60分)。	
第5回	子ども家庭福祉にかかわる日本の歴史の変遷について理解する。 日本の子ども家庭福祉の特徴を概観し、ニーズの変化や担い手の変化をとらえる。現在の法体系に至る過程を理解する。	教科書pp. 51-60を読み、日本の子ども家庭福祉の歴史について下調べをする(60分)。	
第6回	子ども家庭福祉の法体系と実施体制について理解する。 子ども家庭福祉サービスが提供されるまでの仕組みとして、基本理念、実施主体、施設、機関等を定める法律や制度について学ぶ。	教科書pp. 61-76を読み、子ども家庭福祉の法体系について下調べをする(60分)。	
第7回	子育て支援・次世代育成支援について理解する。 少子化対策をふまえ、子ども・子育て支援新制度へと至った経緯を理解する。このうち、地域子ども・子育て支援事業について具体的に理解する。多様な保育ニーズと課題について理解を深める。	教科書pp. 77-84を読み、地域子ども・子育て支援事業について下調べをする(60分)。	
第8回	保育施策の仕組み、待機児童問題について理解する。	教科書pp. 84-96を読み、認可保	

第9回	子ども・子育て支援新制度としての、保育施策について理解する。従前の施策との違いについても理解する。 母子保健施策とひとり親家庭の福祉政策について理解する。 母子保健施策については、目的と支援体制を中心に理解する。ひとり親家庭の経済的な状況をふまえたうえで、支援策について理解する。	育所、幼稚園、認定こども園について下調べをする(60分)。 教科書pp.97-113, 133を読み、子どもの貧困、ひとり親家庭について下調べをする(60分)。
第10回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止について理解する。 家庭のなかで生じている子ども虐待・ドメスティックバイオレンスの現状と子どもに及ぼす影響、そして防止のための取組みについて理解する。	教科書pp.114-132を読み、子ども虐待とドメスティックバイオレンスについて下調べをする(60分)。
第11回	社会的養護について理解する。 社会的養護の体系、現状と今後の課題について理解する。社会的養護の子どもたちへの関わりについて理解を深める。	社会的養護の授業で学んだことを振り返り、教科書pp.134-147を読み、要保護児童について下調べをする(60分)。
第12回	障害のある子どもへの対応について理解する。 ノーマライゼーションの理念を学び、現在の日本の施策を法制度から理解する。障害のある子どもへのアプローチについて理解を深める。	教科書pp.148-160を読み、ノーマライゼーションについて下調べをする(60分)。
第13回	非行問題を抱える子どもへの支援について理解する。 非行問題を抱える子どもの現状やその背景をふまえて、児童自立支援施設の役割を理解する。心理的治療を必要とする子どもへの支援を学ぶ。	教科書pp.161-171を読み、少年院や児童自立支援施設について、下調べをする(60分)。
第14回	子ども家庭福祉の専門職について理解する。 保育所をはじめとする児童福祉施設の種類やその目的および役割を知り、子ども家庭福祉の機関・施設に配置されている専門職について学ぶ。	教科書pp.174-180を読み、子どもの生活支援等に関わる専門職の要件である「保育士資格を有する者」を確認する(60分)。
第15回	子ども家庭福祉の専門性、連携について学ぶ。 子ども家庭福祉の専門性を理解し、専門職との連携、地域における連携(ネットワーク)について学ぶ。	教科書pp.172-173, 180-185を読み、連携について下調べをする(60分)。
定期試験 定期試験期間中に筆記試験をおこなう。		
フィードバックの方法：ミニレポート、リアクションペーパーは、講評して返却する。		
授業実施形態：対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。		
テキスト：喜多一憲監修・堀場純矢編集『子ども家庭福祉〔第2版〕』みらい、2024		
参考書・参考資料等：全国保育士養成協議会(監修)宮島清・山縣文治(編集)『ひと目でわかる 保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2026』中央法規、2025		
オープンな教育リソース：「e-GOV 法令検索」 https://laws.e-gov.go.jp/		
学生に対する評価：授業に関するリアクションペーパー(20%)、ミニレポート(20%)、定期試験(60%)を総合して評価する。		

授業科目名：2200112722 子ども家庭支援論 2年後期	必修：(卒)・保	単位数： 2単位	担当教員名：上田 美香 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の本質・目的に関する科目 子ども家庭支援論		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 【テーマ】保育者による家庭支援についての基礎的知識の習得を目指す。また、多様な家庭の子育てについて理解し、それぞれの家庭に応じた保育実践のあり方を学習する。			
授業の概要：少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能の弱体化、経済的問題、女性の社会進出により、子どもを巡る社会的環境はめまぐるしく変化している。このような背景から、保育ニーズは拡大し、多様な課題がある。保育者は、子どもの健やかな育ちをサポートする者として社会的に重要な役割を担っており、子育て家庭を側面的に支える専門職である。本授業では家庭や地域における子育ての課題を知り、支援が出来るようになることを目的とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性について理解する。 ・児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領にある子ども家庭支援の目的と機能について学ぶ。また、子ども家庭を支援する必要性を学び、保育士等が備えるべく子ども家庭支援の専門性について理解する。	教科書pp. 1-12を読み、子ども家庭支援の位置づけについて、下調べをする(60分)。	
第2回	子ども家庭支援の目的と機能について理解する。 ・児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている子ども家庭支援の目的と機能について学び、子ども家庭支援の原則について理解を深める。	教科書pp. 13-24を読み、子ども家庭支援の原則について、下調べをする(60分)。	
第3回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について理解する。 ・子育て支援・次世代育成支援施策の背景やその計画的推進、子ども・子育て支援新制度創設に至る経緯と新制度の枠組み、実施体制を理解する。ミニレポートを作成する。	教科書pp. 25-36を読み、子育て支援に関する政策と市町村による実施体制について、下調べをする(60分)。	
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について理解する。 ・社会資源について学んだうえで、さまざまな社会資源の活用方法について理解を深める。	教科書pp. 37-48を読み、社会資源の連携について、事例を通して説明できるようにする(60分)。	
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について理解する。 ・保育の専門性を学修し、保育所保育指針から子育て支援の意義を知り、学びを深める。	教科書pp. 49-60を読み、子育て支援の意義と保護者に対する支援の原則について、下調べをする(60分)。	
第6回	子どもとの育ちの喜びの共有について理解する。 ・保育所保育指針等をふまえ、育ちの喜びを共有するためのツールを学修する。そのツールを活用して可視化(見える化)することの意味を考える。グループディスカッションをおこなう。	教科書pp. 61-72を読み、育ちの喜びを共有するためのツールの事例から、共感できる部分を抽出する(60分)。	
第7回	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援について理解する。 ・地域の子育て家庭を取り巻く環境を把握したうえで、保育士に求められる視点を整理し、理解を深める。	教科書pp. 73-84を読み、地域の子育て家庭を取り巻く環境を説明できるように、下調べをする(60分)。	

第8回	保育士に求められる基本的態度について理解する。 ・保護者との信頼関係を築き、援助をおこなうために保育士に求められる基本的態度について学ぶ。	教科書 pp. 85-96 を読み、バイステックの7原則を説明できるように、下調べをする(60分)。
第9回	家庭の状況に応じた支援について理解する。 ・養育上の課題をかかえた家庭の状況を把握したうえで、保育者が支援をおこなうために意識すべき点を学ぶ。	教科書pp. 97-108を読み、保育者に求められる姿勢について説明できるように、下調べをする(60分)。
第10回	地域資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力について理解する。 ・地域の多様な資源の活用と自治体・関係機関との連携 ・協力に関する基本事項と実際のあり方、さらなる展開について学ぶ。ミニレポートを作成する。	教科書pp. 109-120を読み、自治体・関係機関との連携と保育者の役割について、下調べをする(60分)。
第11回	子ども家庭支援の内容と対象について理解する。 ・子ども家庭支援の具体的な対象、内容とアプローチの方法について理解を深める。	教科書pp. 121-132を読み、アプローチの方法について、下調べをする(60分)。
第12回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援について理解する。 ・政策的な変遷を確認したうえで、家庭がかかえる生活課題を検討し、支援の中核となる多機関・多職種との連携を学ぶ。保育ソーシャルワークの視点を養う。	教科書pp. 133-144を読み、事例について説明できるようにする(60分)。
第13回	地域の子育て家庭への支援について理解する。 ・保育所等は地域の子育て家庭への支援を行うために、他の関係機関と連携しながら専門性をもって取り組む必要があることを理解する。グループディスカッションを行う。	教科書pp. 145-156を読み、地域の子育て家庭への支援として任意の自治体について、下調べをする(60分)。
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援について理解する。 ・要保護児童の現状を理解し、児童・家庭への支援のあり方について学ぶ。	教科書pp. 157-168を読み、親子関係再構築支援について、説明できるように、下調べをする(60分)。
第15回	子育て支援に関する課題と展望についてまとめる。 ・授業全体を通じて、現代社会における子どもと子育て家庭の課題について振り返りを行い、子ども家庭支援に関する実践力を身につける。	教科書pp. 169-180を読み、欧米の子育て支援プログラムについて説明できるように、下調べをする(60分)。
定期試験	定期試験期間中に筆記試験をおこなう。	
フィードバックの方法：ミニレポート、リアクションペーパーは、講評して返却する。		
授業実施形態：対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。		
テキスト：公益財団法人 児童育成協会（監修）松原康雄・村田典子・南野奈津子（編集）『子ども家庭支援論〔第2版〕』中央法規、2023		
参考書・参考資料等：全国保育士養成協議会（監修）宮島清・山縣文治（編集）『ひと目でわかる 保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2026』中央法規、2025 「e-GOV 法令検索」 https://elaws.e-gov.go.jp/		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：授業に関するリアクションペーパー（20%）、ミニレポート（20%）、定期試験（60%）を総合して評価する。		

授業科目名：2211013021 特別支援の理解と方法 2年前期	必修：卒・幼	単位数： 1単位	担当教員名：近藤 健太 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎理論科目 幼：教育の基礎的理解に関する科目 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ① インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。 ② 児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 ③ 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身につける。 ④ 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ⑤ 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ⑥ 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ⑦ 小学校との連携の重要性を理解し、就学支援シートを作成する意義と方法を理解している。 【テーマ】 ① 特別支援教育の仕組み、②特別な支援を必要とする子どもの特性と心身の発達、③個別の指導計画と教育支援計画、④家庭や関係機関との連携⑤就学支援シート			
授業の概要：本授業は、様々な「特別な支援を必要としている子」を理解し、家庭や関係機関と組織的な協力関係を構築する方法を身につけ、子ども達が生きる力を身につけていくことを支援できる指導者となるための基礎知識を身につける事を目標としている。 テーマに挙げた①から④を軸に乳児期から幼児期までの子どもを中心に対応を学び、個別の指導計画を立案するための基礎知識を身につけるとともに、個別支援計画及び就学支援シートを実際にグループで作成することにより、より実践的に学びを深めていく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	特別支援教育に関する制度の理解 インクルーシブ教育の理念や特別支援教育の仕組みを概観し、「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒」とはどのような子ども達なのかを知る。	シラバスを確認し、予習をして くこと(60分)	
第2回	子どもの発達を客観的に評価する方法①心理検査 発達評価を行うための視点を持つために基本的な知識を知る。発達を客観的に評価の方法についての心理検査について知る。	第2回、第3回 教科書の23ページから35ページ及び授業内に配布する資料を読み、予習をして くこと(各60分)	
第3回	子どもの発達を客観的に評価する方法②様々な方法について 発達評価を行うための視点を持つために基本的な知識を知る。発達を客観的に評価の方法について知る。		
第4回	障害受容・療育資源について(家庭および関係機関との連携) 子どもの障害を知った時の保護者の心情を考える。また、地域の子育て支援、医療機関、療育機関など関係機関の役割を知り、家庭との連携や保護者支援の方法について知る。 また、自分が住んでいる地域の子育て支援センターについて調べ、レポートを提出する。	教科書の169ページから178ページを読み、予習して くこと(60分)	
第5回	個別支援計画の作成①：知的障害① 知的障害について基本的な知識を身につける。集団生活の中で特別な支援を必要とする知的障害のある子どもを早期に見出すための基礎的な知識を身につけ、早期療育の必要性について知る。	第5回、第6回 前期の「障害児保育Ⅰ」で配布した授業資料のうち「知的障害」に該当する箇所を復習・予習して くこと(各60分)	
第6回	個別支援計画の作成①：知的障害②		

<p>知的障害について基本的な知識を身につけるとともに、特別な支援を必要とする子どもにとっての個別の指導計画および個別の教育支援計画の重要性を知る。提示した事例についてグループで検討を行い、個別指導計画を作成しレポートとして提出する。</p>	
<p>第7回 個別指導計画の作成②：自閉スペクトラム症 自閉スペクトラム症の子どもが集団生活の中で経験する困難や必要な支援について知り、個別の指導計画、教育支援計画をたてるための基礎的知識を身につける。</p>	<p>第7回、第8回 前期の「障害児保育Ⅰ」で配布した授業資料のうち「自閉スペクトラム症」に該当する箇所を復習・予習してこること(各60分)</p>
<p>第8回 個別支援計画の作成②：自閉スペクトラム症② 自閉スペクトラム症について基礎的な知識を身につけるとともに、特別な支援を必要とする子どもにとっての個別の指導計画および個別の教育支援計画の重要性を知る。提示した事例についてグループで検討を行い、個別指導計画を作成しレポートとして提出する。</p>	
<p>第9回 個別支援計画の作成③：ADHD① 多動な子どもが集団生活の中で経験する困難や必要な支援について知り、個別の指導計画、教育支援計画をたてるための基礎的知識を身につける。</p>	<p>第9回、第10回 前期の「障害児保育Ⅰ」で配布した授業資料のうち「ADHD」に該当する箇所を復習・予習してこること(各60分)</p>
<p>第10回 個別支援計画の作成③：ADHD② ADHDについての基礎的な知識を身につけるとともに、特別な支援を必要とする子どもにとっての個別の指導計画および個別の教育支援計画の重要性を知る。提示した事例についてグループで検討を行い、個別指導計画を作成しレポートとして提出する。</p>	
<p>第11回 個別支援計画の作成④：学習障害① 学習障害の子どもが集団生活の中で経験する困難や必要な支援について知り、個別の指導計画、教育支援計画をたてるための基礎的知識を得る。また学齢期になって経験する可能性がある困難について知り、支援の方法について知る。</p>	<p>第11回、第12回 前期の「障害児保育Ⅰ」で配布した授業資料のうち「学習障害」に該当する箇所を復習・予習してこること(各60分)</p>
<p>第12回 個別支援計画の作成④：学習障害② 学習障害について基礎的な知識を身につけるとともに、特別な支援を必要とする子どもにとっての個別の指導計画および個別の教育支援計画の重要性を知る。提示した事例についてグループで検討を行い、個別指導計画を作成しレポートとして提出する。</p>	
<p>第13回 就学支援シートの作成① 特別な支援を必要とする子どもの就学準備のための就学相談制度について知る。また、一貫した特別支援と小学校への引継ぎ資料としての就学支援シートの重要性を学ぶ。提示した事例についてグループで検討を行い、就学支援シートを作成しレポートとして提出する。</p>	<p>第13回、14回 教科書の194ページから205ページ及び授業内で配布する資料を読み、予習をしてこること(各60分)</p>
<p>第14回 就学支援シートの作成② 特別な支援を必要とする子どもの就学準備のための就学相談制度について知る。また、一貫した特別支援と小学校への引継ぎ資料としての就学支援シートの重要性を学ぶ。提示した事例についてグループで検討を行い、就学支援シートを作成しレポートとして提出する。</p>	
<p>第15回 まとめと振り返り 授業内容についてのまとめと振り返りを行う。</p>	<p>本授業で配布した資料の確認・復習をしてこること(60分)</p>
<p>定期試験 定期試験期間中に筆記試験を行う</p>	
<p>フィードバックの方法：グループワークにて作成したレポートに関して、次回の授業にて全体的なコメントを行う。</p>	
<p>テキスト： 『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』前田泰弘編著,立元真,中井靖,小笠原明子.萌文書林</p>	

参考書・参考資料等：『特別支援学校—幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部（最新版）』
文部科学省、授業内容に合わせた資料を適宜配付する。

オープンな教育リソース：特になし

学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定期試験の得点(60%)
②レポート等 (30%) ③授業態度 (10%)

授業科目名：2300113121 保育の計画と評価 2年前期	必修：(卒)・保	単位数： 2単位	担当教員名：中塚 良子 担当形態：講義 単独																														
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 保育の計画と評価																																
学習成果該当番号：1. 3. 7																																	
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について学ぶ。また、子ども理解に基づいた保育の過程について考えながら、全体的な計画と指導計画の関係性及び作成の意義と方法について理解する。 【テーマ】 保育所保育指針 第1章 総則 4「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」に示されているように、保育所は、幼児教育の場であることを明確化している。保育所における保育目標の達成及び子どもの発達を見通した保育の方法と環境に関する基本的な考え方について学ぶ。計画性のある保育を実施するために必要な留意事項やポイントについて具体的な事例を通して理解する。																																	
授業の概要： 本授業では、園の包括的な基本方針（保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園共通）である「全体的な計画」の構成と関連する指導計画並びに指導計画作成上の留意事項を保育現場での具体的な事例を通して学ぶ。また、ポートフォリオ・ドキュメンテーションなど保育活動を可視化することで見えてくる子ども理解や保育者としての成長について考えながら、保育の内容と評価に基づく記録方法や改善に対する理解を深めていく。																																	
授業計画： <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">回数</th> <th style="width:60%;">内容</th> <th style="width:30%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>保育の計画と評価の基本 子どもの保育と育ちについて考える。</td> <td>テキストp7-18の通読 (60分)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>教育課程・全体的な計画と指導計画 乳幼児保育における指導計画の種類と役割、PDCAサイクルについて理解する。</td> <td>テキストp19-36の通読 (60分)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>記録を用いた評価 保育記録による保育の評価について学ぶ。実際にエピソードを書くことにより、子ども理解を深める方法・保育者の援助について理解する。</td> <td>テキストp37-p66の通読 (60分)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>保育所の理解 保育所の役割について学び、養護と教育が一体となった保育の計画と実際について理解をする。</td> <td>テキストp67-100の通読 (60分)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>乳児～2歳の特徴と指導計画 0歳児～2歳児の特徴と保育、並びに具体的な活動場面における適切な援助方法（子どもの主体的な活動を尊重した援助）を理解する。</td> <td>テキストp136-144の通読</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>指導計画の作成① 指導計画の形式について学び、保育のねらい等について理解する。</td> <td>テキストp101-128の通読 ・課題作成 (60分)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>指導計画の作成② 指導計画における環境構成について学び、実際に作成する（責任：部分実習指導案）</td> <td>テキストp101-128の通読 ・課題1作成 (60分)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>指導計画の作成③ 保育所における一日の流れと配慮を学び、実際に作成する（責任：全日実習指導案）</td> <td>テキストp101-128、p168-178の通読、 ・課題2作成 (60分)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育所実習、指導案作成と実践の評価 指導計画、エピソード記録をもとにしたグループワークを行い、自己評価を理解する。</td> <td>テキストp153-159、162-165の通読(60分)</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	保育の計画と評価の基本 子どもの保育と育ちについて考える。	テキストp7-18の通読 (60分)	第2回	教育課程・全体的な計画と指導計画 乳幼児保育における指導計画の種類と役割、PDCAサイクルについて理解する。	テキストp19-36の通読 (60分)	第3回	記録を用いた評価 保育記録による保育の評価について学ぶ。実際にエピソードを書くことにより、子ども理解を深める方法・保育者の援助について理解する。	テキストp37-p66の通読 (60分)	第4回	保育所の理解 保育所の役割について学び、養護と教育が一体となった保育の計画と実際について理解をする。	テキストp67-100の通読 (60分)	第5回	乳児～2歳の特徴と指導計画 0歳児～2歳児の特徴と保育、並びに具体的な活動場面における適切な援助方法（子どもの主体的な活動を尊重した援助）を理解する。	テキストp136-144の通読	第6回	指導計画の作成① 指導計画の形式について学び、保育のねらい等について理解する。	テキストp101-128の通読 ・課題作成 (60分)	第7回	指導計画の作成② 指導計画における環境構成について学び、実際に作成する（責任：部分実習指導案）	テキストp101-128の通読 ・課題1作成 (60分)	第8回	指導計画の作成③ 保育所における一日の流れと配慮を学び、実際に作成する（責任：全日実習指導案）	テキストp101-128、p168-178の通読、 ・課題2作成 (60分)	第9回	保育所実習、指導案作成と実践の評価 指導計画、エピソード記録をもとにしたグループワークを行い、自己評価を理解する。	テキストp153-159、162-165の通読(60分)
回数	内容	準備学習																															
第1回	保育の計画と評価の基本 子どもの保育と育ちについて考える。	テキストp7-18の通読 (60分)																															
第2回	教育課程・全体的な計画と指導計画 乳幼児保育における指導計画の種類と役割、PDCAサイクルについて理解する。	テキストp19-36の通読 (60分)																															
第3回	記録を用いた評価 保育記録による保育の評価について学ぶ。実際にエピソードを書くことにより、子ども理解を深める方法・保育者の援助について理解する。	テキストp37-p66の通読 (60分)																															
第4回	保育所の理解 保育所の役割について学び、養護と教育が一体となった保育の計画と実際について理解をする。	テキストp67-100の通読 (60分)																															
第5回	乳児～2歳の特徴と指導計画 0歳児～2歳児の特徴と保育、並びに具体的な活動場面における適切な援助方法（子どもの主体的な活動を尊重した援助）を理解する。	テキストp136-144の通読																															
第6回	指導計画の作成① 指導計画の形式について学び、保育のねらい等について理解する。	テキストp101-128の通読 ・課題作成 (60分)																															
第7回	指導計画の作成② 指導計画における環境構成について学び、実際に作成する（責任：部分実習指導案）	テキストp101-128の通読 ・課題1作成 (60分)																															
第8回	指導計画の作成③ 保育所における一日の流れと配慮を学び、実際に作成する（責任：全日実習指導案）	テキストp101-128、p168-178の通読、 ・課題2作成 (60分)																															
第9回	保育所実習、指導案作成と実践の評価 指導計画、エピソード記録をもとにしたグループワークを行い、自己評価を理解する。	テキストp153-159、162-165の通読(60分)																															

第10回	幼稚園の理解 幼稚園における教育の基本と配慮・幼稚園における教育課程と指導計画の実際を理解する。	テキストp135-p142の通読 (60分) -
第11回	幼児の特徴と指導計画 3歳児の特徴と保育・4歳児の特徴と保育・5歳児の特徴と保育、並びに具体的な活動場面における適切な援助方法(子どもの主体的な活動を尊重した援助)を理解する。	テキストp143-150・配布資料の通読(60分)
第12回	幼稚園の指導計画を作成する(課題3) 指導計画は、課題として提出を求める 幼稚園・保育所実習の振り返りと実習園の指導計画の比較を行う。	テキストp128・配布資料の通読(60分)
第13回	様々な保育計画と児童要録 幼保小の連携を学び、児童要録の書き方、10の姿の活用等について理解する。	テキストp160-161の通読 (60分)
第14回	様々な保育環境と保育の評価 保育環境について学び、子どもの姿をもとにした、理想の保育環境の構成を保育計画の中に落とし込む作業を行う。	配布資料の通読 (60分)
第15回	まとめ 全15回の授業を振り返り、自らの学びや実践について自己評価を行う。	テキストp158-164・テキストの通読(60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を実施する。 ・基本的には個人の思考能力を培うワークを行う。 ・適宜、グループワークを行う。	
フィードバックの方法：フィードバックとして適宜、提出課題にコメントを返す。		
テキスト： テキスト『教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画』 岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正（萌文書林）2018		
参考書・参考資料等： 『保育所保育指針解説』（フレーベル館）・『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：以下の3点を総合的に評価する。 ① 課題の提出とその内容(70%) ② 授業への取組み（振り返り用紙の質）(30%)		

授業科目名：231113222 保育内容総論 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：中塚 良子 担当形態：演習 単独																														
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容総論																																
学習成果該当番号：1. 2. 7. 8																																	
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ①乳幼児期の教育における遊びと学びについて、具体的な事例を挙げて説明できる。 ②環境を通して行う保育について理論的に理解し、具体的な実践例を挙げながら説明ができる。 ③保育の可視化、様々な記録方法と評価の関係についてそれを理解し有効に利用することができる。 ④保育における小学校教育との円滑な接続連続性について説明できる。 ⑤話し合いの中で、意見を述べ、他者の意見を受け止め、考えあうことができる。 【テーマ】 ①乳幼児期の発達を支える保育内容について、保育は常に子どもの興味と関心から始まり、子どもが主語主体であることを具体的な事例から実感して学ぶ。 ②子どもの遊びを通じた学びについて、実践的な事例検討・グループワークを通して理解を深める。 ③環境を通して行う保育について、多角的に検討し、子どもの姿をもとにした環境について考え合う。 ⑤保育の記録方法、特に可視化の方法をドキュメンテーション型記録の作成を通して学ぶ。 ⑥保育の歴史の変遷を通して、子ども観、保育観、保育内容について考える。																																	
授業の概要： 本授業では、子どもの最善の利益にのっとった保育内容について、実践的に学ぶ。子どもを理解し、環境構成や保育者の役割、連携などに目を向け、適切な援助について検討する。理解の手立てとして、グループ討議、グループでの作業を行う。仲間との学びを通して、理解の幅を広げることを期待する。また、保育内容の歴史の変遷について学ぶことで、保育を常により良く造り替えていける保育者として、子ども観、人間観、保育観を醸成する。																																	
授業計画： <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">回数</th> <th style="width:60%;">内容</th> <th style="width:30%;">事前事後学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション・保育内容総論とは 保育の全体構造/養護と教育、育みたい資質・能力について グループ討議を通して、「保育内容」について考え合う。</td> <td>・テキスト序章・ 第1章を熟読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>保育内容の歴史の変遷 子どもの主体性を尊重する保育に至るまでの保育理論と内容</td> <td>・テキスト1章を熟 読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>指針・要領に見る保育内容 保育内容の全体構造を知り、それぞれの領域の特性と関連性について考え あう</td> <td>・テキスト2章を熟 読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>子どもと保育内容① 子ども理解と子どもの発達と生活 子どもの行動や言葉、表情を通して子どもの内面を読み解く。子ども の生活において、子どもが主体的に生活するとはどのようなことか事例を 通してグループで考え合う。</td> <td>・テキスト第3章1 -2節を熟読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>子どもと保育内容② 子どもを取り巻く環境と遊び 子どもにとっての保育環境、遊びとは何かについて、事例を通してグル ープで考えあう。</td> <td>・テキスト第3章3 , 4節熟読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>領域と保育内容① 健康 人間関係 保育所保育指針等に示された領域について、事例を通して子どもの 育ちや保育者の援助、育みたい力についてグループで考えあう</td> <td>・テキスト第3章を 熟読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>領域と保育内容② 環境 言葉 保育所保育指針等に示された領域について、事例を通して子どもの 育ちや保育者の援助、育みたい力についてグループで考えあう 遊 びを中心とした保育内容</td> <td>・テキスト第4章を 熟読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>領域と保育内容③ 表現 保育者の専門性 保育所保育指針等に示された領域について、事例を通して子どもの 育ちや保育者の援助、育みたい力についてグループで考えあう</td> <td>・テキスト第4章を 熟読(60分)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育の評価と保育者の専門性① 乳幼児期の保育教育計画と実践そして、省察としての評価 観察、様々な記録方法(エピソード、ドキュメンテーション、ポー トフォリオ、保育ウェブなど)や写真、ビデオを通しての理解</td> <td>・配布プリントを 熟読(60分)</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	事前事後学習	第1回	オリエンテーション・保育内容総論とは 保育の全体構造/養護と教育、育みたい資質・能力について グループ討議を通して、「保育内容」について考え合う。	・テキスト序章・ 第1章を熟読(60分)	第2回	保育内容の歴史の変遷 子どもの主体性を尊重する保育に至るまでの保育理論と内容	・テキスト1章を熟 読(60分)	第3回	指針・要領に見る保育内容 保育内容の全体構造を知り、それぞれの領域の特性と関連性について考え あう	・テキスト2章を熟 読(60分)	第4回	子どもと保育内容① 子ども理解と子どもの発達と生活 子どもの行動や言葉、表情を通して子どもの内面を読み解く。子ども の生活において、子どもが主体的に生活するとはどのようなことか事例を 通してグループで考え合う。	・テキスト第3章1 -2節を熟読(60分)	第5回	子どもと保育内容② 子どもを取り巻く環境と遊び 子どもにとっての保育環境、遊びとは何かについて、事例を通してグル ープで考えあう。	・テキスト第3章3 , 4節熟読(60分)	第6回	領域と保育内容① 健康 人間関係 保育所保育指針等に示された領域について、事例を通して子どもの 育ちや保育者の援助、育みたい力についてグループで考えあう	・テキスト第3章を 熟読(60分)	第7回	領域と保育内容② 環境 言葉 保育所保育指針等に示された領域について、事例を通して子どもの 育ちや保育者の援助、育みたい力についてグループで考えあう 遊 びを中心とした保育内容	・テキスト第4章を 熟読(60分)	第8回	領域と保育内容③ 表現 保育者の専門性 保育所保育指針等に示された領域について、事例を通して子どもの 育ちや保育者の援助、育みたい力についてグループで考えあう	・テキスト第4章を 熟読(60分)	第9回	保育の評価と保育者の専門性① 乳幼児期の保育教育計画と実践そして、省察としての評価 観察、様々な記録方法(エピソード、ドキュメンテーション、ポー トフォリオ、保育ウェブなど)や写真、ビデオを通しての理解	・配布プリントを 熟読(60分)
回数	内容	事前事後学習																															
第1回	オリエンテーション・保育内容総論とは 保育の全体構造/養護と教育、育みたい資質・能力について グループ討議を通して、「保育内容」について考え合う。	・テキスト序章・ 第1章を熟読(60分)																															
第2回	保育内容の歴史の変遷 子どもの主体性を尊重する保育に至るまでの保育理論と内容	・テキスト1章を熟 読(60分)																															
第3回	指針・要領に見る保育内容 保育内容の全体構造を知り、それぞれの領域の特性と関連性について考え あう	・テキスト2章を熟 読(60分)																															
第4回	子どもと保育内容① 子ども理解と子どもの発達と生活 子どもの行動や言葉、表情を通して子どもの内面を読み解く。子ども の生活において、子どもが主体的に生活するとはどのようなことか事例を 通してグループで考え合う。	・テキスト第3章1 -2節を熟読(60分)																															
第5回	子どもと保育内容② 子どもを取り巻く環境と遊び 子どもにとっての保育環境、遊びとは何かについて、事例を通してグル ープで考えあう。	・テキスト第3章3 , 4節熟読(60分)																															
第6回	領域と保育内容① 健康 人間関係 保育所保育指針等に示された領域について、事例を通して子どもの 育ちや保育者の援助、育みたい力についてグループで考えあう	・テキスト第3章を 熟読(60分)																															
第7回	領域と保育内容② 環境 言葉 保育所保育指針等に示された領域について、事例を通して子どもの 育ちや保育者の援助、育みたい力についてグループで考えあう 遊 びを中心とした保育内容	・テキスト第4章を 熟読(60分)																															
第8回	領域と保育内容③ 表現 保育者の専門性 保育所保育指針等に示された領域について、事例を通して子どもの 育ちや保育者の援助、育みたい力についてグループで考えあう	・テキスト第4章を 熟読(60分)																															
第9回	保育の評価と保育者の専門性① 乳幼児期の保育教育計画と実践そして、省察としての評価 観察、様々な記録方法(エピソード、ドキュメンテーション、ポー トフォリオ、保育ウェブなど)や写真、ビデオを通しての理解	・配布プリントを 熟読(60分)																															

第10回	記録の実際について作業を通して理解する 保育の評価と保育者の専門性② 乳幼児期の保育教育計画と実践そして、省察としての評価 観察、様々な記録方法（エピソード、ドキュメンテーション、ポートフォリオ、保育ウェブなど）や写真、ビデオを通しての理解 記録の実際について作業を通して理解する	・配布プリントを熟読(60分)
第11回	保育者の役割と保育内容 子どもの学び・育ちの可視化の重要性 保育者の役割やその実践について、「保育者像」についてグループで討議を行う	・テキスト第5章の熟読(60分)
第12回	気になる子どもの支援 多様性の尊重や貧困、虐待に対する保育の役割をグループで話し合い、考え合う。	・テキスト第5章第1節の熟読(60分)
第13回	保護者との連携 教科書の事例を参考に、保護者とのやり取りを想定した対人ワークを行う。連絡帳の書き方などを通して、実践的な力を身に着ける。	・テキスト第5章2節の熟読(60分)
第14回	小学校への連携をふまえた保育 保幼少連携の取り組み、連携から接続へ学びと育ちの連続性 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿との関連についてグループ討議を通して考え合う	・テキスト第5章3節の熟読(60分)
第15回	まとめ 子どもの権利を保障する保育者・保育内容へ 保育の質の向上に向けて 子どもの権利条約に触れ、自分ができること、社会全体でどのような取り組みができるかについて考えあう	・配布プリントを熟読(60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を課す	
フィードバックの方法：提出のワークシートやリアクションペーパーに適宜コメントを返信する。また、リアクションペーパーで理解の進まない点が確認される場合については翌授業時に補足をする。		
テキスト：酒井幸子他編著『演習 保育内容総論 あなたならどうしますか？ 改訂第二版』萌文書林(2018)		
参考書・参考資料等： 『幼稚園教育要領解説』文部科学省,フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省,フレーベル館 『幼保連携型認定こども園 保育・教育要領解説』内閣府,文部科学省,厚生労働省 フレーベル館		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価： 以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ① 試験 (40%) ② 授業内課題（授業レジュメへの書き込み、ドキュメンテーション型記録）(45%) ③ 授業態度（グループワークの参加度） (15%)		

授業科目名2311213421 幼児と環境 2年前期	必修：卒・幼	単位数： 1単位	担当教員名：森永 純子 担当形態：演習 単独																								
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項																										
学習成果該当番号：1. 2. 4. 6. 7																											
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 幼児を取り巻く環境について総合的に理解し、幼児と環境のかかわりの重要性について専門的に学ぶ。環境の中から幼児の興味・関心を引き出すことのできる知識・技術の習得を目指し、保育現場での実践力を身に付ける。 【テーマ】 領域「環境」について、子どもが多様な環境とかかわる中で生まれる育ちや学びに対する援助・指導法を中心テーマとする。領域「環境」のねらいと内容、領域「環境」の具体的な指導方法を通して、身近な環境からどのように子どもの学びが始まり、深まっていくのかを理解し、保育者としてのかかわり方や環境構成の重要性について学ぶ。																											
授業の概要： 幼稚園教育要領「環境」のねらいを保育現場で実践していくために必要とされる、「保育者としての感性の育成」に重点を置き、まず保育者自身が幼児にとって最大の環境であることを学ぶ。幼児に様々な事象と積極的に触れ合う場を提供すること、さらに幼児があらゆる環境と出会うことで生じる学びを支える知識・技術の習得を行う。様々な視聴覚教材の使用、教材研究、ディスカッションなどを行い、学生自身による指導案の立案、発表等も重視して領域「環境」について広く習得させるものである。オンデマンド授業をする場合がある。																											
授業計画： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 60%;">内容</th> <th style="width: 30%;">準備学習等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td> ●オリエンテーション 授業の進め方について理解する。 ●領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて話し合い、理解する。さらに、子どもの意欲が発揮されるような保育環境とはどのようなものか学び、理解する。 </td> <td> 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容、 B：8～13頁を読む(45分) </td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td> ●第1章：子どもを取り巻く環境 領域「環境」で扱う子どもを取り巻く環境には、物的環境、人的環境、社会的環境等様々な側面があることを学び、それらが子どもの発達に及ぼす影響とその重要性について学ぶ。年齢や人間関係の段階、状況によって、ふさわしい環境が変化することを把握する。 </td> <td>A：5～24頁を読む(45分)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td> ●第2章：身近な環境とのかかわりと感性の育ち① 身近な環境とのかかわりを通して子どもたちの中に蓄えられていく「感じる」体験の具体的様相、その意味、育ちについて学ぶ。 </td> <td>A：25～32頁を読む(45分)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td> ●第2章：身近な環境とのかかわりと感性の育ち② 子どもの多様な「感じる」体験を受け止め、認め支える保育者のかかわりについて学ぶ。視聴覚教材を使用。 </td> <td>A：32～41頁を読む(45分)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td> ●第3章：モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)① モノとのかかわりから生まれる育ちや学びとは何か、そしてそのかかわりを豊かにする保育者の援助について学ぶ。子どもの意欲に応え遊びを深める素材や道具について理解する。 </td> <td>A：43～55頁、B：50～53頁、90～97頁を読む(45分)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td> ●第3章：モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)② グループごとに教材研究を行う。単純なモノから遊びがどのように生まれるのか、またその多様性について学ぶ。体験したこととそこで完成したものをグループごとに発表し合う。 </td> <td>B：82～89頁を読む(45分)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td> ●第3章：モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)③ モノとのかかわりとその探求活動の深め方について学ぶ。視聴覚教材を使用したのち、保育者の援助のポイントや小学校以降の科学的知識との繋がりについて話し合いながら理解を深める。 </td> <td> 前回の教材体験を踏まえて「予想される子どもの姿」と「保育士の配慮・援助」を書く(45分) </td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習等	第1回	●オリエンテーション 授業の進め方について理解する。 ●領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて話し合い、理解する。さらに、子どもの意欲が発揮されるような保育環境とはどのようなものか学び、理解する。	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容、 B：8～13頁を読む(45分)	第2回	●第1章：子どもを取り巻く環境 領域「環境」で扱う子どもを取り巻く環境には、物的環境、人的環境、社会的環境等様々な側面があることを学び、それらが子どもの発達に及ぼす影響とその重要性について学ぶ。年齢や人間関係の段階、状況によって、ふさわしい環境が変化することを把握する。	A：5～24頁を読む(45分)	第3回	●第2章：身近な環境とのかかわりと感性の育ち① 身近な環境とのかかわりを通して子どもたちの中に蓄えられていく「感じる」体験の具体的様相、その意味、育ちについて学ぶ。	A：25～32頁を読む(45分)	第4回	●第2章：身近な環境とのかかわりと感性の育ち② 子どもの多様な「感じる」体験を受け止め、認め支える保育者のかかわりについて学ぶ。視聴覚教材を使用。	A：32～41頁を読む(45分)	第5回	●第3章：モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)① モノとのかかわりから生まれる育ちや学びとは何か、そしてそのかかわりを豊かにする保育者の援助について学ぶ。子どもの意欲に応え遊びを深める素材や道具について理解する。	A：43～55頁、B：50～53頁、90～97頁を読む(45分)	第6回	●第3章：モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)② グループごとに教材研究を行う。単純なモノから遊びがどのように生まれるのか、またその多様性について学ぶ。体験したこととそこで完成したものをグループごとに発表し合う。	B：82～89頁を読む(45分)	第7回	●第3章：モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)③ モノとのかかわりとその探求活動の深め方について学ぶ。視聴覚教材を使用したのち、保育者の援助のポイントや小学校以降の科学的知識との繋がりについて話し合いながら理解を深める。	前回の教材体験を踏まえて「予想される子どもの姿」と「保育士の配慮・援助」を書く(45分)
回数	内容	準備学習等																									
第1回	●オリエンテーション 授業の進め方について理解する。 ●領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて話し合い、理解する。さらに、子どもの意欲が発揮されるような保育環境とはどのようなものか学び、理解する。	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容、 B：8～13頁を読む(45分)																									
第2回	●第1章：子どもを取り巻く環境 領域「環境」で扱う子どもを取り巻く環境には、物的環境、人的環境、社会的環境等様々な側面があることを学び、それらが子どもの発達に及ぼす影響とその重要性について学ぶ。年齢や人間関係の段階、状況によって、ふさわしい環境が変化することを把握する。	A：5～24頁を読む(45分)																									
第3回	●第2章：身近な環境とのかかわりと感性の育ち① 身近な環境とのかかわりを通して子どもたちの中に蓄えられていく「感じる」体験の具体的様相、その意味、育ちについて学ぶ。	A：25～32頁を読む(45分)																									
第4回	●第2章：身近な環境とのかかわりと感性の育ち② 子どもの多様な「感じる」体験を受け止め、認め支える保育者のかかわりについて学ぶ。視聴覚教材を使用。	A：32～41頁を読む(45分)																									
第5回	●第3章：モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)① モノとのかかわりから生まれる育ちや学びとは何か、そしてそのかかわりを豊かにする保育者の援助について学ぶ。子どもの意欲に応え遊びを深める素材や道具について理解する。	A：43～55頁、B：50～53頁、90～97頁を読む(45分)																									
第6回	●第3章：モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)② グループごとに教材研究を行う。単純なモノから遊びがどのように生まれるのか、またその多様性について学ぶ。体験したこととそこで完成したものをグループごとに発表し合う。	B：82～89頁を読む(45分)																									
第7回	●第3章：モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)③ モノとのかかわりとその探求活動の深め方について学ぶ。視聴覚教材を使用したのち、保育者の援助のポイントや小学校以降の科学的知識との繋がりについて話し合いながら理解を深める。	前回の教材体験を踏まえて「予想される子どもの姿」と「保育士の配慮・援助」を書く(45分)																									

第8回	●第4章：自然とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）① 自身の自然とのかかわりの経験を振り返り、グループで発表し合う。自然物と人工物の違いについて話し合い、考える。五感を通じた体験からかかわりが生じ、遊びや学びが育まれることを理解する。	自分の自然とのかかわりの経験を振り返り、まとめる(45分)
第9回	●第4章：自然とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）② 屋外に出て教材研究を行う。子どもの視点から身近な環境にある自然に触れ、その不思議さや面白さを味わう。感じたことについてグループで話し合う。	A：57～73頁、B：38～49頁を読む(45分)
第10回	●第5章：社会とのかかわりを通して生まれる育ち（学び） 子どもにとっての社会について考え話し合い、理解を深める。子どもの日常生活に存在する標識・文字等の環境、地域社会における文化や生活に係る施設とのかかわり方について学ぶ。	A：75～86頁(45分)
第11回	●保育環境の構成① 低年齢の子どもの保育環境の構成について理解を深める。これまでの学びと複数の園の保育環境を参考にしながら、低年齢児の過ごす保育室マップを作成し、空間に応じた子どもの姿を想定して留意点や想定される遊びを考える。	B：14～25頁を読み、重要だと考える点を3つ挙げる(45分)
第12回	●保育環境の構成② 幼児の子どもの保育環境の構成について理解を深める。これまでの学びと複数の園の保育環境を参考にしながら、幼児が過ごす保育室マップを作成し、空間に応じた子どもの姿を想定して留意点や想定される遊びを考える。	B：26～37頁を読み、重要だと考える点を3つ挙げる(45分)
第13回	●第7章：乳児保育における「環境」とのかかわり① 低年齢の子どものモノとのかかわりについて学ぶ。具体的な保育事例や写真を用いたワークを実施し、グループで回答を話し合う。心地よい生活の流れと環境の関係性について学ぶ。	A：103～111頁、B：54～66頁、68～79頁を読む(45分)
第14回	●第7章：乳児保育における「環境」とのかかわり② 低年齢の子どもの具体的事例から、身近な素材を用いた保育計画を作成する。身近な素材の特色からねらいや遊びの提案を考え、子どもの興味関心を広げる援助方法について学び理解を深める。	A：112～121頁を読む(45分)
第15回	●第7章：乳児保育における「環境」とのかかわり③ 前回作成した保育計画をグループで読み合い、コメントをし合う。素材を用いた子どもの遊びの事例からさらにその展開を推察する。同じ素材や遊びから生み出される多様な可能性について理解し、保育計画や事例検討の重要性を学ぶ。	前回の課題を完成させる(30分) B：80～89頁を読む(15分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う。	
フィードバックの方法： 毎授業後にそれぞれの学びや気づきをポートフォリオに記入してもらい、その内容や課題・グループワークによる成果について、適宜指導や助言を行う。		
テキスト： A：『新しい保育講座9 保育内容「環境」』（久保健太・高嶋景子・宮里暁美編著 ミネルヴァ書房） B：『0-5歳児 子どもの「やりたい!」が発揮される保育環境』（宮里暁美監修 学研）		
参考書・参考資料等： 「幼稚園教育要領」（文部科学省2017年告示）、「保育所保育指針」（厚生労働省2017年告示）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（内閣府・文部科学省・厚生労働省2017年告示）*それぞれフレーベル館から発行もあり。そのほか、授業中に適宜紹介する。		
オープンな教育リソース： ・ソニー幼児教育支援プログラム実践事例集 https://www.sony-ef.or.jp/preschool/practice/index.html ・CEDEP東京プロジェクト https://cedep.meclib.jp/tankyu2025/book/index.html#target/page_no=1		
学生に対する評価： 以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①授業態度及びポートフォリオ（30%） ②授業内課題（30%） ③定期試験（40%）		

授業科目名：2311113721 健康指導法 2年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 泰代 担当形態：演習 単独												
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習														
学習成果該当番号：1・2・3・4・7															
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「健康」のねらい、内容及び内容の取扱いを理解する。②短期の指導案を作成できる。③模擬授業とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。④運動指導場面における安全に配慮した環境設定ができる。⑤乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。⑥領域「健康」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。⑦幼児教育と小学校教育との繋がりを理解するとともに、幼児教育における評価の考え方を理解している。 【テーマ】 乳幼児の発達段階をとらえながら、保育現場で運動あそびの活動が展開できる力を養う。「楽しい！」を創り出すにはどのような準備が必要か、グループで考え取り組むことで、保育の基礎的技能を高めていく。また小学校教育とのつながりをふまえた乳幼児期の運動の見方・とらえ方など観察や体験を通じて理解する。															
授業の概要： この授業では、演習形式により領域「健康」の見方・捉え方・援助方法について学ぶ。そのために、学生自身が保育現場で行える運動あそびについて調べ、そのあそびを提供する場合にどのような準備が必要かを考え、指導計画案を立てる。それらをもとに、グループで話し合いよりよい活動内容になるよう練り上げる。グループでまとめあげた指導計画案をもとに、学生を幼児に見立て実際に指導（ロールプレイ）を行う。指導の様子はビデオに記録し、指導後に振り返りをしてその反省を次にかせるようにしていく。指導法の授業は、指導する側と指導される側として展開されるが、それぞれの指導の良い点、改善点などは全員が振り返りを行い、記録としてノートにまとめる。 また、保育現場で運動遊びに使われる施設・設備・遊具の種類に応じた活動の援助方法や管理などについても学ぶ。具体的活動内容として、伝承遊び、ボール運動など小型遊具を使ったあそび、ゲーム・ダンスなど用具を使わない遊びなどを取り上げる。															
授業計画： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 60%;">内容</th> <th style="width: 30%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td> 指導計画や指導案作成について 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。その上で長期・短期の指導計画や指導案作成について学ぶ。指導計画（チェックリスト）を事前にチェックしておく。また、指導後の評価ルーブリックについて目を通す。 </td> <td> 準備学習：『幼稚園教育要領解説』また『保育所保育指針解説書』に書かれた、領域「健康」のねらい及び内容に目を通す（30分） </td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td> 模擬保育準備及び領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知る 個人の指導案を持ち寄り、より具体的な保育を想定した指導案をグループで作成する。 また、領域「健康」の特性に応じた現代的課題（自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤づくり）や保育実践の動向を観察や体験を通じて理解する。 </td> <td> 準備学習：領域「健康」に関する指導案を個別に作成する（90分） 事後学習：ダンスの復習（15分） </td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td> 模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける①保育者の適した立ち位置 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第3回は特に保育者の適した立ち位置の理解を深める。 </td> <td> 準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分） </td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	指導計画や指導案作成について 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。その上で長期・短期の指導計画や指導案作成について学ぶ。指導計画（チェックリスト）を事前にチェックしておく。また、指導後の評価ルーブリックについて目を通す。	準備学習：『幼稚園教育要領解説』また『保育所保育指針解説書』に書かれた、領域「健康」のねらい及び内容に目を通す（30分）	第2回	模擬保育準備及び領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知る 個人の指導案を持ち寄り、より具体的な保育を想定した指導案をグループで作成する。 また、領域「健康」の特性に応じた現代的課題（自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤づくり）や保育実践の動向を観察や体験を通じて理解する。	準備学習：領域「健康」に関する指導案を個別に作成する（90分） 事後学習：ダンスの復習（15分）	第3回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける①保育者の適した立ち位置 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第3回は特に保育者の適した立ち位置の理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）
回数	内容	準備学習													
第1回	指導計画や指導案作成について 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。その上で長期・短期の指導計画や指導案作成について学ぶ。指導計画（チェックリスト）を事前にチェックしておく。また、指導後の評価ルーブリックについて目を通す。	準備学習：『幼稚園教育要領解説』また『保育所保育指針解説書』に書かれた、領域「健康」のねらい及び内容に目を通す（30分）													
第2回	模擬保育準備及び領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知る 個人の指導案を持ち寄り、より具体的な保育を想定した指導案をグループで作成する。 また、領域「健康」の特性に応じた現代的課題（自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤づくり）や保育実践の動向を観察や体験を通じて理解する。	準備学習：領域「健康」に関する指導案を個別に作成する（90分） 事後学習：ダンスの復習（15分）													
第3回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける①保育者の適した立ち位置 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第3回は特に保育者の適した立ち位置の理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）													

第4回	<p>模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける②集団の動かし方</p> <p>具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第4回は特に集団の動かし方について理解を深める。</p>	<p>準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分）</p> <p>事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分）</p> <p>ダンスの復習（15分）</p>
第5回	<p>模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける③乳幼児の興味関心を引く環境づくりと言葉がけ</p> <p>具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第5回は特に乳幼児が興味や好奇心を持って関わることのできるような環境づくりや言葉がけについて理解を深める。</p>	<p>準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分）</p> <p>事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分）</p> <p>ダンスの復習（15分）</p>
第6回	<p>模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける④空間構成について</p> <p>具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第6回は特に空間構成について理解を深める。</p>	<p>準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分）</p> <p>事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分）</p> <p>ダンスの復習（15分）</p>
第7回	<p>模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける⑤安全に配慮した環境</p> <p>具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第7回は特に安全に配慮した環境について理解を深める。</p>	<p>準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分）</p> <p>事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分）</p> <p>ダンスの復習（15分）</p>
第8回	<p>模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける⑥乳幼児の心情を汲む保育</p> <p>具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第8回は特に乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育について理解を深める。</p>	<p>準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分）</p> <p>事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分）</p> <p>ダンスの復習（15分）</p>
第9回	<p>動きを引き出す環境①鬼ごっこ</p> <p>遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動線に配慮した環境を構成したりするためにこれらを体験しながら理解する機会を設ける。9回は鬼ごっこ及び身近なものを用いた遊びをテーマに取り上げる。</p>	<p>準備学習：鬼ごっこの下調べ（15分）</p> <p>事後学習：授業内容のノートまとめ（30分）</p> <p>ダンスの復習（15分）</p>
第10回	<p>動きを引き出す環境②小型遊具</p> <p>遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動</p>	<p>準備学習：小型遊具の遊びの下調べ（15分）</p>

第11回	<p>線に配慮した環境を構成したりするためにこれらを体験しながら理解する機会を設ける。10回は小型遊具をテーマに取り上げる。</p> <p>動きを引き出す環境③大型遊具</p>	<p>事後学習：授業内容のノートまとめ (30分) ダンスの復習 (15分) 準備学習：大型遊具の遊びの下調べ (15分)</p>
第12回	<p>遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動線に配慮した環境を構成したりするためにこれらを体験しながら理解する機会を設ける。11回は大型遊具をテーマに取り上げる。</p> <p>小学校体育科学習とのつながり①投運動の教材のレディネス 乳幼児期は小学校に上がるまでのレディネスを整える時期であることを考慮し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に幼稚園の領域「健康」の具体的な指導内容について体験する。第12回は投補運動の前段階をテーマに取り上げる。</p>	<p>事後学習：授業内容のノートまとめ (30分) ダンスの復習 (15分) 準備学習：投運動の遊びの下調べ (15分)</p>
第13回	<p>小学校体育科学習とのつながり②跳躍の教材のレディネス 乳幼児期は小学校に上がるまでのレディネスを整える時期であることを考慮し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に幼稚園の領域「健康」の具体的な指導内容について体験する。第13回は跳躍の前段階をテーマに取り上げる。</p>	<p>事後学習：授業内容のノートまとめ (30分) ダンスの復習 (15分) 準備学習：跳躍の遊びの下調べ (15分)</p>
第14回	<p>小学校体育科学習とのつながり③支持力を必要とする教材のレディネス 乳幼児期は小学校に上がるまでのレディネスを整える時期であることを考慮し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に幼稚園の領域「健康」の具体的な指導内容について体験する。第14回は支持力を必要とする教材の前段階をテーマに取り上げる。</p>	<p>事後学習：授業内容のノートまとめ (30分) ダンスの復習 (15分) 準備学習：支持系の遊びの下調べ (15分)</p>
第15回	<p>ダンス・表現 授業の準備運動で行ったダンスの復習とテスト、また保育現場において活用するために場面と年齢に合わせたアレンジ方法を学ぶ。</p>	<p>事後学習：授業内容のノートまとめ (30分) ダンスの復習 (15分) 準備学習：前期に行ったダンスの復習をする (60分)</p>
定期試験	<p>定期試験期間中に締切とする授業内容をまとめたノート提出をもって定期試験とする。(このノートにはコメントを付して返却する)</p>	
<p>※ 毎回の授業時のはじめに準備運動として幼児ダンスを踊る。</p>		
<p>フィードバックの方法：模擬保育については発表後、学生同士ディスカッションし良かった点と改善点について発表する。また、教員からもコメントしフィードバックする。また撮影された動画はICTを活用し即時、学生へフィードバックする。</p>		
<p>またホワイトボードの記載内容の写真、配布されたプリントのPDFデータ、幼児ダンスの動画はいつでも閲覧・復習できるようにTeamsの共有フォルダにアップロードする。</p>		
<p>テキスト：なし</p>		
<p>参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（株）フレーベル館、2018、『保育所保育指針解説』（株）フレーベル館、2018、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（株）フレーベル館、2018、『0歳からはじめるうごきづくり』太田昌秀・豊田泰代・久保景子著、幻冬舎ルネッサンス、2008。『身体表現遊びプレイソング2』田中（賀来）良江・豊田泰代、チャイルド本社、2005</p>		
<p>第3～8回の授業では学生が作成した指導案を配布</p>		
<p>第1～15回の授業では内容に合わせた自作資料も使用</p>		
<p>オープンな教育リソース：豊田泰代 【とよたやすよの幼児ダンスTV】Yasuyo Toyota</p>		
<p>チャンネルURL：https://www.youtube.com/channel/UCkmMAkKzhezj3PuzR9eMoFw</p>		
<p>学生に対する評価：保育現場における指導力の向上がみられたかをはかるために以下の4項目を総合的に評価して成績を判定する。①模擬保育発表内容（40%）②授業に関するノート・提出物等（30%）③授業の取り組み（20%）④ダンステスト（10%）</p>		

授業科目名2311113922 環境指導法 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：森永 純子 担当形態：演習 単独																					
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習																							
学習成果該当番号：1. 2. 4. 6. 7																								
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 領域「環境」とは、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目的とする。領域「環境」のねらい及び内容はそれ単一で成立するものではない。養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性をもつことを理解し、総合的に保育を展開できるよう、乳幼児の発達を理解し、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることを到達目標とする。乳児保育における3つの視点と1歳以上児の五領域の視点から、発達に応じて主体的・対話的で深い学びが実現するよう、環境の構成、教材・遊具の活用と工夫、計画・実践・配慮すべき事項を理解する。 【テーマ】 多様な環境から生まれる学びを支えるための援助・指導法を中心テーマとし、幼小接続、また、地域社会とのかかわりまでを視野に入れながら、実践的に学ぶ。																								
授業の概要： 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「環境」のねらいを着実に保育現場で実践していくため実践力を高め、乳幼児に多様な環境から生まれる学びを支えることができる知識・技術・指導法の習得を行う。環境における現代的課題や地域とのかかわりについても踏まえた上で、広い視野に基づいた指導ができるよう、教材開発や指導法開発などを行う。オンデマンド授業をする場合がある。																								
授業計画： <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">回数</th> <th style="width:60%;">内容</th> <th style="width:30%;">準備学習等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td> ●第6章：保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容について、概略を再確認する。周囲の様々な環境に好奇心・探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験がどのように活動の中で展開されるのか、またそうした子どもたちの姿をどのように評価するのかについて学ぶ。 </td> <td>幼稚園教育要領、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容、A：89～102頁を読む(45分)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td> ●第8章：モノとのかかわりを支える保育の展開① 具体的な遊びの事例検討を通して、子どもたちの学びや育ちを捉える。周囲の環境に興味や好奇心をもってかかわる体験ができるような保育活動や教材について構想する。 </td> <td>A：123～138頁を読む(45分)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td> ●第8章：モノとのかかわりを支える保育の展開② 制作した教材をグループで発表し合い、お互いの教材とその活用法についてコメントし合う。子どもたちの学びを深めるための改善点や、その後の保育活動の展開について考える。 </td> <td>保育教材制作を行い、併せてその指導法や保育現場での活用法を考え、まとめる(45分)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td> ●第8章：モノとのかかわりを支える保育の展開③ 子どもがモノとじっくり向き合う探究活動を支える保育者の援助方法について学ぶ。学びや発見を広げるための素材や道具についても理解を深める。 </td> <td>CEDEP東京プロジェクト（「メクリブで閲覧する」）を読む(45分)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td> ●第9章：自然とのかかわりを支える保育の展開① 季節によって変化する自然とのかかわりを支えるための保育者としての留意点や指導方法のポイントについて学ぶ。 </td> <td>A：139～154頁を読む(45分)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td> ●第9章：自然とのかかわりを支える保育の展開② 幼児と生物・自然とのかかわりについて、「科学する心」という視点から事例を読み解き、身近な生物への興味・関心を大切にする保育活動とその展開について学ぶ。子どもの学びを深めるための保育者のかかわりについての理解を深める。 </td> <td>ソニー幼児教育支援プログラム実践事例集Vol.21の28～31頁、B：118～129頁を読む(45分)</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習等	第1回	●第6章：保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容について、概略を再確認する。周囲の様々な環境に好奇心・探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験がどのように活動の中で展開されるのか、またそうした子どもたちの姿をどのように評価するのかについて学ぶ。	幼稚園教育要領、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容、A：89～102頁を読む(45分)	第2回	●第8章：モノとのかかわりを支える保育の展開① 具体的な遊びの事例検討を通して、子どもたちの学びや育ちを捉える。周囲の環境に興味や好奇心をもってかかわる体験ができるような保育活動や教材について構想する。	A：123～138頁を読む(45分)	第3回	●第8章：モノとのかかわりを支える保育の展開② 制作した教材をグループで発表し合い、お互いの教材とその活用法についてコメントし合う。子どもたちの学びを深めるための改善点や、その後の保育活動の展開について考える。	保育教材制作を行い、併せてその指導法や保育現場での活用法を考え、まとめる(45分)	第4回	●第8章：モノとのかかわりを支える保育の展開③ 子どもがモノとじっくり向き合う探究活動を支える保育者の援助方法について学ぶ。学びや発見を広げるための素材や道具についても理解を深める。	CEDEP東京プロジェクト（「メクリブで閲覧する」）を読む(45分)	第5回	●第9章：自然とのかかわりを支える保育の展開① 季節によって変化する自然とのかかわりを支えるための保育者としての留意点や指導方法のポイントについて学ぶ。	A：139～154頁を読む(45分)	第6回	●第9章：自然とのかかわりを支える保育の展開② 幼児と生物・自然とのかかわりについて、「科学する心」という視点から事例を読み解き、身近な生物への興味・関心を大切にする保育活動とその展開について学ぶ。子どもの学びを深めるための保育者のかかわりについての理解を深める。	ソニー幼児教育支援プログラム実践事例集Vol.21の28～31頁、B：118～129頁を読む(45分)
回数	内容	準備学習等																						
第1回	●第6章：保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容について、概略を再確認する。周囲の様々な環境に好奇心・探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験がどのように活動の中で展開されるのか、またそうした子どもたちの姿をどのように評価するのかについて学ぶ。	幼稚園教育要領、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容、A：89～102頁を読む(45分)																						
第2回	●第8章：モノとのかかわりを支える保育の展開① 具体的な遊びの事例検討を通して、子どもたちの学びや育ちを捉える。周囲の環境に興味や好奇心をもってかかわる体験ができるような保育活動や教材について構想する。	A：123～138頁を読む(45分)																						
第3回	●第8章：モノとのかかわりを支える保育の展開② 制作した教材をグループで発表し合い、お互いの教材とその活用法についてコメントし合う。子どもたちの学びを深めるための改善点や、その後の保育活動の展開について考える。	保育教材制作を行い、併せてその指導法や保育現場での活用法を考え、まとめる(45分)																						
第4回	●第8章：モノとのかかわりを支える保育の展開③ 子どもがモノとじっくり向き合う探究活動を支える保育者の援助方法について学ぶ。学びや発見を広げるための素材や道具についても理解を深める。	CEDEP東京プロジェクト（「メクリブで閲覧する」）を読む(45分)																						
第5回	●第9章：自然とのかかわりを支える保育の展開① 季節によって変化する自然とのかかわりを支えるための保育者としての留意点や指導方法のポイントについて学ぶ。	A：139～154頁を読む(45分)																						
第6回	●第9章：自然とのかかわりを支える保育の展開② 幼児と生物・自然とのかかわりについて、「科学する心」という視点から事例を読み解き、身近な生物への興味・関心を大切にする保育活動とその展開について学ぶ。子どもの学びを深めるための保育者のかかわりについての理解を深める。	ソニー幼児教育支援プログラム実践事例集Vol.21の28～31頁、B：118～129頁を読む(45分)																						

第7回	<p>●環境に関わる計画と指導法①</p> <p>これまでの授業を踏まえ、具体的な子どもの姿を想定して、領域「環境」に関わる活動の指導案を作成する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育むことと小学校教育への接続を視野に入れた指導法・評価の考え方を学ぶ。</p>	ソニー幼児教育支援プログラム実践事例集Vol.20を読む(45分)
第8回	<p>●環境に関わる計画と指導法②</p> <p>前回作成した指導案を元に、グループ単位による模擬保育活動を体験する。領域「環境」のねらい及び内容を踏まえた保育活動を構成する力を身につける。</p>	指導案を完成させ、必要な準備を行う(45分)
第9回	<p>●第10章：社会とのかかわりを支える保育の展開</p> <p>現代の子育てをとりまく状況を踏まえ、保育者として地域環境とのつながりを生み出す必要性について理解する。地域社会との連携によって保育が豊かになる事例について学び、話し合う。</p>	A：155～166頁、B：130～134頁を読む(45分)
第10回	<p>●第11章：領域「環境」と小学校教育のつながり</p> <p>領域「環境」と小学校「生活科」「理科」との接続の関係性について学び、小学校以降の教育との連続性について理解を深める。</p>	A：167～179頁を読む(45分)
第11回	<p>●第12章：環境における現代的課題と保育①</p> <p>私たちが生活する世界における、環境に関する現代的課題を学ぶ。地球環境へのまなざしや態度を豊かに養う保育のあり方について、グループでの話し合いを通して理解する。</p>	A：181～204頁、B：106～117頁を読む(45分)
第12回	<p>●第12章：環境における現代的課題と保育②</p> <p>子どもの身の回りの視聴覚情報の利用並びに水族園(館)、植物園、動物園、科学博物館等様々な施設について学ぶ。</p>	割り当てられた施設について事前に調べまとめる(45分)
第13回	<p>●第12章：環境における現代的課題と保育③</p> <p>環境に関する現代的課題について、テーマ別に学ぶ。SDGsの17の目標からいくつかターゲットを取り上げ、それぞれの世界的な状況や取り組みについてグループごとに調べる。保育におけるSDGsについて理解を深める。</p>	SDGsのゴールについて調べ、選んだターゲットについてまとめる(45分)
第14回	<p>●第12章：環境における現代的課題と保育④</p> <p>前回の学習成果をグループごとに発表し、SDGs各ターゲットの理解を深める。海外の保育実践の取り組みについて学び、保育において現代的課題に取り組むための資質を養う。</p>	ポスターを完成させる(45分)
第15回	<p>●第13章：ともに環境を創造する「創り手」としての子ども・保育者・保護者の育ち合い</p> <p>生活や環境の「創り手」としての子ども・保育者について理解を深める。</p>	A：205～218頁、B：98～105頁を読む(45分)
<p>定期試験 定期試験期間中に筆記試験を行う。</p> <p>フィードバックの方法：毎授業後にそれぞれの学びや気づきをポートフォリオに記入してもらい、その内容や課題・グループワークによる成果について、適宜指導や助言を行う。</p>		
<p>テキスト：</p> <p>A：『新しい保育講座9 保育内容「環境」』（久保健太・高嶋景子・宮里暁美編著 ミネルヴァ書房）</p> <p>B：『0-5歳児 子どもの「やりたい!」が発揮される保育環境』（宮里暁美監修 学研）</p>		
<p>参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領」（文部科学省2017年告示）、「保育所保育指針」（厚生労働省2017年告示）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（内閣府・文部科学省・厚生労働省2017年告示）*それぞれフレーベル館から発行もあり。そのほか、授業中に適宜紹介する。</p>		
<p>オープンな教育リソース：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソニー幼児教育支援プログラム実践事例集 https://www.sony-ef.or.jp/preschool/practice/index.html ・CEDEP東京プロジェクト https://cedep.meclib.jp/tankyu2025/book/index.html#target/page_no=1 		
<p>学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①授業態度及びポートフォリオ（30%） ②授業内課題（30%） ③定期試験（40%）</p>		

授業科目名：2311114021 言葉指導法 2年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：山本 伸一 担当形態：演習 単独															
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習																	
学習成果該当番号：2. 4. 6																		
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 生活における言葉使用の能力を高めるための、領域「言葉」の指導法について具体的な指導場面を構想する方法を身につける。①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱いを理解できる。②幼児教育と小学校教育との繋がりを理解するとともに、幼児教育における評価の考え方を理解できる。③乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解できる。④領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。⑤長期・短期の指導計画や指導案を作成できる。⑥模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。⑦領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向に気づき、保育構想の向上に取り組むことができる。 【テーマ】 ①領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱い、②非言語コミュニケーション、③指導援助の方法（聞く力・話す力・考える力・文字への関心等）、④言語障害、⑤オノマトペと絵本、⑥小学校国語科とのつながり、⑦絵本の読み聞かせ部分実習指導案作成と実践																		
授業の概要： 初めに幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱い等を確認して、言葉指導の基盤である信頼関係の醸成とともに、聞く力、話す力、考える力を高めたり、文字への関心を高めたりする方法を概観する。その後、言語障害、オノマトペ、小学校国語科の導入等の題材を取り上げて幼児の言語使用の特色を理解する。最後に絵本の読み聞かせの実践を通して児童文化財の具体的な取り扱い方を学ぶ。 保育者にとって必要な用語や漢字も学習し、記録の作成に応用できるような力も身につける。 授業形態は、対面授業で行う。遠隔授業は必要な状況においては、下記の授業計画に示す内容でオンデマンドまたはリアルタイムオンラインで授業を行う。																		
授業計画： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 60%;">内容</th> <th style="width: 30%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>幼稚園教育要領領域「言葉」 領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、その大要を理解する。 毎回、振り返りシートに授業や発表を通しての自身の気づきを記入する。 第2回から第12回まで、毎回漢字テストを実施〔『保育の基本用語』より出題〕。</td> <td>テキストp.5-p.14の下調べ（60分）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>保育所保育指針領域「言葉」 領域「言葉」について、三歳未満児のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、大要を理解する。</td> <td>テキストp.15-26の下調べ及び漢字テスト対策（60分）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>非言語コミュニケーション 乳幼児と親しい大人との間で行われる「見つめ合い」、「いないいないばあ」、「おもちゃを用いた遊び」、「物のやりとり」など1歳未満の乳児では、その動きや発声に注意して保育者が応答的にかかわったり、語り掛けや歌いかけを行ったりして気持ちの通じ合うことが言葉の発達に必要であることを話し合いによって気付くようにする。</td> <td>テキストp.27-p.33の下調べ及び漢字テスト対策（60分）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>指導援助の方法1（聞く力、話す力） 聞く力を育てる具体的な場や指導事項を調べたり、表現を豊かにする具体的な場や指導事項を調べたりして日常活動の中にインタビューの時間を設定することの重要性を理解するとともに、子どもが答えやすいインタビューの内容及び実施上の留意点を表にまとめる。まと</td> <td>テキストp.34-p.42の下調べ及び漢字テスト対策（60分）</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	幼稚園教育要領領域「言葉」 領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、その大要を理解する。 毎回、振り返りシートに授業や発表を通しての自身の気づきを記入する。 第2回から第12回まで、毎回漢字テストを実施〔『保育の基本用語』より出題〕。	テキストp.5-p.14の下調べ（60分）	第2回	保育所保育指針領域「言葉」 領域「言葉」について、三歳未満児のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、大要を理解する。	テキストp.15-26の下調べ及び漢字テスト対策（60分）	第3回	非言語コミュニケーション 乳幼児と親しい大人との間で行われる「見つめ合い」、「いないいないばあ」、「おもちゃを用いた遊び」、「物のやりとり」など1歳未満の乳児では、その動きや発声に注意して保育者が応答的にかかわったり、語り掛けや歌いかけを行ったりして気持ちの通じ合うことが言葉の発達に必要であることを話し合いによって気付くようにする。	テキストp.27-p.33の下調べ及び漢字テスト対策（60分）	第4回	指導援助の方法1（聞く力、話す力） 聞く力を育てる具体的な場や指導事項を調べたり、表現を豊かにする具体的な場や指導事項を調べたりして日常活動の中にインタビューの時間を設定することの重要性を理解するとともに、子どもが答えやすいインタビューの内容及び実施上の留意点を表にまとめる。まと	テキストp.34-p.42の下調べ及び漢字テスト対策（60分）
回数	内容	準備学習																
第1回	幼稚園教育要領領域「言葉」 領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、その大要を理解する。 毎回、振り返りシートに授業や発表を通しての自身の気づきを記入する。 第2回から第12回まで、毎回漢字テストを実施〔『保育の基本用語』より出題〕。	テキストp.5-p.14の下調べ（60分）																
第2回	保育所保育指針領域「言葉」 領域「言葉」について、三歳未満児のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、大要を理解する。	テキストp.15-26の下調べ及び漢字テスト対策（60分）																
第3回	非言語コミュニケーション 乳幼児と親しい大人との間で行われる「見つめ合い」、「いないいないばあ」、「おもちゃを用いた遊び」、「物のやりとり」など1歳未満の乳児では、その動きや発声に注意して保育者が応答的にかかわったり、語り掛けや歌いかけを行ったりして気持ちの通じ合うことが言葉の発達に必要であることを話し合いによって気付くようにする。	テキストp.27-p.33の下調べ及び漢字テスト対策（60分）																
第4回	指導援助の方法1（聞く力、話す力） 聞く力を育てる具体的な場や指導事項を調べたり、表現を豊かにする具体的な場や指導事項を調べたりして日常活動の中にインタビューの時間を設定することの重要性を理解するとともに、子どもが答えやすいインタビューの内容及び実施上の留意点を表にまとめる。まと	テキストp.34-p.42の下調べ及び漢字テスト対策（60分）																

	めた表はミニレポートとして扱う。	
第5回	指導援助の方法2（考える力） 考える力・想像する力を育む具体的な場である生活や遊び、児童文化財の鑑賞等に関わる指導事項を調べる。	テキストp.43-p.48の下調べ及び漢字テスト対策（60分）
第6回	指導援助の方法3（記号・文字への関心） 記号への関心を育む具体的な場である生活や遊びの中の指導事項を調べて話し合う。また、落書きなどの遊びが自己表現として考えられることを知り、その落書きの中に出ている文字、語、文の発達の様子と指導法について話し合う。	テキストp.49-p.58の下調べ及び漢字テスト対策（60分）
第7回	指導援助の方法4（言葉の発達と環境） 人との係わり、生活や遊び、絵本等の言葉が幼児に移される様子について資料をもとに話し合うとともに、経験する事象の認識、相手意識及び語彙の獲得等が、鬼ごっこなどの遊びの基礎になっていることを理解する（具体例としてゲーム「フルーツバスケット」の指導場面を扱い指導法を話し合っまとめる）。	テキストp.59-p.71の下調べ及び漢字テスト対策（60分）
第8回	言語障害 言語障害の症状、原因、治療等について、テキストや図書館資料やインターネットで調べた結果を発表し合うとともに、当該幼児の保育方針について話し合い、言語障害の保育についての理解を深める。	テキストp.72-p.77の下調べ及び漢字テスト対策（60分）
第9回	感覚的言語（オノマトペ1） 童謡、唱歌及びわらべ歌に使われている擬音語や擬態語の効果について、それらの擬音語や擬態語を他の一般的な言葉に置き換えた事例と比較を通して、幼児が理解しやすいかどうかという観点で話し合う。 また、折込広告等も資料として扱い、幼児の日常生活にも大きく関わっていることを理解する。	テキストp.78-p.95の下調べ及び漢字テスト対策（60分）
第10回	感覚的言語（オノマトペ2） 絵本の中に使われている擬音語や擬態語について、図書館を活用し調べる。対象とする子どもの年齢層ごとにオノマトペの使われ方に違いがあることを、話し合いを通して理解する。 また、各自が選んだ絵本について、絵本の中のオノマトペの効果を経験した文章を引用しながらまとめる。まとめたものはレポートとして扱う。	テキストp.96-p.103の下調べ及び漢字テスト対策（60分）
第11回	小学校国語科学習とのつながり 小学校1年用（上）の国語科教科書を用いて、その4月・5月の学習内容を調べるとともに、幼稚園教育要領総則「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（8）（9）」を基に幼稚園の領域「言葉」の具体的な指導事項について話し合う。	テキストp.104-p.116の下調べ及び漢字テスト対策（60分）
第12回	言葉の教育としての小学校との関連 年長児の事例をもとに小学校につながる保育について考え話し合う。また、書き言葉に対する援助を理解し、お手紙ごっこの導入で使用する絵手紙を作成する。	漢字テスト対策（60分）
第13回	絵本の読み聞かせ1 第13回から第15回までの内容を理解し見通しを持つ。指導事例を参考に、読み聞かせの部分実習指導案の書き方を学ぶ。特に保育者の援助や環境構成について話し合い理解を深める。図書館を活用し、読み聞かせる本の選書を行う。	絵手書の作成及び漢字テストの対策（60分）

<p>第14回 絵本の読み聞かせ2 各自で読み聞かせの部分実習指導案を作成する。作成にあたっては、導入や読み終わりの扱い、配慮の必要な子どもへの留意点に着目wできるようにする。</p>	<p>絵本の読み聞かせの練習及び漢字テストの対策 (60分)</p>
<p>第15回 絵本の読み聞かせ3 作成した指導案を基に、グループに分かれ絵本の読み聞かせを行う。相互評価を行い、読み方の優れた点に気付くようにする。導入や読み終わりの扱いまで保育者としての意図を持った読み聞かせになるようにする。</p>	<p>絵本の読み聞かせの練習及び漢字テストの対策 (60分)</p>
<p>定期試験 筆記試験を行う。 フィードバックの方法：毎回の振り返りシートに関しては回収後に記述内容を確認したうえで、次の授業時に返却して解説する。 漢字テストは実施後に回収し、次回以降の授業時に返却。フィードバックとして解答の解説を行う。</p>	
<p>テキスト：『領域言葉Ⅱ 言葉指導法』（神谷爲義著 貞静学園短期大学） 『保育の基本用語』長島和代編 わかば社</p>	
<p>参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 フレーベル館） 『板書で見る全単元の授業のすべて 国語小学校1年上～令和6年版教科書対応～』（2024.4.1 発行 編著者：岡崎智子・山下美香 (株)東洋館出版社） 『保育と内容「言葉」と指導法 子どもの心のことばに耳を澄ませて』（2025年2月20日 初版第1刷発行 編集者 仲本美央 吉永安里 発行者 服部直人 発行所 株式会社萌文書林） そのほか授業に必要な資料などは、その都度印刷配付する。</p>	
<p>オープンな教育リソース：</p>	
<p>学生に対する評価：①試験 (50%) ②授業内の演習における取り組み状況、レポート (25%) ③振り返りシートの提出状況・内容、漢字テスト (25%)</p>	
<p>実務家教員による授業科目：幼稚園教員養成課程を卒業し、幼稚園教諭並びに小学校教諭として長年勤務してきた。その間に大学院において学校教育学を専攻し、研鑽を積み、小学校並びに幼稚園教諭専修免許状を取得している。幼小接続を専門的に研究しており、学校就学前の言葉の教育について実践研究を行っている。研究成果と経験を生かし、領域言葉の指導法について実践的に教授する。</p>	

授業科目名： 表現活動指導法（リトミック） 2年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：桑原 章寧 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】①幼稚園教育要領に示された、領域「表現」のねらい及び内容と全体構造を理解する。②保育所保育指針における「養護」と「教育」の視点から、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための具体的な方法や技術、子どもの実態に即した援助やかかわりを理解する。③幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。④領域「表現」のねらいと内容を踏まえ幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。⑤指導案の構造を理解し、活動の導入、展開を考慮した手遊び歌の指導案を作成することができる。⑥幼稚園教育における評価の考え方を理解する。（小学校との違い）⑦模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。⑧領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。⑨領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育に活用することができる。 【テーマ】①領域「表現」のねらい、内容と全体構造 ②幼児の表現（音楽教育） ③援助やかかわりとしての音楽 ④模擬保育の実際 ⑤総合的な表現（オペレッタ） ⑥保育における評価と小学校音楽科における評価			
授業の概要：幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい、内容、内容の取り扱いについて理解させる。また、保育所保育指針に示された、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする「表現」としての保育について理解させる。具体的には、リズム遊戯曲を数多く学ぶ中で、リズムカルな身体の動きを身につけ、音楽に対する感性を高める。グループでの演習を通してリトミック教育が音楽性ととともに社会性を育てること、保育者と子ども、子どもどうしの相互作用によって高められることを理解する。これらの活動の総合的な表現として、音楽劇[オペレッタ]を作り発表させる。事前課題として、学生が授業までに手遊び歌を練習し発表を通していろいろな実践の場面に適した指導法を習得する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	幼稚園教育要領「表現」の理解。保育所保育指針における「養護」と「教育」の視点から、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための具体的な方法や技術、子どもの実態に即した援助やかかわりの理解。領域「表現」のねらい、内容、内容の取り扱いを読み、その概要を理解する。領域「表現」におけるリトミックの位置づけの理解。身近なものに関わり感性が育つリトミックの展開の理解。		
第2回	乳児、幼児の表現その1 身近な人と気持ちが通じ合うリトミックの活動、創造性を豊かにするリトミックの活動、強弱を使った活動 ゾウとりすの動き、ダンプとミニカーの動き、対照的な強弱の変化、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。オペレッタの歌の練習（旋律の知覚）	準備学習・テキストNO. 1-4手遊び歌の予習(60分)	
第3回	乳児、幼児の表現その2 身近な環境に興味や関心をもって関わり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動カノンを使った活動 カエルのうた、フレールジャック、コーコケ コッコ夜が明けた等の輪唱と動きのカノン、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。オペレッタの歌の練習（旋律の知覚）	テキストNO. 5-8手遊び歌の予習(60分)	
第4回	乳児、幼児の表現その3 創造性を豊かにするリトミックの活動フレーズを使った活動 フレーズごとにボール回し、フレーズ受け渡し、フレージング、時間・空間・エネルギーの関係を体	テキストNO. 9-12手遊び歌の予習(60分)	

第5回	験する。 乳児、幼児の表現その4 身近な環境に興味や関心をもって関わり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動リズムの縮小と拡大を使った活動 二分音符と四分音符で蝶々の羽根の動きを模倣、四分音符と八分音符に分かれて手拍子や足拍子、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。オペレッタの歌の練習（旋律の知覚）	テキストNO.13-16 手遊び歌の予習(60分)
第6回	幼児の表現その5 創造性を豊かにするリトミックの活動 音の長短を使った活動 八分音符、四分音符、二分音符、それぞれで歩く、音価の理解、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。オペレッタの歌の練習（役割に応じた歌い方）	テキストNO.17-20 手遊び歌の予習(60分)
第7回	乳児、幼児の表現その6 身近な環境に興味や関心をもって関わり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動音の高低を使った活動 高い音、低い音に反応して歩いたり止まったりする。オペレッタの歌の練習（役割に応じた歌い方）	テキストNO.21-24 手遊び歌の予習(60分)
第8回	幼児の表現その7 感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動 音階と調を理解する活動 上行形音階を前に歩き、下行形音階を後ろに下がり表現する。半音と全音。オペレッタの歌の練習（動作を伴った表現）	テキストNO.25-28 手遊び歌の予習(60分)
第9回	模擬保育の実際 幼児の表現その1からその7までの活動を元にグループで幼児活動の指導案を作成し、模擬保育を行う。指導案の作成と模擬保育の準備 オペレッタの歌の練習（動作を伴った表現）	テキストNO.29-32 手遊び歌の予習(60分)
第10回	オペレッタのガイダンス 目的、内容、方法、子どもへの教育的効果の理解	テキストNO.33-36 手遊び歌の予習(60分)
第11回	オペレッタの準備①昔話を素材とした脚本の選択	あらかじめ配布された脚本を読んでおく。(60分)
第12回	オペレッタの準備②物語に合う選曲とおどりの創作、時間・空間・エネルギーの関係を活用する。	・配役、役割分担に基づいてピアノ練習、歌と台詞の練習(120分)
第13回	オペレッタの準備③舞台配置、照明、衣装(リハーサル)	
第14回	オペレッタの準備④発表に向けての練習、時間・空間・エネルギーの関係を活用する。GP	各グループで準備、練習する。(60分)
第15回	オペレッタの発表と鑑賞、時間・空間・エネルギーの関係を活用する。(課題・オペレッタの制作を振り返り、①練習への取り組み姿勢、②協力、③リーダー性の発揮、④創造性の工夫という観点別に記述する。	各グループの発表を振り返りまとめる。(60分)
定期試験	定時試験期間中を提出締切とするリトミックについてのレポート提出をもって定時試験とする（このレポートにはコメントを付して返却する）。	
フィードバックの方法： 手遊びの予習は発表後評価解説を行います。オペレッタの準備は発表内容から推測し評価解説を口頭で行います。記述内容にはコメントし返却します。		
テキスト： 『うたっておどっておもちゃ箱 PART2』鈴木恵津子編著、教育芸術社出版 『保育者のためのマーチ集』津布楽杏里・桑原章寧編著、東京国際芸術協会出版		
参考書・参考資料等： 『幼稚園教育要領解説（最新版）』、『保育所保育指針解説（最新版）』、『ダルクローズのリトミック』ドレミ出版、『リズムと音楽と教育』全音楽譜出版社、『リズム・インサイド』西日本法規出版、『こどものミュージカル竹取物語・ありときりぎりす・サンドリヨン』ドレミ出版、『体を楽器にした音楽表現リズム&ゲームにどっぷりリトミック 77選』明治図書、『いっしょに歌おうエリックカール絵本うた』コンセル		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価： 課題として事前に与えられた手遊びの発表（テキスト使用）における指導内容		

(20%)、毎回の授業への取り組み(10%)、ノート提出時のノートのまとめ方(50%)、オペレッタの発表内容(20%)の4項目から評価する。なお、ノートについては、活動の流れ、活動の詳細な記述、活動における言葉がけとかかわり方、活動を通して感じた内容、予想される子どもが感じ取る内容を観点として評価する。

授業科目名： 器楽合奏（選択） 2年前期	必修：	単位数： 1単位	担当教員名：桑原 章寧 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 4. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ○ 幼児に楽器の演奏活動をさせる際に必要な楽器の構造や奏法について理解する。 ○ 実際の合奏活動を通して各楽器の響きや合奏中の役割を理解する。また指揮活動を通してアゴーギク（速度法）、デュナーミク（強弱法）の重要性を理解する。 【テーマ】 幼児の器楽合奏における奏法やその他指導法について学ぶ。			
授業の概要： 旋律楽器とリズム楽器を分担し、合奏活動を通してその指導法を理解する。 鍵盤ハーモニカ、木琴、鉄琴、アコーディオン等、旋律を担当する楽器の奏法理解とその習得。 タンブリン、トライアングル、スネアドラム（小太鼓）、ボンゴ等リズムを担当する楽器の奏法理解とその習得。リズム譜の読譜。指揮者として指導する際の指導のポイントとして、はじめの合図の出し方、音のそろえ方、強弱の出し方を理解する。練習した曲（各グループ2曲）は、最終授業でその成果を演奏発表する。さらにギターやドラム等の楽器を用いた合奏を応用、発展として行う。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	幼児教育指導法のねらいと進め方について説明・個別音楽経験実態調査、シラバスを読んで疑問に思ったことやわからないことの質疑応答	シラバスに目を通し疑問点を質問できるようにする。 (60分)	
第2回	旋律楽器の奏法その1 鍵盤ハーモニカ、アコーディオン・楽譜の読み方、準備学習で練習した課題曲を実際の楽器鍵盤ハーモニカとアコーディオンで練習する。事前練習が十分でない学生はピアノで練習する。鍵盤ハーモニカではタンギングで音を切る方法と指のタッチで音を切る方法があることを理解する。	事前に配布した楽譜を見て演奏できるようにピアノで練習する。(60分)	
第3回	旋律楽器の奏法その2 木琴、鉄琴 準備学習で練習した課題曲を実際の楽器木琴と鉄琴で練習する。トレモロや鉄琴のサスティーンペダルの使い方を理解する。	事前に配布した楽譜を見て演奏できるようにピアノで練習する。(60分)	
第4回	リズム楽器の奏法その1 スネアドラム、大太鼓・リズム譜の読み方 スティックを使う前に実際手で叩いて触覚で感じる大切さを理解する。スティックの持ち方や打楽器の基本的な練習方法について理解する。事前に配布したリズム譜を用いて実際の楽器スネアドラム、大太鼓でリズム奏の練習をする。	事前に配布したリズム譜を見てリズム打ちができるように練習する。(60分)	
第5回	リズム楽器の奏法その2 ボンゴ、タンブリン、トライアングル それぞれの楽器の奏法や名称について調べてきたことをもとに発表する。その後各楽器の奏法について解説し事前に配布したリズム譜を用いて各楽器の練習をする。	事前に配布したリズム譜を見てリズム打ちができるように練習する、各楽器の名称と奏法について調べる。(60分)	
第6回	指揮法（合図の出し方） 調べたことをもとに指揮についてその役割りや方法、テクニックについて発表しあう。その後実際の指揮法について実践練習する。	指揮法について調べる。 (60分)	
第7回	指揮法（速度法と強弱法） アゴーギク(速度法)とデュナーミク(強弱法)について調べたことを発表しあう。実際の指揮でどのように応用するか練習する。	アゴーギク(速度法)とデュナーミク(強弱法)について調べる。(60分)	
第8回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その1 始まりと終	指揮法で演奏する課題曲を練	

	わり 実際の演奏を練習する中で指揮者を交代しながら適切なアドバイスができたか振り返る。	習する。(90分)
第9回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その2 速度法と強弱法 実際の演奏を練習する中で指揮者を交代しながら適切なアドバイスができたか振り返る。	指揮法で演奏する課題曲を練習する。(90分)
第10回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その3 各楽器パートのバランス 準備学習で行ったワークシートを元に各楽器の音量バランスを指示する。またその理由についても述べる。	各楽器の音量バランスについてワークシートにまとめる。(60分)
第11回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その4 全体的な流れ出だしの音量、各楽器の音量バランス、アゴーギグ、デュナーミクについて適切な指示を与えながらよりよい演奏をめざす。 実技試験(指揮法)	配布された楽譜をもとに全体的な流れをワークシートにまとめる。(60分)
第12回	任意の楽器の演奏 パート (リズム・旋律) 選曲した曲の理由を発表し合い、その曲の特徴やよさを確認する。	グループで演奏した曲を選曲(60分)
第13回	任意の楽器の演奏 パート (リズムパートと旋律パート) 練習	個人練習(60分～90分)
第14回	任意の楽器の演奏 合奏練習	パート練習(60分～90分)
第15回	任意の楽器の演奏 各グループの合奏発表と鑑賞 実技試験 (演奏) 筆記試験	楽曲の特徴とよき演奏の留意点をまとめる。(60分)
定期試験	筆記による定期試験を授業最終日に実施 (実技と筆記)	
<p>フィードバックの方法：準備学習として毎回配布する楽譜、プリントの楽器に関すること、楽譜に関すること、和声（コード進行）に関することそれぞれの問題を解いてきたものに対して回答と解説を行う。また練習課題は発表の観察から評価し、どのような練習をするとさらによりよい演奏となるのか助言する。</p>		
<p>テキスト：楽譜、資料に関しては随時プリント配布</p>		
<p>参考書・参考資料等：こどもの器楽合奏ポップス1, 2, 3 (株式会社テプロMP、器楽合奏アルバム1 (教育研究社)、幼児の器楽合奏曲 (音楽の友社)、器楽合奏でディズニー (Yamaha music media)</p>		
<p>オープンな教育リソース：</p>		
<p>学生に対する評価： 基本的な楽器の奏法、音楽用語、コードネームについての筆記による定期試験 (50%)、 実技として指定した曲の指揮のテストを行い評価 (25%)、 毎授業、準備学習での取り組む姿勢、意欲について発表、演奏から評価 (25%)</p>		

授業科目名：2301214321 表現活動指導法（創作活動）Ⅰ 2年前期	必修：幼	単位数： 2単位	担当教員名：別府 浩実 担当形態：演習 単独												
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法														
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8															
授業の到達目標及びテーマ ：授業の到達目標は下記5項目である。 ①（テーマ）幼稚園教育要領及び保育所保育指針 領域「表現」のねらい、内容、指導法について。 （到達目標）理論的に理解し、実践できるようになる。 ②（テーマ）表現活動指導の留意点を踏まえ、道具の使い方・素材の安全性の理解。 （到達目標）乳幼児・子どもの心と身体の安全を配慮し、指導計画・実践ができるようになる。 ③（テーマ）乳幼児・子どもが、いろいろなものから感じ・考えたことから創造性豊かな表現。 （到達目標）発達段階や個性を理解した上で指導計画・実践ができるようになる。 ④（テーマ）教材（絵本・紙芝居・劇等）を用いた発展的な指導。 （到達目標）読み聞かせだけではなくWEB等の利用、SDGsを考慮した指導ができるようになる。 ⑤（テーマ）乳幼児・子どもが表現した内容の評価。 （到達目標）領域「表現」のねらいを踏まえ評価できるようになる。															
授業の概要： 最初に、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」のねらい・内容を学び、考察を深めた後、到達目標について講義を行う。その後、3つのテーマに取り組み、実践力を身につける。 テーマ①お話・絵本・紙芝居・劇等を使ってイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する活動の指導。 テーマ②身近にある材料（素材）の色・形・手触りなどに気づき、それを使って楽しんだり遊んだりすることや、材料（素材）を工夫して作ることを楽しむ活動の指導。 テーマ③季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導。 具体的に、表現活動指導を行うために必要な4つの観点を踏まえた上で指導案を作成し、ロールプレイ（模擬指導）を行う。その後、検証し、改善を行う。 観点①乳幼児・子どもの発達段階の理解 観点②指導人数を踏まえた表現活動内容の計画 観点③活動環境の設定 観点④道具の使用法、材料（素材）の特性と安全性 ※遠隔（WEB）授業に変更の場合は、素材や技法などを変えて、概ね同等の内容を実施する。グループディスカッションは記述（WEB）での意見交換とする。															
授業計画： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 50%;">内容</th> <th style="width: 40%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点について講義を行い、ディスカッション・質疑応答において理解を深める。 簡単な表現演習も行う。</td> <td>準備学習 幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」を読み、内容について全体像を把握する。(30分) 復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章で振り返る。(30分)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>乳幼児・子どもの表現活動をどのように指導するのか実技演習を通して考え、発達段階に即した指導法について学ぶ。 どのような表現活動が興味をひき、創造性を育むのかについて演習を行う。</td> <td>準備学習 幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」を再確認する。(30分) 復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章で振り返る。(30分)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>表現活動指導の現場を想定し、乳幼児・子どもがどのようにすれば表現や創作活動に向き合い、自ら進んで実践するのか導入について学び、演習を通じて試行錯誤し深める。</td> <td>準備学習 指導案の様々なモデルを書籍・WEB等でリサーチしておく。(30分) 復習学習 学んだ指導案の作成方法を振り返り、作成方法を記憶す</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点について講義を行い、ディスカッション・質疑応答において理解を深める。 簡単な表現演習も行う。	準備学習 幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」を読み、内容について全体像を把握する。(30分) 復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章で振り返る。(30分)	第2回	乳幼児・子どもの表現活動をどのように指導するのか実技演習を通して考え、発達段階に即した指導法について学ぶ。 どのような表現活動が興味をひき、創造性を育むのかについて演習を行う。	準備学習 幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」を再確認する。(30分) 復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章で振り返る。(30分)	第3回	表現活動指導の現場を想定し、乳幼児・子どもがどのようにすれば表現や創作活動に向き合い、自ら進んで実践するのか導入について学び、演習を通じて試行錯誤し深める。	準備学習 指導案の様々なモデルを書籍・WEB等でリサーチしておく。(30分) 復習学習 学んだ指導案の作成方法を振り返り、作成方法を記憶す
回数	内容	準備学習													
第1回	幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点について講義を行い、ディスカッション・質疑応答において理解を深める。 簡単な表現演習も行う。	準備学習 幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」を読み、内容について全体像を把握する。(30分) 復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章で振り返る。(30分)													
第2回	乳幼児・子どもの表現活動をどのように指導するのか実技演習を通して考え、発達段階に即した指導法について学ぶ。 どのような表現活動が興味をひき、創造性を育むのかについて演習を行う。	準備学習 幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」を再確認する。(30分) 復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章で振り返る。(30分)													
第3回	表現活動指導の現場を想定し、乳幼児・子どもがどのようにすれば表現や創作活動に向き合い、自ら進んで実践するのか導入について学び、演習を通じて試行錯誤し深める。	準備学習 指導案の様々なモデルを書籍・WEB等でリサーチしておく。(30分) 復習学習 学んだ指導案の作成方法を振り返り、作成方法を記憶す													

<p>第4回 「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」① 指導案を作成する。</p>	<p>る。(30分) 準備学習 お話・絵本・紙芝居・劇を調べ、自分がテーマとしたいものを決定しておく。(30分) 復習学習 作成した指導案の模擬指導ができるように練習する。(30分)</p>
<p>第5回 「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」② 指導案に基づきグループ内で模擬指導を行う。その後、幼児が豊かな感性や創造力を育むための指導をテーマにグループの模擬指導を振り返る。</p>	<p>準備学習 自分の作成した指導案による模擬指導の練習を行ってくる。(30分) 復習学習 グループの振り返りから学んだことを指導案に取り入れ記述する。(30分)</p>
<p>第6回 「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」③ グループ代表者による模擬指導を行う。指導役以外は、幼児役として指導を受ける。終了後に振り返りと改善を行う。</p>	<p>準備学習 模擬指導の発表準備を行う。(30分) 復習学習 模擬指導の振り返りと改善点を文章にまとめる。(30分)</p>
<p>第7回 「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」④ グループ代表者の模擬授業から学んだことを取り入れ実践的なものとする。保育現場で行われている実践指導、幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校教科とのつながりの実例を講義によって学び、指導案に反映させる。</p>	<p>準備学習 保育実践の事例、表現活動における小学校教科とのつながりについてリサーチする。(30分) 復習学習 自分が作成した指導案を再検討し完成させる。(30分)</p>
<p>第8回 「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」① 乳幼児・子どもの発達段階、指導対象人数、活動空間、使用する道具と材料(素材)を設定して作品製作の指導法を考える。</p>	<p>事前課題 幼児・子どもが表現に使いやすい身近にある素材をリサーチし持参する。(30分) 復習学習 自分が選んだ身近にある素材をテーマとした指導案を構想する。(30分)</p>
<p>第9回 「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」② 対象年齢・ねらいを決め、素材・道具の安全性を踏まえて作品製作を行う。</p>	<p>準備学習 自分が使用する素材・道具の不足分を再検討し、持参する。(30分) 復習学習 自分が行っている創作活動の手順を文章にする。(30分)</p>
<p>第10回 「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」③ 作品製作を行う。また、製作過程を振り返り指導案を作成する。</p>	<p>準備学習 指導案の原案を作る。(30分) 復習学習 創作が未完成であれば完成させる。指導案を推敲する。(30分)</p>
<p>第11回 「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」④ 全員の作品を鑑賞し、表現活動が幼児にどのような発達を促すか、幼児の成長と発達がどのような小学校の教科につながるかについてディスカッションする。</p>	<p>準備学習 幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりについて発表準備を行う。(30分) 復習学習 授業内容を踏まえて指導案を完成させる。(30分)</p>
<p>第12回 「季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」① 構想。季節の変化や自然の美しさを感じる心、年中行事で体感する伝統・文化について発表し、授業目的を共有する。</p>	<p>準備学習 季節の変化・自然の美しさ・年中行事についてリサーチする。(30分) 復習学習 季節の変化・自然の美しさ・年中行事から自分の指導したいテーマを絞る。(30分)</p>
<p>第13回 季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」② 季節の変化・自然の美しさ・年中行事から自</p>	<p>準備学習 保育現場で行われている季節の変化・自然の美しさ・年中行事の指導のリサーチをする。</p>

<p>分のテーマを決定し、指導案を構想する。</p> <p>第14回 「季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」③ 作成した指導案に基づき、表現・製作活動を行う。</p> <p>第15回 「季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」④ 全員による指導案及び表現・創作活動の合評を行い、季節の変化や自然の美しさを感じることや行事に親しむ表現活動が感情や感覚を豊かにすることについて、また小学校の教科とどのようにつながっていくかといったことについてディスカッションする。</p> <p>定期試験 定期試験期間中を提出締切とする製作課題を出し、それを定期試験とする。</p>	<p>(30分)</p> <p>復習学習 授業内容を踏まえ指導案構想を深める。(30分)</p> <p>準備学習 素材と道具を選定し持参する。(30分)</p> <p>復習学習 表現・創作活動の振り返りを行う(30分)</p> <p>準備学習 表現・創作活動を振り返り合評準備を行う。(30分)</p> <p>復習学習 定期試験としての製作物提出の準備を行う。(30分)</p>
<p>フィードバックの方法：</p>	
<p>第7回：お話・絵本・紙芝居・劇等の演習を振り返り、要点や注意点を示したプリントあるいはWEB資料を配布する。</p>	
<p>第11回：乳幼児が身近にある材料を使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現の授業を振り返り、要点や注意点を示したWEB資料を送信する。</p>	
<p>第15回：季節・自然・行事に親しむことを通して行う表現活動の指導の振り返り、要点や注意点を示したWEB資料を送信する。</p>	
<p>テキスト：「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説」・自作によるテキスト</p>	
<p>参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領解説」（最新版）（文部科学省フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（厚生労働省フレーベル館） 授業内容に合わせた参考資料・自作による表現の手引き</p>	
<p>オープンな教育リソース： ホームページ ベップヒロミサイト beppuhiromi.com 紙ライブ https://www.youtube.com/channel/UCT-Lh2PrQJghI1AWvWpi9Jg</p>	
<p>学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①作品表現70% ②提出された指導案やレポート、構想スケッチ 20% ③授業態度 10%</p>	
<p>実務家教員による授業科目：絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。</p>	

授業科目名：230124422 表現活動指導法（創作活動）Ⅱ 2年後期	必修：幼	単位数： (2単位)	担当教員名：別府 浩実 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 授業の到達目標は下記3項目である。 ①（テーマ）表現活動指導法（創作活動）Ⅰの授業到達目標5項目の習熟度を再確認。 （到達目標）内容を「発展」させ「深める」ことを目標とする。 ②（テーマ）保育現場を想定しグループで連携し、表現活動の計画と実践。 （到達目標）保育現場における展示会・行事（お祭り）の計画と実践が行える。 ③（テーマ）保育の動向の researched を元にした指導法の構想、教材製作。 （到達目標）電子媒体を積極的に使う力を育成し、実践的に使用できるようにする。			
授業の概要： 最初に、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」のねらい、内容、指導法についての理解を確認する。その後、表現活動指導法（創作活動）Ⅰで取り組んだテーマ3項目①②③を保育現場で実践するために、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）の3分類に発展させ、本授業テーマ、共同指導や共同作業を通して互いに創造性を豊かにしていく指導法を展示と発表によって探求する。まとめとして保育教材研究及び指導法研究を行い、保育構想の向上に取り組むことのできる力を育成する。 ※遠隔（WEB）授業に変更の場合は、素材や技法などを変えて、概ね同等の内容を実施する。グループディスカッションは記述（WEB）での意見交換とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点について再確認する。また、責任実習（年齢・時間・人数・場所等）を想定した表現活動の指導内容を考え、作品を作成する。	準備学習 自分が実習を行う保育現場を想定し責任実習に使う指導案を数パターン考えてくる。(30分) 復習学習 自分が作成した指導案に沿った指導の練習を行う。(30分)	
第2回	保育現場における、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）・演じるをテーマとした表現活動について映像を見る。幼児の心情・認識・動きについて講義で学ぶ。情報機器とWEB活用について学ぶ。	準備学習 保育現場で実践されている、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）について調べる。(30分) 復習学習 楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）・演じるについて、自分が取り組みたい内容を書き出す。(30分)	
第3回	「展示・発表会を企画・運営すること」について展示・発表会の全体デザイン・実行計画を進める。その後、グループを構成し、ミーティングを行い、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）・演じる（劇等）の表現活動、指導内容を発想する。 ※この授業発表を、大学祭・あるいは授業内発表にするのかは状況を見て授業担当教員が決定する。	準備学習 幼児を対象とした、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）・演じる（劇等）を調べ、発表できるようにしておく。(30分) 復習学習 共有した表現活動、指導内容についてまとめる。(30分)	
第4回	展示・発表の全体デザインとして、各グループの計画書に基づき学内の展示・発表場所を選定し、製作内容を決定する。各グループ一人一人の役割を分担し、日程・進行の計画案を作成し、製作材料についてリサーチする。	準備学習 グループの材料と必要経費についてリサーチする。(30分) 復習学習 グループで共有している展示・発表の構想を文章にまとめる。(30分)	
第5回	共同作業の効率と役割分担を考え、分業による構想・試作・練習を行う。	準備学習 グループで計画したテーマの道具・材料・機材を準備する。(30分)	

第6回	分業による製作物を合体させ共同作業を行う。展示・発表空間の安全性、展示物の耐久性・安全性等の再検討を行う。	<p>復習学習 分担された構想・試作を行う。(30分)</p> <p>準備学習 乳幼児・子どもの行動の危険・安全対策の事例を調べる。(30分)</p> <p>復習学習 展示・発表空間の安全性、展示物の耐久性・安全性について再考する。(30分)</p>
第7回	展示・発表会のシミュレーション。テーマであった楽しむ(ゲーム・レクリエーション)・遊ぶ(工作・立体・遊び場)・飾る(絵画・壁面)・演じる(劇等)について模擬発表を行う。	<p>準備学習 発表、指導、遊びの補助の準備を行う。(30分)</p> <p>復習学習 発表の振り返りを基に改善する。(30分)</p>
第8回	グループによる展示物の設置・発表 楽しむ(ゲーム・レクリエーション)・遊ぶ(工作・立体・遊び場)・飾る(絵画・壁面)・演じる(劇等)を行い、 乳幼児、子どもの参加があった場合は、実践的な表現活動・指導・遊びの補助を行う。 また、子どもの感情や思考がどう動くか、年齢による発達段階の違いについて観察を行う。 ※この授業を大学祭での発表とした場合は、授業日の振替を行う。	<p>準備学習 グループで発表準備を行う。(30分)</p> <p>復習学習 授業内容(グループによる分析と考察)を文章にまとめる。(30分)</p>
第9回	展示・発表空間の後片付け・教室の整理整頓(表現活動においては、後片付けまで指導の一部と考える。)発表・展示空間の解体、ゴミの分別・清掃を役割分担して行う。 クリスマスの装飾を製作する。	<p>準備学習 展示発表後に必要な書類をまとめる。(30分)</p> <p>復習学習 保育現場におけるクリスマスの製作物をリサーチする(30分)</p>
第10回	領域「表現」のまとめとして、保育教材及び指導法研究を行う。創作活動のねらい・指導の留意点・小学校との教科とのつながり・現代の保育実践の動向・幼稚園教育における評価の考え方についてWEBを利用してリサーチし、自分が取り組む保育教材を構想する。初回は、講義とリサーチを行う。	<p>準備学習 現代の保育実践の動向について、WEBを利用してリサーチを行う。(30分)</p> <p>復習学習 自分が働く現場を想定し、そこで使用できる領域「表現」の教材を構想する。(30分)</p>
第11回	図書館・WEBを利用して保育教材及び指導法研究についてリサーチを行う。 領域「表現」のねらい・内容を再確認した上で保育教材作成の道具と素材を集める。	<p>準備学習 前回、WEBを利用してリサーチした内容を深める。(30分)</p> <p>復習学習 保育教材あるいは指導法の構想・試作を深める。(30分)</p>
第12回	自分が製作する保育教材の構想を行う。	<p>準備学習 自分が現場で使用する保育教材あるいは指導法の方向性を絞っておく。(30分)</p> <p>復習学習 自分が現場で使用する保育教材あるいは指導法を決定する。(30分)</p>
第13回	自分が製作する保育教材の製作を進める。	<p>準備学習 製作方法を構想する。(30分)</p> <p>復習学習 製作方法を構想する。(30分)</p>
第14回	自分が製作する保育教材の製作を進める。	<p>準備学習 完成に向けて進める。(30分)</p> <p>復習学習 完成に向けて進める。(30分)</p>
第15回	自分が製作する保育教材の製作を進める。また、製作物への講評、および、表現活動指導法(創作活動)Ⅱの授業のまとめを教員から伝える。	<p>準備学習 完成に向けて進める。(30分)</p> <p>復習学習 試験としての製作物提出の準備をする。(30分)</p>

<p>定期試験 定期試験期間中を提出締切とする製作課題を出し、それを定期試験とする。</p>
<p>フィードバックの方法： 第5回 共同作業の効率と役割について、改善提案を示したプリントあるいはWEB資料を配布する。 第9回 楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）展示・発表についてアンケート結果等をプリントあるいはWEB資料で示す。 第11回 保育現場における教材・指導法について総括的なプリントあるいはWEB資料を配布する。</p>
<p>テキスト：「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」・自作のテキスト</p>
<p>参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領解説」（最新版）（文部科学省フレーベル館）・「保育所保育指針解説」（最新版）（厚生労働省フレーベル館）・授業内容に合わせた参考資料・自作による表現の手引き</p>
<p>オープンな教育リソース：ホームページ ベップヒロミサイト https://www.bepuhiromi.com 紙ライブ https://www.youtube.com/channel/UCT-Lh2PrQJghI1AWvWpi9Jg</p>
<p>学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①作品製作・表現 70% ②提出した指導案やレポート、構想スケッチ 20% ③授業態度 10%</p>
<p>実務家教員による授業科目：絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。</p>

授業科目名：2300014621 保育教材演習（紙芝居・絵本）（選択） 2年前期	必修：	単位数： 1単位	担当教員名：別府 浩実 担当形態：演習 単独																		
施行規則等に定める 科目区分又は事項等																					
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7																					
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 乳児・幼児・子どもの心への理解を深め、発達段階に合った紙芝居や絵本を選び、読み聞かせや演じる表現ができるようになる。また、紙芝居や絵本を製作できるようになる。 ・年齢や発達段階に合った絵本や紙芝居を選ぶことができる。 ・ジャンルを理解し、対象や目的に応じたテーマを選ぶことができる。 ・日本および世界の絵本に触れ、様々な視点や考え方を保育・教育現場に活かすことができる。 ・紙芝居・絵本の仕組みや構造を理解し、自ら製作できるようになる。 【テーマ】 紙芝居・絵本の理解、実践技術の習得、子どもの感性育成、計画と振り返り。																					
授業の概要： ・紙芝居・絵本の構造と表現形式を理解し、様々な絵本や紙芝居に接し、内容や表現を分析する。 ・様々なジャンルの紙芝居や絵本の読み聞かせや演じ方を習得する。 ・自分で作りたい紙芝居や絵本のテーマを見つけ、製作する。 ・習得した技術・知識・経験を踏まえ、表現の演習を行う。 ※遠隔（WEB）授業に変更の場合は、素材や技法などを変えて、概ね同等の内容を実施する。グループディスカッションは記述（WEB）での意見交換とする。																					
授業計画： <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">回数</th> <th style="width:50%;">内容</th> <th style="width:40%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td> 「紙芝居と絵本、どこが違う？」 初回は、シラバスを説明した後、絵本と紙芝居の構造・演じ方・環境構成・対象の年齢・人数について講義を行う。 ・紙芝居と絵本の特徴や表現方法の違いについて学ぶ。 ・切り紙（物語の素材）を作る演習。 </td> <td> 準備学習 シラバスを読んで授業構成の全体像を把握する。（30分） 復習学習 紙芝居・絵本の構造と演じ方について学んだ内容をまとめる。（30分） </td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td> 「紙芝居を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）紙芝居を準備し、演じる。演者と観客を経験した上で、持参した絵本と紙芝居について、作者・画家について、物語・内容について、対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って、小さな本を作る演習。 </td> <td> 準備学習 自分の好きな（思い出の）紙芝居を探し、演じる練習をする。（30分） 復習学習 演じた内容の振り返り、自分の演技の改善（PDCA）を行う。（30分） </td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td> 「絵本を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）絵本を準備し、読み聞かせをする。読み手と聞き手を経験した上で、作者・物語・内容・対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って作った小さな本を演じる演習。 </td> <td> 準備学習 自分の好きな（思い出の）絵本を探し、読み聞かせの練習をする。（30分） 復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善を行う。（30分） </td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td> 赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深める） ・赤ちゃん絵本の特性や表現について分析し、乳幼児の発達段階への理解を深める。 ・オノマトペ（擬音）やジェスチャー（身振り・手振り）を使った表現を演じる。 </td> <td> 準備学習 赤ちゃん絵本を選び、読み聞かせの練習をする。（30分） 復習学習 自分とグループの演じた内容を振り返り、改善を行う。（30分） </td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td> 赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深 </td> <td> 準備学習 赤ちゃん絵本・紙芝居 </td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	「紙芝居と絵本、どこが違う？」 初回は、シラバスを説明した後、絵本と紙芝居の構造・演じ方・環境構成・対象の年齢・人数について講義を行う。 ・紙芝居と絵本の特徴や表現方法の違いについて学ぶ。 ・切り紙（物語の素材）を作る演習。	準備学習 シラバスを読んで授業構成の全体像を把握する。（30分） 復習学習 紙芝居・絵本の構造と演じ方について学んだ内容をまとめる。（30分）	第2回	「紙芝居を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）紙芝居を準備し、演じる。演者と観客を経験した上で、持参した絵本と紙芝居について、作者・画家について、物語・内容について、対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って、小さな本を作る演習。	準備学習 自分の好きな（思い出の）紙芝居を探し、演じる練習をする。（30分） 復習学習 演じた内容の振り返り、自分の演技の改善（PDCA）を行う。（30分）	第3回	「絵本を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）絵本を準備し、読み聞かせをする。読み手と聞き手を経験した上で、作者・物語・内容・対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って作った小さな本を演じる演習。	準備学習 自分の好きな（思い出の）絵本を探し、読み聞かせの練習をする。（30分） 復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善を行う。（30分）	第4回	赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深める） ・赤ちゃん絵本の特性や表現について分析し、乳幼児の発達段階への理解を深める。 ・オノマトペ（擬音）やジェスチャー（身振り・手振り）を使った表現を演じる。	準備学習 赤ちゃん絵本を選び、読み聞かせの練習をする。（30分） 復習学習 自分とグループの演じた内容を振り返り、改善を行う。（30分）	第5回	赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深	準備学習 赤ちゃん絵本・紙芝居
回数	内容	準備学習																			
第1回	「紙芝居と絵本、どこが違う？」 初回は、シラバスを説明した後、絵本と紙芝居の構造・演じ方・環境構成・対象の年齢・人数について講義を行う。 ・紙芝居と絵本の特徴や表現方法の違いについて学ぶ。 ・切り紙（物語の素材）を作る演習。	準備学習 シラバスを読んで授業構成の全体像を把握する。（30分） 復習学習 紙芝居・絵本の構造と演じ方について学んだ内容をまとめる。（30分）																			
第2回	「紙芝居を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）紙芝居を準備し、演じる。演者と観客を経験した上で、持参した絵本と紙芝居について、作者・画家について、物語・内容について、対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って、小さな本を作る演習。	準備学習 自分の好きな（思い出の）紙芝居を探し、演じる練習をする。（30分） 復習学習 演じた内容の振り返り、自分の演技の改善（PDCA）を行う。（30分）																			
第3回	「絵本を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）絵本を準備し、読み聞かせをする。読み手と聞き手を経験した上で、作者・物語・内容・対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って作った小さな本を演じる演習。	準備学習 自分の好きな（思い出の）絵本を探し、読み聞かせの練習をする。（30分） 復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善を行う。（30分）																			
第4回	赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深める） ・赤ちゃん絵本の特性や表現について分析し、乳幼児の発達段階への理解を深める。 ・オノマトペ（擬音）やジェスチャー（身振り・手振り）を使った表現を演じる。	準備学習 赤ちゃん絵本を選び、読み聞かせの練習をする。（30分） 復習学習 自分とグループの演じた内容を振り返り、改善を行う。（30分）																			
第5回	赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深	準備学習 赤ちゃん絵本・紙芝居																			

	める) ・赤ちゃん(乳幼児)向けの絵本・紙芝居を作る。 ・シンプルな色や形・安全な素材による造形を行う。	製作に必要な素材・画材を探して くる。(30分) 復習学習 自作の赤ちゃん絵本・ 紙芝居の表現の練習を行う。 (30分)
第6回	赤ちゃん・乳幼児対象の絵本・紙芝居(乳幼児の発達段階への理解を深める) ・赤ちゃん(乳幼児)向けの絵本・紙芝居を作り、演じる。	準備学習 赤ちゃん絵本・紙芝居 製作に必要な素材・画材を探して くる。(30分) 復習学習 自作の赤ちゃん絵本・ 紙芝居の表現の練習を行う。 (30分)
第7回	子ども・ヤングアダルト・高齢者の紙芝居・絵本(自己実現に向き合う) ・子どもから大人まで対象の紙芝居・絵本を分析し、ディスカッションを行う。 ・表情(喜怒哀楽)の表現の演習。特徴を捉えて描く演習。	準備学習 自分が興味を持った子ども・ヤングアダルトの紙芝居・絵本を見つけ、発表準備を行う。 (30分) 復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善を行う。 (30分)
第8回	子ども・ヤングアダルト・高齢者の紙芝居・絵本(自己実現に向き合う) ・様々な視点から子どもから大人まで対象の絵本を分析し、読み聞かせを行う。 ・植物(木・草・花)の表現。特徴を捉え、デザインして描く演習。	準備学習 自分が興味を持った子ども・ヤングアダルトの紙芝居・絵本の読み聞かせ練習を行う。 (30分) 復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善を行う。 (30分)
第9回	「どんなジャンルがあるのか?」(人間の歴史) ・昔話・神話・伝説・創作系のジャンルについて分析と考察し、ディスカッションを行う。 ・動物表現。特徴を捉え、デザインして描く演習。	準備学習 自分が興味を持った昔話・神話・伝説・創作系のジャンルの紙芝居・絵本を見つけ、発表準備を行う。(30分) 復習学習 読み聞かせを振り返り、改善を行う。(30分)
第10回	絵本・紙芝居の体験 絵本や紙芝居等について学びを深めることができる催し・あるいは施設(美術館・図書館・博物館)へ見学に行く。	準備学習 見学先のリサーチを行う。(30分) 復習学習 見学を振り返りレポートにまとめる。(30分)
第11回	(1) 自作の絵本・紙芝居を作る演習(構想をする) ・授業の知識と表現演習を生かして、自作の絵本・紙芝居を作る。 ・テーマ・対象の年齢・絵本と紙芝居の構造・演じ方といった授業で学んだ内容を踏まえ、テーマを決め、構想をする。	準備学習 自分の作りたいテーマをいくつか選んでくる。(30分) 復習学習 自分の作りたいテーマと同じ絵本や紙芝居をリサーチする。(30分)
第12回	(2) 自作の絵本・紙芝居を作る演習(絵コンテを描く) ・物語あるいは内容の絵コンテを作成する。	準備学習 自分の作りたい物語・内容のキャラクターを構想する。 (30分) 復習学習 絵コンテを推敲する。 (30分)
第13回	(3) 自作の絵本・紙芝居を作る演習(描く・作る) ・製作を行う。	準備学習 素材・資料を準備する。 (30分) 復習学習 製作を進める。 (30分)
第14回	(4) 自作の絵本・紙芝居を作る演習 ・製本・紙芝居の仕上げをする	準備学習 製作を進める。 (30分) 復習学習 製作の未成分を補う。(30分)
第15回	(5) 自作の絵本・紙芝居を作る演習 ・自作の読み聞かせと合評	準備学習 発表の準備を行う。 (30分)

定期試験 定期試験期間中を提出締切とする製作課題を出し、それを定期試験とする。	復習学習 合評を振り返り、改善を行う。(30分)
フィードバックの方法：	
第6回：提出された赤ちゃん絵本・紙芝居に、物語・絵・製本・読み聞かせ方等についてのアドバイス資料を配布あるいは送信する。	
第7~9回：提出された表情（喜怒哀楽）・植物（木・草・花）・動物・建物・人工物の表現について、具体的な資料を配布あるいは送信する。	
第15回：提出された自作の絵本・紙芝居に、物語・絵・製本・読み聞かせ方等についての資料を配布あるいは送信する。	
テキスト： 保育所保育指針解説（最新版）、幼稚園教育要領解説（最新版）	
参考書・参考資料等： 授業計画によって準備した絵本・紙芝居・画集を参考資料とする。	
オープンな教育リソース： ホームページ ベップヒロミサイト https://www.beppuhiromi.com	
紙ライブ https://www.youtube.com/channel/UCT-Lh2PrQJghI1AWvWpi9Jg	
学生に対する評価：	
・授業の事前準備・授業態度 20%	
・製作・表現（授業の目的を理解しているか・創意工夫・完成度の高さ）70%	
・レポート提出等（基礎造形の知識を習得できているか・素材や道具を理解しているか）10%	

授業科目名：2300114822 社会的養護Ⅱ 2年後期	必修：(卒)・保	単位数： 1単位	担当教員名：上田 美香 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 社会的養護Ⅱ		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について説明できる。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について説明できる。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における児童虐待の防止と家庭支援について理解する。 【テーマ】 社会的養護の現状や課題をふまえて、施設養護や里親制度における支援の実際を理解する。			
授業の概要：社会的養護の現状として、入所児童の特徴や傾向を把握する。特に、被虐待児や障がいのある児童の増加が背景にあることから、施設養護である乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設等に焦点をおき、子どもたちや保護者が抱える社会的、心理的課題に対する専門的支援についての理解を深める。この授業では事例を用いながらワークシート、グループ学習、発表などを通して、保育士として必要とされる知識及び援助の在り方を学び、実践力を習得することを目指す。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	子どもの権利擁護について理解する。 ・里親家庭や施設など、組織として子どもの権利擁護を図る取り組みや運営について学び、子どもの権利擁護の質の向上を図るための方法について学修する。	社会的養護Ⅰを振り返り、教科書pp.1-12を読み、子どもの権利擁護の基本について、下調べをする(60分)。	
第2回	社会的養護における子どもの背景や特徴を理解する。 ・子どもの理解を深めていくための理解の仕方やアプローチについて学ぶとともに、社会的養護のもとで生活する子どもやその家庭環境などについて理解を深める。	教科書pp.13-24を読み、社会的養護のもとで生活する子どもの心身や学業の状況について、下調べをする(60分)。	
第3回	社会的養護の内容①日常生活支援について理解する。 ・日常生活支援に関する事例を分析することを通して、日常生活での支援のあり方についてグループディスカッションをおこなう。	教科書pp.25-36を読み、衣食住や生活環境の整備などの日常生活支援について、下調べをする(60分)。	
第4回	社会的養護の内容②心理的支援について理解する。 ・社会的養護における子どもの心理的支援の特徴や養育者支援について、実践例を読み理解を深める。	教科書pp.37-48を読み、多職種や他機関とのチーム連携を取り入れた心理的支援について、下調べをする(60分)。	
第5回	社会的養護の内容③自立支援について理解する。 ・社会的養護の子どもの退所後の進路や自立についての理解を深め、さまざまな「居場所」や切れ目ない支援について理解を深める。	教科書pp.49-60を読み、社会的養護から巣立つ子どもの自立支援について下調べをして、多様な「自立」を知る(60分)。	
第6回	乳児院等の生活特性および実際について理解する。 ・法令や統計などをもとに各施設の生活の特性について理解し、援助内容や今後の方向性と課題について、理解を深める。ミニレポートを作成する。	教科書pp.61-72を読み、乳児院や児童養護施設および母子生活支援施設の生活特性について、下調べする(60分)。	
第7回	障害児施設の生活特性および実際を理解する。 ・障害児施設等の定義、子どもの特徴、施設の機能・支援の内容について、理解を深める。	教科書pp.73-84を読み、児童心理治療施設、児童自立支援施設および障害児施設の特性について、下調べをする(60分)。	
第8回	家庭養護の生活特性および実際を理解する。 ・実親家庭と養育里親家庭の違いについて、ワークシート	教科書pp.85-96を読み、養育里親や養子縁組などの家庭養護の	

	を用いて学修する。	制度について、下調べをする(60分)。 教科書pp.97-108を読み、アセスメントとは何かを理解し、「自立」について、説明できるようにする(60分)。
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成を体験する。 ・自立支援計画が何のためにあるのかを考え、事例をもとに、実際に自立支援計画の策定を体験し、「自立」についての理解を深める。	教科書pp.109-120を読み、社会福祉の現場における「記録」と「評価」について下調べをする(60分)。
第10回	記録および自己評価について理解する。 ・記録の意義と役割、自己評価について学修する。さらにグループディスカッションを通じて、社会的養護の現場で保育士に求められる記録について、理解を深める。	教科書pp.121-132を読み、児童福祉施設と保育士の配置と現場での対応について、下調べをする(60分)。
第11回	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践について学修する。 ・社会的養護系児童福祉施設の支援における保育士の専門性について理解を深め、実践力について学修する。	教科書pp.133-144を読み、相談援助(ソーシャルワーク)の定義や体系について、下調べをする(60分)。
第12回	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践について学修する。 ・日常生活のケアや課題解決・ニーズ充足のための支援として、相談援助の展開過程を学ぶ。	教科書pp.145-156を読み、ソーシャルワークにおける支援方法の基本やスキルについて下調べをする(60分)。
第13回	社会的養護におけるソーシャルワーク(知識・技術とその応用)を学修する。 ・社会的養護におけるソーシャルワークの意味とその必要性を理解し、演習によりソーシャルワークに触れる。ミニレポートを作成する。	教科書pp.157-170を読み、「家庭を支援する」ことについて下調べをして、「幸せな子育て家庭」をイメージする(60分)。
第14回	社会的養護における家庭支援についての理解を深める。 ・社会的養護が代替的養育の提供だけではなく、子どもとその保護者・家庭を支援することを踏まえ、実際の支援場面での対応を学修する。	教科書pp.171-182を読み、これまでの授業を振り返り、社会的養護における保育士の役割について、説明できるようにする(60分)。
第15回	今後の社会的養護の課題と展望について学修する。 ・こども家庭庁「社会的養育の推進に向けて(令和7年1月)」をふまえて、保育士の役割について理解を深める。	
定期試験	定期試験期間中に筆記試験をおこなう。	
フィードバックの方法：ミニレポート、リアクションペーパーは、講評して返却する。		
授業実施形態：対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。		
テキスト：公益財団法人児童育成協会(監修)相澤仁、村井美紀、大竹智(編集)『社会的養護Ⅱ〔第2版〕』中央法規、2026		
参考書・参考資料等：全国保育士養成協議会(監修)宮島清・山縣文治(編集)『ひと目でわかる 保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2026』中央法規、2025		
「e-GOV 法令検索」 https://elaws.e-gov.go.jp/		
こども家庭庁支援局家庭福祉課「社会的養育の推進に向けて(令和7年1月)」 https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/8aba23f3-abb8-4f95-8202-f0fd487fbe16/85d5a9d1/20250108_policies_shakaiteki-yougo_115.pdf		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：授業に関するリアクションペーパー(20%)、ミニレポート(20%)、定期試験(60%)を総合して評価する。		

授業科目名：2300114922 子育て支援 2年後期	必修：(卒)・保	単位数： 1単位	担当教員名：村上 悦子 担当形態：演習 単独																							
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 子育て支援																									
学習成果該当番号：1. 3. 5. 6																										
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 保育所における保護者に対する子育て支援の基本的事項を踏まえ、保育者の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を理解できる。また、様々な場や対象に即した支援内容と方法及び関係機関との連携と協働について実践事例を通して学び、保護者の子育て力の向上を目指した具体的な支援への理解を深めることができる。 【テーマ】 保育者の専門性を生かした保護者に対する子育て支援の実際とその役割について学ぶ。また、孤立感や子どもの接触経験の少なさから起こる育児不安等に対して、保護者が持つ力を引き出すことや子育てを保護者と共有することで、お互いに成長できるような具体的な支援を考えていく。																										
授業の概要： 子どもの保育を通じた保護者への支援のあり方について、事例を題材として検討する。その際、グループワークやグループディスカッションなどを取り入れて、自分の考えをもとに他者と意見を交し合いながら学びを深めていく。また、子育て全般に関わる相談に対して適切なアドバイスを行うにあたり、親子を取り巻く地域資源や社会資源との関連を考えた上で専門機関との連携や役割について具体策を見出していく。																										
授業計画： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 60%;">内容</th> <th style="width: 30%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td><u>子育ての負担や不安を抱えている保護者への支援</u> 現代の子育て家庭の問題や課題を知る。子どもと家庭生活を取り巻く社会的状況の中で、保育者が子育て支援を行う意義について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。</td> <td rowspan="2">教科書P1～P12及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td><u>日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成</u> 保護者との相互理解と信頼関係の形成、さらに保育者の基本態度としてバイステックの7原則について演習形式で学ぶ。幼稚園や幼保連携型認定こども園における保護者への支援について学ぶ。リアクションペーパーの提出を求める。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td><u>保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと多面的な理解</u> 少子化社会・家族形態の変容の中で多様化する子育て家庭の支援ニーズについて知り、子育て家庭の力を育む支援の在り方について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。</td> <td>教科書P13～P24及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td><u>子ども及び保護者の状況・状態の把握</u> 子育て支援を実践するために、ソーシャルワークの基本的支援の枠組みを理解する。また、適切な支援を実践するために、支援者としての倫理について理解する。リアクションペーパーの提出を求める。</td> <td>教科書P25～P34及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td><u>支援の計画と環境の構成</u> 支援の計画を立てる際の留意点を整理し、事例に沿った計画の作成を通して理解を深める。それらをもとに計画を立てる際の環境について考察していく。リアクションペーパーの提出を求める。</td> <td>教科書P47～P58及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td><u>支援の実践・記録・評価・カンファレンス</u> 支援プロセスにおける支援の実践、記録、評価について事例に基づいた演習により理解を深める。評価やカンファレンスを通じた実践の振り返りについて考える。リアクションペーパーの提出を求める。</td> <td>教科書P59～P70及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td><u>職員間の連携・協働</u> 職員間の連携・協働の必要性、保育の質の向上に向けた組織的な取り組み、職員間の連携・協働のためのカンファレンスについて演</td> <td>教科書P71～P82及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	<u>子育ての負担や不安を抱えている保護者への支援</u> 現代の子育て家庭の問題や課題を知る。子どもと家庭生活を取り巻く社会的状況の中で、保育者が子育て支援を行う意義について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P1～P12及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)	第2回	<u>日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成</u> 保護者との相互理解と信頼関係の形成、さらに保育者の基本態度としてバイステックの7原則について演習形式で学ぶ。幼稚園や幼保連携型認定こども園における保護者への支援について学ぶ。リアクションペーパーの提出を求める。	第3回	<u>保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと多面的な理解</u> 少子化社会・家族形態の変容の中で多様化する子育て家庭の支援ニーズについて知り、子育て家庭の力を育む支援の在り方について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P13～P24及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)	第4回	<u>子ども及び保護者の状況・状態の把握</u> 子育て支援を実践するために、ソーシャルワークの基本的支援の枠組みを理解する。また、適切な支援を実践するために、支援者としての倫理について理解する。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P25～P34及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)	第5回	<u>支援の計画と環境の構成</u> 支援の計画を立てる際の留意点を整理し、事例に沿った計画の作成を通して理解を深める。それらをもとに計画を立てる際の環境について考察していく。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P47～P58及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)	第6回	<u>支援の実践・記録・評価・カンファレンス</u> 支援プロセスにおける支援の実践、記録、評価について事例に基づいた演習により理解を深める。評価やカンファレンスを通じた実践の振り返りについて考える。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P59～P70及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)	第7回	<u>職員間の連携・協働</u> 職員間の連携・協働の必要性、保育の質の向上に向けた組織的な取り組み、職員間の連携・協働のためのカンファレンスについて演	教科書P71～P82及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)
回数	内容	準備学習																								
第1回	<u>子育ての負担や不安を抱えている保護者への支援</u> 現代の子育て家庭の問題や課題を知る。子どもと家庭生活を取り巻く社会的状況の中で、保育者が子育て支援を行う意義について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P1～P12及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)																								
第2回	<u>日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成</u> 保護者との相互理解と信頼関係の形成、さらに保育者の基本態度としてバイステックの7原則について演習形式で学ぶ。幼稚園や幼保連携型認定こども園における保護者への支援について学ぶ。リアクションペーパーの提出を求める。																									
第3回	<u>保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと多面的な理解</u> 少子化社会・家族形態の変容の中で多様化する子育て家庭の支援ニーズについて知り、子育て家庭の力を育む支援の在り方について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P13～P24及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)																								
第4回	<u>子ども及び保護者の状況・状態の把握</u> 子育て支援を実践するために、ソーシャルワークの基本的支援の枠組みを理解する。また、適切な支援を実践するために、支援者としての倫理について理解する。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P25～P34及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)																								
第5回	<u>支援の計画と環境の構成</u> 支援の計画を立てる際の留意点を整理し、事例に沿った計画の作成を通して理解を深める。それらをもとに計画を立てる際の環境について考察していく。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P47～P58及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)																								
第6回	<u>支援の実践・記録・評価・カンファレンス</u> 支援プロセスにおける支援の実践、記録、評価について事例に基づいた演習により理解を深める。評価やカンファレンスを通じた実践の振り返りについて考える。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書P59～P70及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)																								
第7回	<u>職員間の連携・協働</u> 職員間の連携・協働の必要性、保育の質の向上に向けた組織的な取り組み、職員間の連携・協働のためのカンファレンスについて演	教科書P71～P82及び授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)																								

第 8回	習形式で学び、保育の質の向上に向けた組織的な取り組みの為にスーパービジョン、コンサルテーション体制を整えていくことの必要性を理解する。リアクションペーパーの提出を求める。 <u>社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働</u>	教科書P83～P94及び授業内で配布する参考資料を読むこと(60分)
第 9回	子育て支援に関連の深い関係機関や専門職との連携・協働について理解する。リアクションペーパーの提出を求める。 <u>保育所等における支援</u>	教科書P95～P106及び授業内で配布する参考資料を読むこと(60分)
第10回	保護者の子育てに関する悩みや不安、相談内容を整理し、「保育所等を利用している保護者」と「地域の保護者」に対するそれぞれの子育て支援の実際や配慮事項について、事例を通して理解を深める。リアクションペーパーの提出を求める。 <u>地域の子育て家庭に対する支援</u>	教科書P107～P118及び授業内で配布する参考資料を読むこと(60分)
第11回	社会資源について知る。保育者の専門性の整理と事例検討を行いより具体的に幼児施設及び保育者による地域の子育て支援について理解する。リアクションペーパーの提出を求める。 <u>障害のある子ども及びその家族に対する支援</u>	教科書P119～P130及び授業内で配布する参考資料を読むこと(60分)
第12回	子どもと接する上で必要な専門知識と保護者が子どもと上手に関わっていけるようになるための支援方法について学ぶ。事例をもとにロールプレイを行う。リアクションペーパーの提出を求める。 <u>特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援</u>	教科書P132～P142及び授業内で配布する参考資料を読むこと(60分)
第13回	ドメスティック・バイオレンスや保護者の精神疾患等の現状を整理し、ニーズの把握や配慮事項、支援の方法などを演習形式で考える。特別な配慮を必要とする家庭への支援の理解を深める。リアクションペーパーの提出を求める。 <u>子ども虐待の予防と対応</u>	教科書P144～P154及び授業内で配布する参考資料を読むこと(60分)
第14回	「子ども虐待」について「児童虐待の防止等に関する法律」等、関係する制度について知る。演習形式で子ども虐待等について具体的内容を理解する。リアクションペーパーの提出を求める。 <u>要保護児童等の家庭に対する支援</u>	教科書P156～P166及び授業内で配布する参考資料を読むこと(60分)
第15回	家庭支援の意義や機能、手法について知り、家庭とのつながりや再構築の諸相を演習形式で学ぶ。多種多様な家庭支援を実践していく為に必要不可欠な社会資源や今後の展望について学びを深める。リアクションペーパーの提出を求める。 <u>多様な支援ニーズを抱える子育て家庭への理解</u>	教科書P167～P178及び授業内で配布する参考資料を読むこと(60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：		
フィードバックとしてワークシート課題やリアクションペーパーにコメントを付して返却すると共に、次回の授業にて全体的なコメントを行う。		
テキスト： 『子育て支援』 西村重稀 青井夕貴 編集 中央法規出版		
参考書・参考資料等： 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）、授業内容に合わせたA4版1～2ページの自作資料を適宜配布する。		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価： 次の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定期試験の得点(60%) ②レポートや授業で調べた内容・リアクションペーパーの記録(30%) ③平素の学習状況及びグループワーク・グループディスカッション・ロールプレイ(10%)		
実務家教員による授業科目： 保育園での30年以上にわたる勤務経験を活かし、現状の支援制度と共に実践現場での具体的事例を交えながら、支援の実際について等を教授する。		

授業科目名：2400115821 子どもの理解と援助 2年前期	必修：保	単位数： 1単位	担当教員名：近藤 健太 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の対象の理解に関する科目 子どもの理解と援助		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ① 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解することができる。 ② 子どもの経験や学習過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解することができる。 ③ 子どもを理解するための具体的な方法を理解することができる。 ④ 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解することができる。 【テーマ】 子ども一人一人の心身の発達や、子どもの問題行動等の理解、援助に必要な基本姿勢の理解。			
授業の概要： 本講義では、保育現場で求められる、子どもを理解し援助するために必要な基本的な考えや方法、支援方法について学ぶことを目的とする。具体的には、子ども一人一人の心身の発達や、子どもの問題行動等の理解、援助に必要な基本姿勢について学習する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握（1） 保育における子ども理解の意義について学習する。	第1回～第15回：教科書の該当するページまたは授業内で配布する参考資料を読んでくること(各60分)	
第2回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握（2） 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わりについて学習する。		
第3回	行動観察・カウンセリングのワーク① 子どもの行動を観察することの意義とその方法について理解するとともに、共感的に相談業務を行うための方法についてグループワークを行う。		
第4回	子どもの学び・カウンセリングのワーク② 子どもが経験を通して学び取ることの大切さとその過程について知るとともに、共感的に相談業務を行うための方法についてグループワークを行う。		
第5回	子どもを理解する視点（2） 集団における経験と育ち、葛藤やつまずきについて学習する。		
第6回	子どもを理解するための観察・記録・省察・評価① 事例を通じて、子どもを観察する視点や記録方法、省察、評価についてグループで検討を行う。		
第7回	子どもを理解するための観察・記録・省察・評価② 事例を通じて、子どもを観察する視点や記録方法、省察、評価についてグループで検討を行う。		
第8回	機能的アセスメント① 子どもの行動を理解し、支援方法を組み立てるための機能的アセスメントの意義と方法を知る。		
第9回	機能的アセスメント② 子どもの行動を理解し、支援方法を組み立てるための機能的アセスメントの意義と方法を知る。		

- 第10回 保育施設実習の振り返り①
保育施設実習を振り返り、0～2歳児の対応についてグループワークにて検討する。
- 第11回 保育施設実習の振り返り②
保育施設実習を振り返り、幼児クラスへの対応についてグループワークにて検討する。
- 第12回 ちょっと困ったことをみんなで検討する会①
実習中に起きた子どものへの対応方法での困りごとなどを共有し、グループで解決方法を模索することで実際の子どもののかかわり方を検討する。
- 第13回 ちょっと困ったことをみんなで検討する会②
実習中に起きた子どものへの対応方法での困りごとなどを共有し、グループで解決方法を模索することで実際の子どもののかかわり方を検討する。
- 第14回 職員間・地域・専門機関との連携や対話(ケースカンファレンス)
グループワークを通じて、教員間や専門機関との対話の方法について学習する。
- 第15回 まとめと振り返り
第1回目～14回目のまとめと振り返りを行う。
- 定期試験 定期試験期間中に筆記試験を行う。

フィードバックの方法：随時、プリントやコメントシートを配布、回収し、その都度必要に応じてフィードバックを行う。また、グループワークでのコメントは、授業内にフィードバックを行う。

テキスト：「子どもの理解と援助」井戸ゆかり編 萌文書林

参考書・参考資料等：参考書は授業中にその都度紹介し、テーマに合わせた資料を配布する。

オープンな教育リソース：特になし

学生に対する評価：①定期試験成績60%、②提出物20%、③準備学習・授業への参加度（態度、グループワーク等）20%で総合的に判断し評価する。

授業科目名：2401015922 教育相談論 2年後期	必修：幼	単位数： 2単位	担当教員名：近藤 健太 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ①教育現場の実際の問題を知り教育相談の意義を理解し、説明できる。 ②教育相談の基礎となるカウンセリングについて理解し、対処できるようになる。 ③教育相談（カウンセリング）を実践するための基本的な視点を身につけて実践できる。 ④子どもや保護者に対して教育相談が実践できるような知識を身につける。 【テーマ】 幼稚園や教育現場で行われる教育相談活動において、子どもや保護者を理解するために必要な知識・方法および実際の介入方法などについて学習する。			
授業の概要： 教育相談とは、子どものこころの問題を扱うだけでなく、保護者や子どもを取りまくさまざまな環境なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本講義では、主に幼稚園や教育現場で行われる教育相談活動において、子どもや保護者を理解するために必要な知識・方法および実際の介入方法などについて知識を深め考察することを目的とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	心理学とは？ 相談業務を行うにあたり、心理学の概要について学習する。	シラバスを読み、予習をしておくこと。 (60分)	
第2回	行動の原理①：強化 行動の生起頻度を増やす手続きである「強化」について学習し、カウンセリング実施時の言語行動の強化について考える。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第3回	言語行動と傾聴 カウンセリングの実施時に重要とされている「傾聴」について、言語行動の観点から考える。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第4回	カウンセリングのワーク 言語行動を学習したうえで、傾聴とカウンセリング技法についてのロールプレイを行う	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第5回	行動の原理②：弱 行動の生起頻度を減らす手続きである「弱」について学習し、その効果的な使用範囲について考える	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第6回	機能的アセスメント(復習と新解説)① 機能的アセスメントについて、強化と弱化という新しい観点から理解する。	配布プリントを予習・復習する(60分)	
第7回	機能的アセスメント(復習と新解説)② 機能的アセスメント実施の練習を架空事例に対して行う。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第8回	様々な精神疾患の理解と薬① 統合失調症と睡眠薬について理解する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第9回	様々な精神疾患の理解と薬② うつ病と抗うつ薬、発達障害の薬について理解する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第10回	様々な精神疾患の理解と薬③ 不安障害について理解する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第11回	様々な心理療法① 心理療法の種類とその運用について知る。認知再構成法を体験する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第12回	様々な心理療法② 行動療法の原理とその種類について学習する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第13回	様々な心理療法③ 認知行動療法について学習する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	

第14回	様々な心理療法④ 認知行動療法の第三の波(ACT)について学習し、ACT-Matrixを体験する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)
第15回	まとめと振り返り	第1回目～第14回目までの配布プリントを予習・復習する。(60分)
定期試験	定期試験中を提出締め切りとする期末レポート課題を課す。	
フィードバックの方法：随時、プリントやワークシートを配布、回収し、その都度必要に応じてフィードバックを行う。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：授業中にその都度紹介し、テーマに合わせた資料を配布する。		
オープンな教育リソース：特になし		
学生に対する評価：レポート課題の成績(60%)、授業への参加度(態度、グループワーク等)(40%)で総合的に判断し評価する。		

授業科目名：2511116322 保育教育実践演習 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：山本 伸一 担当形態：演習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育教育実践演習 幼：教育実践に関する科目 教職実践演習 保：総合演習 保育実践演習		
学習成果該当番号：3. 4. 5. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 保育の重要な概念である発達、環境、遊び等の意味を確認するとともに、感情労働と職務専念義務という仕事の性格やあり方を具体的に理解する。また、保育の仕事には、乳幼児に直接働きかける仕事のほかに、それを支える様々な仕事を組織的、計画的に行っていることを具体的な事務処理のあり方を通して理解するとともに、その事務処理技術を学び実践に繋げることがができる。 【テーマ】 保育という仕事、行事、保育を支える諸活動の三つのテーマを柱として、保育に関する運営面を考究する。			
授業の概要： 「保育という仕事」で保育を考える基本的な概念を再考させ、「経営・運営の計画と実践」で行事や保育を支える諸活動の経営的な側面や運営上の留意点などを話し合っていく。なお、授業は、課題を把握した後、資料をもとに討議を重ね、最後に授業の主旨に基づいて自分の考えをまとめるという展開を基本にする。資料の読み取りや意見の発表は、そのまま実践的な演習としてとらえ、学生には主体的な授業態度を重視していることを伝えるとともに、学びが充実するように特に授業記録の整理や提出物の確実な提出と返却物の確実な保管を指導する。 また、保育者にとって必要な用語や漢字も学習し、記録の作成に応用できるような力も身につける。			
授業計画：			
回数 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回	内容 保育という仕事1 『短期大学生のための保育教育実践演習資料集』の保育の基本をもとに幼児教育における幼児観、教育観をディスカッションする。振り返りシートを時間内に作成する。 保育という仕事2 資料集の「感情労働」をもとに保育者の仕事の特徴を討議し、仕事を通じた成長の重要性を理解する。振り返りシートを時間内に作成する。 保育という仕事3 資料集の「職務専念義務」をもとに仕事の意味を理解して、仕事と人間の生き方について、ディスカッションする。振り返りシートを時間内に作成する。 行事1 資料集の「行事」をもとに行事が生活に変化と潤いをもたらすものであることを理解して、運動会が果たす役割を討議する。振り返りシートを時間内に作成する。 行事2 園外保育の実施手順についてディスカッションし、下見の重要性を理解する。振り返りシートを時間内に作成する。 行事3 園外保育下見のフィールドワークを行う。	準備学習 同資料集p12-p14の下調べ(60分) また教科書資料集pp136-140には授業ごとのまとめの問題を掲載しているので、準備学習として資料を読むとともに問題も予習するように指示する。 同資料集p15-p19の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し(60分) 同資料集p20-p24の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し(60分) 同資料集p81-84の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し(60分) 同資料集p85-p87を読んで、教育の森公園の位置を確認おく及び返却された振り返りシートの見直し(60分) 同資料集p86を見て、さまざまな報告書の書き方をインターネッ	

		トとの違いなどを調べておく (60分)
第7回	行事4 下見した結果をグループで出し合い、同資料集の下見報告書の様式にしたがって活動可能な場所や危険箇所などに注意して下見報告をまとめる。また、下見報告書をもとに、目標と活動と準備の關係に注意しながら、グループで相談して園外保育(遠足)実施計画書を作成する。 作成した下見報告書と実施計画書はレポート課題として扱う。第9回の授業で提出。	同資料集p87を見て、実習で作成した全日実習指導案との共通点や相違点を調べておく(60分)
第8回	安全教育・安全管理1 学校安全構造図をもとに、幼稚園教育要領、同解説、安全計画について、安全教育や安全点検のあり方を討議する。振り返りシートを時間内に作成する。	同資料集p88-p92の下調べ (60分)
第9回	安全教育・安全管理2 重大事故の事例をもとにディスカッションし、日常安全管理の視点を深めていく。また、乳幼児に多い事故と病気、及びその原因についても、資料をもとにディスカッションし安全意識を高める。振り返りシートを時間内に作成する。	同資料集p93-p98の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し(60分)
第10回	家庭との連携1 家庭との連携が必要な理由を幼稚園教育要領や同解説から理解し、降園時の連絡、学級懇談、個人面談等の目的や方法についてディスカッションする。また連絡帳の書き方について具体例を通して学ぶ。振り返りシートを時間内に作成する。	同資料集p99-p103の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し(60分)
第11回	家庭との連携2 学級だよりの目的、内容、方法、作成上の留意点について具体的な学級便りの例をもとに確認し、学級だよりを作成する。作成した学級だよりはレポート課題として扱う。	同資料集p103-p108の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し(60分)
第12回	障がいがある乳幼児への対応 幼児に多く見られる発達障害について理解を深めるとともに、さまざまな障害の把握の方法や個別の支援計画及び個別の指導計画の意義を理解し、障害をもった幼児に対する接し方の事例についてディスカッションする。振り返りシートを時間内に作成する。	同資料集p109-p114の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し(60分)
第13回	学級経営 学級経営の意義、学級経営案の作成の方法を理解し、具体的な保育所や幼稚園に就職した場合を仮定して、学級経営案の一部を書く。作成した経営案をもとに学級経営のあり方をディスカッションする。振り返りシートを時間内に作成する。	同資料集p115-p118の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し(60分)
第14回	日常の保育と指導要録 指導要録の意義を理解するとともに、エピソードを整理し指導要録にまとめるまでの方法について事例をもとに	同資料集p119-p122の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し(60分)

<p>ディスカッションする。振り返りシートを時間内に作成する。</p> <p>第15回 幼保小連携 幼稚園・保育所と小学校の連携の必要性について幼稚園教育要領総則などの記述をもとに話し合い、とくに就学前教育のあり方についてディスカッションする。振り返りシートを時間内に作成する。</p> <p>定期試験 定期試験期間中を提出締め切りとする「安全教育・安全管理」「家庭との連携」「障がいがある乳幼児への対応」についてのレポート提出をもって定期試験とする。</p>	<p>同資料集p123-p126の下調べ及び返却された振り返りシートの見直し（60分）</p>
<p>フィードバックの方法：振り返りシートの返却時に解説を行う。第2回授業から第15回まで同様に行う。毎回実施する漢字テストは正しい用語を記載し、次回に返却する。</p>	
<p>テキスト： 『短期大学生のための保育教育実践演習資料集』（神谷爲義 学校法人貞静学園短期大学） 『保育の基本用語』長島和代編 わかば社</p>	
<p>参考書・参考資料等： 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府 フレーベル館） 『幼稚園教育指導資料集1・2・3・4集』（文部省・文部科学省） そのほか授業に必要な資料などは、その都度印刷配付する。</p>	
<p>オープンな教育リソース： 学生に対する評価：次の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の成績60% ②授業のまとめ等の提出物30% ③授業態度10% ②③の評価は、授業における発表や討論への参加態度、授業で作成した様々な文書、各授業終了後のまとめ等とする。なお成績については担当教員2名が50%ずつとし、合わせて1科目として評価をする。</p>	

授業科目名：2511116322 保育教育実践演習 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：姜 華 担当形態：演習 複数																											
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育教育実践演習 幼：教育実践に関する科目 教職実践演習 保：総合演習 保育実践演習																													
学習成果該当番号：1. 5. 7. 9																														
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に求められる専門的知識及び技術等を身につけたのか、自らこれまでの学びを振り返り、課題を明確にする。 ・保育に関わる現状と今日的課題について把握し、理解する。 ・子どもを取り巻く環境、保育・教育課題をディスカッションやグループ発表の検討を通じて、自己課題を明確にし、各自望ましい保育者像を形成することができる。 【テーマ】 履修履歴の把握、保育実践、保育活動の可視化、幼児理解、指導計画の作成と展開																														
授業の概要： まず、学生が自分の履修履歴を確認して、保育者となるための課題を把握する学習を行う。次に、指導計画の作成の観点について、指導計画の具体例を取り上げ考察する。そして、幼児の行動の様々な具体例を取り上げて、それについて観点をきめて話し合いや発表を行う。科目名の通り、保育や教育に関する具体的な場面を取り上げた上で、演習を行っていく。																														
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>【オリエンテーション・履修カルテの把握】 履修カルテに基づいて各自の履修状況を把握する。これまで学んできた専門知識・スキルを振り返り、自己課題を明確にする。</td> <td>今までの科目で学んできた専門知識・スキル等について振り返り、まとめる (60分)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>【これまでの学習内容の振り返り①】 保育・教育の基本的に関わる理念及び法的根拠について再確認し、関連内容について理解を深める。</td> <td>学習ノートを活用して、これまで学んできた知識・スキル等について再確認する (60分)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>【これまでの学習内容の振り返り②】 保育・教育実習を振り返り、それぞれの保育実践における自己課題を再確認し、今後の探求テーマについて検討する。確認課題を時間内に行う。</td> <td>これまでの実習の中で指摘された問題・課題等について整理し、まとめておく (60分)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>【これまでの学習内容の振り返り③】 これまでの学習内容を振り返り、反省的視点から自己の課題をまとめる。グループディスカッションを通して課題を共有し、改善に向けて検討する。</td> <td>これまでの実習の中で指摘された問題・課題等について整理し、まとめておく (60分)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>【保育実践における危機管理】 保育実践における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理等について理解する。新聞記事等を用いて具体的事例を活用して理解を深める。</td> <td>危機管理に関する新聞記事を2～3つ用意して持参する (60分)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>【子育て支援】 育児不安の現状を背景について理解し、保育者が行う保育の専門性に基づく子育て支援の意義と方法を理解する。地域に開かれた子育て支援について事例研究等通じて理解を深める。</td> <td>子ども・子育て新制度の経緯や内容について調べておく (60分)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>【保育活動の可視化：ドキュメンテーション】 保育活動を可視化するドキュメンテーション作成の方法について学び、グループ内で協働して作成し、その成果を提出する。</td> <td>ドキュメンテーションの具体的な様式について調べておく (60分)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>【学び続ける保育者】 生涯を通じて、絶えず学び続ける保育者の姿勢について理解し、保育の質を高めるための保育者の在り方</td> <td>学び続ける保育者像について調べておく (60分)</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	【オリエンテーション・履修カルテの把握】 履修カルテに基づいて各自の履修状況を把握する。これまで学んできた専門知識・スキルを振り返り、自己課題を明確にする。	今までの科目で学んできた専門知識・スキル等について振り返り、まとめる (60分)	第2回	【これまでの学習内容の振り返り①】 保育・教育の基本的に関わる理念及び法的根拠について再確認し、関連内容について理解を深める。	学習ノートを活用して、これまで学んできた知識・スキル等について再確認する (60分)	第3回	【これまでの学習内容の振り返り②】 保育・教育実習を振り返り、それぞれの保育実践における自己課題を再確認し、今後の探求テーマについて検討する。確認課題を時間内に行う。	これまでの実習の中で指摘された問題・課題等について整理し、まとめておく (60分)	第4回	【これまでの学習内容の振り返り③】 これまでの学習内容を振り返り、反省的視点から自己の課題をまとめる。グループディスカッションを通して課題を共有し、改善に向けて検討する。	これまでの実習の中で指摘された問題・課題等について整理し、まとめておく (60分)	第5回	【保育実践における危機管理】 保育実践における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理等について理解する。新聞記事等を用いて具体的事例を活用して理解を深める。	危機管理に関する新聞記事を2～3つ用意して持参する (60分)	第6回	【子育て支援】 育児不安の現状を背景について理解し、保育者が行う保育の専門性に基づく子育て支援の意義と方法を理解する。地域に開かれた子育て支援について事例研究等通じて理解を深める。	子ども・子育て新制度の経緯や内容について調べておく (60分)	第7回	【保育活動の可視化：ドキュメンテーション】 保育活動を可視化するドキュメンテーション作成の方法について学び、グループ内で協働して作成し、その成果を提出する。	ドキュメンテーションの具体的な様式について調べておく (60分)	第8回	【学び続ける保育者】 生涯を通じて、絶えず学び続ける保育者の姿勢について理解し、保育の質を高めるための保育者の在り方	学び続ける保育者像について調べておく (60分)
回数	内容	準備学習																												
第1回	【オリエンテーション・履修カルテの把握】 履修カルテに基づいて各自の履修状況を把握する。これまで学んできた専門知識・スキルを振り返り、自己課題を明確にする。	今までの科目で学んできた専門知識・スキル等について振り返り、まとめる (60分)																												
第2回	【これまでの学習内容の振り返り①】 保育・教育の基本的に関わる理念及び法的根拠について再確認し、関連内容について理解を深める。	学習ノートを活用して、これまで学んできた知識・スキル等について再確認する (60分)																												
第3回	【これまでの学習内容の振り返り②】 保育・教育実習を振り返り、それぞれの保育実践における自己課題を再確認し、今後の探求テーマについて検討する。確認課題を時間内に行う。	これまでの実習の中で指摘された問題・課題等について整理し、まとめておく (60分)																												
第4回	【これまでの学習内容の振り返り③】 これまでの学習内容を振り返り、反省的視点から自己の課題をまとめる。グループディスカッションを通して課題を共有し、改善に向けて検討する。	これまでの実習の中で指摘された問題・課題等について整理し、まとめておく (60分)																												
第5回	【保育実践における危機管理】 保育実践における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理等について理解する。新聞記事等を用いて具体的事例を活用して理解を深める。	危機管理に関する新聞記事を2～3つ用意して持参する (60分)																												
第6回	【子育て支援】 育児不安の現状を背景について理解し、保育者が行う保育の専門性に基づく子育て支援の意義と方法を理解する。地域に開かれた子育て支援について事例研究等通じて理解を深める。	子ども・子育て新制度の経緯や内容について調べておく (60分)																												
第7回	【保育活動の可視化：ドキュメンテーション】 保育活動を可視化するドキュメンテーション作成の方法について学び、グループ内で協働して作成し、その成果を提出する。	ドキュメンテーションの具体的な様式について調べておく (60分)																												
第8回	【学び続ける保育者】 生涯を通じて、絶えず学び続ける保育者の姿勢について理解し、保育の質を高めるための保育者の在り方	学び続ける保育者像について調べておく (60分)																												

第9回	<p>についてディスカッションする。</p> <p>【幼児理解に基づく学級経営】 学級経営の意義、具体的な内容について理解し、幼児理解に基づく学級経営の在り方について検討する。</p>	学級経営の基本的な考え方について調べておく (60分)
第10回	<p>【幼保小の連携と接続】 学びをつなぐ、幼稚園・保育園・小学校との連携・接続におけるカリキュラムの重要性と連携のポイントを理解し、連携の在り方を検討する。</p>	連携の必要性、および法的根拠についてまとめる (60分)
第11回	<p>【特別支援教育とインクルーシブ教育】 特別の支援を必要とする子どもへの理解、およびその指導方法等について学ぶ。適宜グループワークを用いて、内容の理解を深める。</p>	世界におけるインクルーシブ教育について調べてみる (60分)
第12回	<p>【グループによる成果発表①】 グループ単位で、興味・関心をもつテーマを用いて学習成果のまとめとして発表を行う。</p>	グループ発表に向けての準備を進める (60分)
第13回	<p>【グループによる成果発表②】 グループ単位で、興味・関心をもつテーマを用いて学習成果のまとめとして発表を行う。</p>	グループ発表に向けての準備を進める (60分)
第14回	<p>【グループによる成果発表③】 グループ単位で、興味・関心をもつテーマを用いて学習成果のまとめとして発表を行う。</p>	グループ発表に向けての準備を進める (60分)
第15回	<p>【全体のまとめ】 これまでの授業で学んできた内容全体について振り返り、履修生のさらなる理解を深める。</p>	授業内容についての疑問点等を整理し、まとめる (60分)
定期試験	定期試験期間中にレポート提出をもって定期試験とする。このレポートにはコメントを付けて返却する。	
フィードバックの方法： 毎回の授業時に、直接アドバイスをを行う。		
テキスト： 使用しない。授業にて適宜プリントを配布します。		
参考書・参考資料等：		
<ul style="list-style-type: none"> ・『短期大学生のための保育教育実践演習資料集』 神谷爲義 学校法人貞静学園短期大学 ・幼稚園教育要領解説 文部科学省 保育所保育指針解説書 厚生労働省編 		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価： 次の3項目を総合的に評価して成績を判定する。		
①レポートの成績：60%		
②授業のまとめ等の提出物：30%		
③授業への参加・態度：10%		
※②③の評価は、授業における発表や討論への参加態度、授業で作成した様々な文書、各授業終了後のまとめ等とする。		
※成績については、担当教員2名が50%ずつとし、合わせて1科目として評価をする。		

授業科目名：2601016413 教育実習 2年後期	必修：(卒)・幼	単位数： 全部で5単位	担当教員名：教育実習担当教員 担当形態：実習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育実践に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：幼児理解を一層深めて幼児が主体的に活動する指導計画を作成し、実践することを通して、環境を通して行う幼児教育のあり方を追求する。			
<p>授業の概要：</p> <p>(1) 実習内容は、幼児の様子と幼稚園のあり方を中心に、次の事項を取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 幼稚園の役割について、体験を通して理解する。 イ 幼稚園の1日の流れを理解し、保育に参加する。 ウ 幼児の観察やそれとの関わりを通して、幼児の発達過程を理解する。 エ 担任等の指導の下に自分で指導計画を作成し、実践し、評価することを通して指導の内容と方法を学ぶ。 オ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 カ 家庭や地域社会に対する子育て支援や預かり保育について理解する。 キ 保育者の職業倫理を具体的に学ぶ。 ク 疾病予防及び安全対策について具体的に学ぶ。 ケ 幼稚園とその他関係機関との連携について学ぶ。 コ 実習前後の事務処理を通して迅速正確な処理能力を高める。 <p>(2) 実習は、参加実習及び責任実習とし、それぞれ次の具体的な目標の達成を目指す。</p> <p>ア 参加実習の具体目標</p> <ul style="list-style-type: none"> (ア) 幼稚園の沿革・教育方針・運営等について理解する。 (イ) 園長、主任及び教諭等の業務内容を理解する。 (ウ) 保育の1日の流れ(預かり保育を含む)を理解して保育に参加し、生活のリズムを体得する。 (エ) 担任の助手的立場で子どもが主体的に活動できるように環境や施設設備の整備をしたり、生活や遊びを指導したり、安全への配慮を行ったりする。 (オ) 担当教師に承認された範囲で直接子どもの遊びに加わったり、保育活動の一部を分担したりしながら、積極的に参加活動を行う。 (カ) 幼児一人一人の遊びや集団の一員としての行動等を観察して、発達の様子や一人一人の長を把握する。 (キ) 幼稚園と家庭・地域社会及び保育所・認定こども園・小学校との連携を理解する。 <p>イ 責任実習の具体目標</p> <ul style="list-style-type: none"> (ア) 保育者としての態度、保育技能・技術を身につける。 (イ) 担当教師の補佐として環境構成、教材の準備や後片付け、クラス運営の事務処理、その他の業務を行う。 (ウ) 一人一人の子どもの個別指導を実践しながら、その具体的な指導技術の習得を図る。 (エ) 担当教師等の指導や助言を受けて指導計画を作成し、それに基づいて実践し、指導方法や指導技術を習得する。 			

授業計画：

実習名	実習日数	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）
第Ⅱ期教育実習	12日間	幼稚園	観察、参加・責任	2年10月

※実習日数12日間は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。

テキスト：

- ・小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 2020年
- ・小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社 2020年

参考書・参考資料等：特になし

学生に対する評価：

教育実習等	単位認定のデータ	評定におけるデータの得点割合			単位
		①：②	実習Ⅰ：Ⅱ	実習：前後	
第Ⅰ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3	10：12	4：1	5
	実習報告書、実習日誌 ②				
第Ⅱ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3	10：12	4：1	5
	実習報告書、実習日誌 ②				
教育実習 事前事後の指導	試験成績、提出物、授業態度等				

- (1) 実習の評価は、実習評価票の得点に実習報告書等20点、実習日誌10点を加点して得点とする。
- (2) 実習に係る提出物は期限を過ぎた場合でも提出を求めるが、締め切った後に提出されても加点はしない。

授業科目名：(教育実習) 教育実習事前事後の指導 2年通年(前期)	必修：幼	単位数： (5単位)	担当教員名：姜 華 担当形態：(実習) 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教職に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達度】 第Ⅰ期教育実習の経験や保育実習Ⅰ・Ⅱの実習における学びも取り入れて指導案の立て方や記録の仕方を工夫して、実習目的に合った実習の準備ができるようになる。 【テーマ】 実習前のテーマなので実習に向かっての準備を取り上げるのはもちろんであるが、責任実習なので部分実習や全日実習などの指導案の作成を中心的なテーマとする。なお、実習の記録も、自分の実践についての記録を重視することを取り上げる。			
授業の概要： 第Ⅱ期教育実習は、責任実習といわれるように自ら指導案を作成して、実施し、反省するという過程を繰り返す実習である。そこで、指導案の立て方を授業の中心的なテーマに取り上げて、実際にそれを書くという体験を積んで行くことにする。また、実習に入るためのさまざまな事務手続きを遅滞なく進めるように、授業の中できめ細かく指導して行くものとする。 この授業を受けている間には、保育実習Ⅰと保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲが10日間ずつ実施されるが、その実習の経験を生かすとともに、教育実習の内容や事務手続きが混乱しないように注意を払って授業する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	【オリエンテーション、教育実習の概要】 保育実習と教育実習を比較し、両者の違いについて確認する。また、教育実習の期間、履修時の留意点等を中心に教育実習全体について説明する。	実習生としての姿勢・心構えについて各自調べておく(30分)	
第2回	【実習日誌の説明】 第Ⅱ期教育実習用の実習日誌を用いて、基本項目の書き方やポイント等について理解する。実習日誌の文例を紹介しながら説明する。	実習日誌の基本項目(フォーマット)の書き方について各自調べておく(30分)	
第3回	【部分実習と責任実習】 部分実習と責任実習の違いについて再確認し、実習の核心は自らの計画立案、実施、反省であることを理解し、実践の中で学ぶことの重要性について知る。	テキストpp.76-115(部分)、pp.66-120(責任)まで目を通し、理解する(30分)	
第4回	【指導案指導①：3歳児の保育のポイントと指導計画】 3歳児の発達の特徴と関わりのポイントを確認し、指導計画のポイントや作成時の留意点等について理解する。	テキストp86の通読(30分)	
第5回	【指導案指導②：4歳児の保育のポイントと指導計画】 4歳児の発達の特徴と関わりのポイントを確認し、指導計画のポイントや作成時の留意点等について理解する。	テキストp84の通読(30分)	
第6回	【指導案指導③：5歳児の保育のポイントと指導計画】 5歳児の発達の特徴と関わりのポイントを確認し、指導計画のポイントや作成時の留意点等について理解する。	テキストp88の通読(30分)	
第7回	【指導案の書き方の指導①】 実習指導案を立案する意義を理解し、指導案の構成及び各欄の書き方について説明する。ビデオ1	テキストpp.66-75の通読(30分)	
第8回	【指導案の書き方の指導②：ビデオ講習】 実習指導案を立案する意義を理解し、指導案の構成及び各欄の書き方について説明する。教材ビデオを活用して、より実践的な学びを行う。	インターネットなどで指導案について調べておく(30分)	
第9回	【教材研究：読み聞かせ絵本の選択】 実習に欠かせない絵本をテーマに、年齢別(0歳～5歳児向け)の絵本選びの基準とポイントについて学ぶ。紙芝居と比較しながら絵本への理解を深める。	絵本と紙芝居の違いについて各自調べておく(30分)	
第10回	【幼稚園の一日】		

第11回	幼稚園の生活や活動などについて理解し、さらに、その1日の流れを確認して、幼稚園の日課を話し合う。 【書類作成】	第I期教育実習日誌で1日の流れを確認(30分)
第12回	第II期教育実習用の書類(「履歴書」)を作成する。履歴書は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。 【実習課題の明確化①】	関連書類の必要項目について調べておくこと(30分)
第13回	保育技術をお話、ピアノ、絵本、手遊びの観点から自己評価(ABC)をして、自己の課題をとらえる。 【実習課題の明確化②】	保育者に求められる保育技術について確認し、まとめておく(30分)
第14回	第I期教育実習日誌をもとに、実習課題についてディスカッションし、第I期教育実習との違いを明確にする。 【実習課題の明確化③】	実習日誌(pp.1-3)の実習目標や実習内容の下読みと課題の原案作成(30分)
第15回	実習を期間全体、3回(第1週・第2週・第3週)に分けて、それぞれの課題をディスカッションし、自己の課題を整理する。 【全体のまとめ】	授業の中で作成した指導案のすべてを整理して持参する(30分)
定期試験	これまでの授業内容全体について振り返り、幼稚園教育の特徴、および一人ひとりの幼児にふさわしい活動内容とは何かについて再び検討する。 定期試験期間中に提出する部分実習指導案・責任実習指導案に関する課題(レポート)をもって定期試験とする。	幼稚園教育要領第2章を読んでおくこと(30分)
フィードバックの方法：		
授業で提出された指導案については、それぞれ作成した次回の授業時にフィードバックし、再度書き方のポイントを助言する。また第11回の「履歴書」の不備については書き直しを指示したり、第12回の自己の課題では夏季休業中の練習計画を助言したりする。		
テキスト： 小櫃智子他『実習日誌・実習指導案 実習パーフェクトガイド』わかば社 2020年		
参考書・参考資料等：		
<ul style="list-style-type: none"> ・小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 2020年 ・『幼稚園教育要領解説』(現行)フレーベル館 ・『保育所保育指針解説』(現行)フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館) 		
学生に対する評価： 以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。		
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験期間中に提出する課題の内容：60% ・事務的な書類の提出：30% ・授業への参加・態度：10% 		

授業科目名：(教育実習) 教育実習事前事後の指導 2年通年(後期)	必修：幼	単位数： (5単位)	担当教員名：姜 華 担当形態：(実習) 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教職に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 5. 7. 8			
<p>授業の到達目標及びテーマ：【到達目標】 第Ⅱ期教育実習について振り返り、実習後の事務的な書類を作成したり、体験を話し合ったりする中で、理想の一日の生活、理想の幼稚園のあり方、理想の幼稚園教諭について考え、具体的な指導案や感想としてまとめることができる。</p> <p>【テーマ】 実習後のテーマは、大きくまとめると、①実習後の事務的な整理、②園生活の理想の一日「修正全日実習指導案」、③理想の幼稚園「実習園の印象調査」、④保育現場の新しい動き、⑤理想の保育者像、の5つである。</p>			
<p>授業の概要： 授業は50分授業なので、テーマの四つについて各時間の授業内容が明確になるように1コマごとのテーマを小さく分けて提示するとともに、具体的な作業や話し合い・発表を取り入れて授業を進める。一人ひとりの学生が描いている理想の幼稚園・保育者像について考えさせると同時に、グループディスカッションを通じて互いに意見を出し合い、ともに議論する学び合いにより、それぞれが理想の幼稚園・保育者像を形成できるようにする。</p>			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	【実習準備学習】 第Ⅱ期教育実習に関する予定を知らせ、実習不安の解消を図る。本時は、第Ⅱ期教育実習前の授業である。	実習日誌10頁までの記入(3時間)	
第2回	【実習整理1】 実習幼稚園長宛てのお礼状を書いて提出する。お礼状には、実習で学んだ具体的で大事と思う事柄を一言でもよいから入れる。礼状は、確認テストとして扱う。本時から第Ⅱ期教育実習後の授業となる。	手紙例文資料を読んでおくこと(30分)	
第3回	【実習整理2】 第Ⅱ期教育実習報告書(「1 実習概要」・「2 実習園から大学への要望」)を記入して提出する。実習報告書は、ミニレポートとして扱う。	事前に配布した下書き用紙に、関連内容を整理しておくこと(30分)	
第4回	【園生活の理想の一日】 理想の一日の生活を考えて、第Ⅱ期教育実習の指導案をもとに、領域のねらいや内容と関連させて修正した全日実習指導案を作成する。	実習中の指導案を整理しておくこと(30分)	
第5回	【全日実習指導案について】 見本の指導案を提示し、その内容を確認しながら全日実習指導案を書いてみる。全日指導案は、ミニレポートとして扱う。	全日指導案のポイントについて再確認しておく(30分)	
第6回	【実習の振り返り】 実習園の保育内容について、各自振り返り、さらにグループディスカッションを行い、そのまとめを発表する。	実習中の保育内容について整理しておくこと(30分)	
第7回	【理想の幼稚園①】 理想の幼稚園を考える視点(内容面で就学準備ー遊び、方法面で教師主導ー幼児主体)を決めて、アンケート用紙のXY座標に実習先幼稚園の座標に示すとともに、その幼稚園の特色ある活動を洗い出してアンケート用紙に書く。	テキストp150-p151を読んでおくこと(30分)	
第8回	【理想の幼稚園②】 アンケートの集計結果を見て学生が捉えた幼稚園の現状を概観するとともに、自分が回答したアンケートをもとに実習先の幼稚園の様子についての報告会を開き、理想に近い幼稚園を選択する。	回答の確認と報告準備をすること(30分)	
第9回			
第10回	【理想の幼稚園③】 前2回の授業で選んだ理想の幼稚園の集計結果を概観して現実と理想の差異に気づくと共に、現実に行われている特色のある活動についてその教育的価値を一つずつ確認する。	授業のアンケート用紙の内容について確認をしておくこと(30分)	
第11回	【グループの発表：理想の幼稚園】	自分が描く理想の幼稚園像について考えておくこと	

	理想の幼稚園をテーマに、グループに分けて話し合いを行う。その後、グループで話し合った内容を発表する。	(30分)
第12回	【理想の保育者像①】 実習経験をもとに自分の理想の保育者像を発表の原稿として600字程度にまとめる。まとめは次回以降のプレゼンテーション後に返却する。	各自、理想の保育者像について考えておく(30分)
第13回	【理想の保育者像②】 実習で指導を受けた教員の中から、専門的な知識、優れた技術、広い視野等々の具体的な事例をもつ理想の保育者について、自分が学んだことをプレゼンテーションする。 聞き手の学生は、その内容を簡潔に記録し、感想を付して提出する。この聞き取りの記録は確認テストとして扱う。	順番ごとの発表の練習をしておくこと(30分)
第14回	【理想の保育者像③】 実習で指導を受けた教員の中から、専門的な知識、優れた技術、広い視野等々の具体的な事例をもつ理想の保育者について、自分が学んだことをプレゼンテーションする。	発表の準備・練習をしておくこと(30分)
第15回	【理想の保育者像④】 実習で指導を受けた教員の中から、専門的な知識、優れた技術、広い視野等々の具体的な事例をもつ理想の保育者について、自分が学んだことをプレゼンテーションする。	発表の準備・練習をしておくこと(30分)
定期試験	定期試験期間中に提出する「理想の幼稚園」「保育者の専門性」についてのレポートの提出をもって、定期試験とする。 このレポートにはコメントを付けて返却する。	
<p>フィードバックの方法：実習報告書や理想の全日実習指導案は、提出させて評価し、その後、優れたものは本人だけでなく、他の学生や下学年の学生に閲覧できるようにする。また、アンケートによる現実の幼稚園の姿や理想の姿は集計して全体像が把握できるようにする。理想の保育者の原稿は、プレゼンテーションやその聞き取り記録によって学生にフィードバックする。</p>		
<p>テキスト：小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 2020年</p>		
<p>参考書・参考資料等：『保育・教育実習 フィールドで学ぼう』（同文書院）</p>		
<p>学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験期間中にレポートを提出：60% ・レポート、事務的な書類の提出：30% ・授業への参加・態度：10% 		

授業科目名：2600116621 保育実習Ⅰ（施設） 2年前期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：村上 悦子 担当形態： 実習 複数											
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習Ⅰ													
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8														
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1・児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 2・観察やかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に体験する。 4・職員の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。 【テーマ】 既習の教科の内容を踏まえ、習得した知識や技術を基に、児童福祉施設の役割や機能、現状を具体的に理解し実践する。施設の生活を通して子どもの保育及び保護者への支援について総合的に体験し、子どもへの理解と施設利用者への理解を深める。保育士の業務内容と職業倫理、指導員及びその他の職員の役割と連携のあり方等を学び理解する。														
実習の概要： 1・施設の役割と機能 （1）当該施設の生活と一日の流れを理解する。 （2）当該施設の役割と機能について理解する。 2・利用者理解 （1）利用者とのかかわりを通して理解を深める。 （2）個々の状態や障がいの特性に応じたかかわりとそれに基づいた支援をする。 （3）子どもの最善の利益についての配慮、子どもの権利への配慮について理解する。 3・養護内容・生活環境 （1）利用者の年齢・障がいの程度・家庭環境・生育歴・自立の方向性などの背景に応じた支援計画が作成されているか、総合的に学ぶ。 （2）施設の人的環境、物的環境及び地域環境を理解する。 4・計画と記録 （1）さまざまな支援がどのように計画され、その計画が無理のない適切なものなのか学ぶ。 （2）記録がどのように作成されているか、後で読み返した際に、知りたい情報が記載されているか学ぶ。 5・専門職としての保育士の役割と倫理 （1）職員の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。特に保育士の業務内容を理解する。														
準備学習 前年度「保育実習指導Ⅰ」の履修 必要に応じて、個別指導を行う。 「保育所保育指針」の熟読 事後学習 保育実習からの学びの確認及び学生間で学びの共有を図り、次の実習課題を明確にする。 保育実習報告書を提出する。ただし、内容によっては修正及び再提出を求めることがある。														
実習計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習名</th> <th>実習時間</th> <th>実習場所</th> <th>実習形態</th> <th>備考（実施時期等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育実習Ⅰ（施設）</td> <td>80時間</td> <td>保育所以外の 児童福祉施設</td> <td>見学・観察、参加</td> <td>1年2月、2年5月</td> </tr> </tbody> </table>					実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）	保育実習Ⅰ（施設）	80時間	保育所以外の 児童福祉施設	見学・観察、参加	1年2月、2年5月
実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）										
保育実習Ⅰ（施設）	80時間	保育所以外の 児童福祉施設	見学・観察、参加	1年2月、2年5月										
※実習時間80時間は、実習日数10日間である。なお、80時間(10日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。														

事前：保育実習指導Ⅰの履修

「保育所保育指針」の熟読 保育実習日誌のオリエンテーション記録（p8）まで記録する。
部分実習指導案の作成や実習日誌の記録など必要に応じて個別指導を行う。
オリエンテーション(実習園)・オリエンテーション報告書・健康管理書類提出など

事後：保育実習からの学びの確認及び学生間で学びの共有を図り、次の実習課題を明確にする。
保育実習報告書を提出する。ただし、内容によっては修正及び再提出を求めることがある。
実習日誌の提出

テキスト：1・大豆生田啓友他編著『学生・養成校・実習園がともに学ぶこれからの時代の保育者養成・実習ガイド』 中央法規
2・松本峰雄監修 『より深く理解できる 施設実習』 萌文書院

参考書・参考資料等： 大豆生田啓友他編著『新しい保育講座12 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房

学生に対する評価：

実習園評価及び実習日誌の提出(70%)／実習報告書及びその他提出物(20%)／実習日誌(10%)

授業科目名：2600216821 保育実習Ⅱ 2年前期	必修：(卒)・保	単位数： 2単位	担当教員名：村上 悦子 担当形態：実習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習Ⅱ		

学習成果該当番号：1. 5. 7. 8

授業の到達目標及びテーマ：

【授業の到達目標】

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める
2. 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める
3. 既習の教科や実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ
4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する
6. 保育士としての自己の課題を明確化する

【テーマ】

保育所の役割や機能、養護と教育の一体化、保育士の業務内容、職業倫理等について具体的な実践を通して理解を深める。保育実習Ⅰ（保育所）での学びを踏まえて、保育の観察、実践、計画、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。更に、保育士としての資質、能力、技術の向上を目指すとともに、家庭や地域社会で果たす保育所や保育士の役割について理解を深める。

保育所実習の概要：

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
 - (1) 養護と教育が一体となって行われる保育について理解を深める
 - (2) 保育所の社会的役割と責任について学ぶ
2. 観察・参加に基づく保育理解
 - (1) 子どもの観察・かかわりを通して、子どもにふさわしい生活・発達の展開を学ぶ
 - (2) 多くの子どもとかかわる中で、各年齢の特徴や個人差の理解を深める
 - (3) 保育士の援助や指導の内容と方法を学び、部分実習や責任実習に生かす
 - (4) 保育所の一日の流れを理解し、保育に参加する
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
 - (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通しての総合的に行う保育の理解を深める
 - (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学ぶ
 - (3) 地域社会との連携の大切さを理解する
4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
 - (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解を深める
 - (2) 指導計画を立案して保育を実践し、保育技術を習得するとともに自己評価をする
5. 保育士の業務と職業倫理
 - (1) 保育士の助手的立場で、保育準備、環境設定、生活・遊びの指導の方法、安全への配慮等を具体的に学ぶ
 - (2) 保育士の職業倫理を具体的に学ぶ
6. 自己の課題の明確化

実習計画：

実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）
保育実習Ⅱ	80時間	保育所	見学・観察、参加	2年7月

※実習時間80時間は、実習日数10日間である。なお、80時間(10日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。

事前：保育実習指導Ⅱの履修（保育実習Ⅰ（保育所・施設）を履修済であること）

「保育所保育指針」の熟読 保育実習日誌のオリエンテーション記録（p8）まで記入する。
責任実習指導案を事前に作成、実習日誌等記録について必要に応じて再提出や個別指導を行う。
オリエンテーション（実習園）・オリエンテーション報告書・健康管理書類提出など

事後：実習日誌の提出と実習報告書の作成

保育実習指導Ⅱの授業内において報告書をもとに更に振り返りを行う（個人・グループ発表）

自己評価をもとに今後の自己課題を明確化する
テキスト：①大豆生田啓友他編著『学生・養成校・実習園がともに学ぶこれからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 ②長島和代編 改訂2版『わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉』わかば社
参考書・参考資料等：『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館）
学生に対する評価： 実習園評価及び実習日誌の提出(70%) 実習報告書及びその他提出物(20%) 実習日誌(10%)

授業科目名：2600216921 保育実習指導Ⅱ 2年前期	必修：(卒)・(保)	単位数： 1単位	担当教員名：村上 悦子 担当形態：演習 単独																					
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習指導Ⅱ (保育所)																							
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8																								
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ①保育実習Ⅰ(保育所)の学びを基礎に、保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について保護者支援も含め総合的に学ぶ。②子どもの状況に応じた適切な関わりや実践ができるよう、保育の実践力を育成する。③責任実習を見据え、授業内で事前に実習指導案を立案し実習に備える。④保育の観察・記録・自己評価に基づく保育の改善ができるようにする。⑤保育所保育士として求められる資質・能力・技術・職業倫理を習得し、保育現場に出られるように理論及び技術の習熟を目指す。⑥事後指導においては、実習の総括と自己評価を行い、自己の課題を明確にする。 【テーマ】 保育実習Ⅱの意義と目的の理解を進めながら保育について総合的に学ぶ。子どもの発達に関する知識をもとに保育現場における保育の観察や記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実習における実践や事例を通して学ぶ。保育所の実際と実習にあたっての留意点及び実習指導案の立案について学ぶとともに、自己評価として振り返りを行い自己の課題を明確化する。																								
授業の概要： 保育実習Ⅰ(保育所)をもとに保育所において保育全般に参加し、保育技術の習得を目指す。さらに実習指導案を立案し、現場での保育者の指導・援助のもと、部分実習及び責任実習を行うことで保育所保育士として求められる資質・能力・技術・職業倫理を習得し、保育現場に出られるよう理論及び技術の習熟を目的とする。1. こども理解 2. 保護者とのコミュニケーション 3. 実習指導案を立案し、実習先での実践に備える 4. 職業倫理を理解する 5. 保育士に求められている資質・能力・技術を照らし合わせて、自己の課題を明らかにする。																								
授業計画： <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">回数</th> <th style="width:60%;">内容</th> <th style="width:30%;">事前事後学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>保育実習Ⅱの意義と目的及び保育所保育における「養護」「保護者支援」について理解する 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)</td> <td>・保育所保育指針解説書 p.13-20,p.30-37を熟読(30分) ・小テスト振返り(15分)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>保育実習Ⅱにおける実習課題とねらいの設定及び記録方法(実習日誌の書き方)について理解する 保育実習Ⅰの学びを振り返りと課題の整理 保育と保護者支援について整理 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)</td> <td>・テキストp.12-35,p.36-47の熟読(30分) ・小テスト振返り(15分) ・自己課題の整理の完成(15分)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>事実収集型及びエピソード記述型による考察の方法について理解する 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)</td> <td>テキストp.48-57を熟読(30分) ・小テスト振返り(15分)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>保育環境の観察と記録のポイントについて整理する 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)</td> <td>・保育所保育指針解説書 p.24-26,及びテキスト p.58-61を熟読(30分) ・小テスト振返り(15分)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>実習指導案を作成する① 指導案立案の意義と理解 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)</td> <td>・テキストp.66-75を熟読し、指導案の素案を考案(30分) ・実習園の保育の概要及び保護者支援・子育て支援について調べる(30分)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>実習指導案を作成する② 責任実習指導案の実際とポイント 実習園の子ども姿に応じた実習指導案の作成を進める 指導案の相互添削 (実習園の保育の概要・保護者支援・子育て支援について調査する)</td> <td>・テキストp.102-120を熟読(30分) ・指導案の完成 ・実習園の保育の概要及び保護者支援・子育て支援について調べる(30分)</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	事前事後学習	第1回	保育実習Ⅱの意義と目的及び保育所保育における「養護」「保護者支援」について理解する 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	・保育所保育指針解説書 p.13-20,p.30-37を熟読(30分) ・小テスト振返り(15分)	第2回	保育実習Ⅱにおける実習課題とねらいの設定及び記録方法(実習日誌の書き方)について理解する 保育実習Ⅰの学びを振り返りと課題の整理 保育と保護者支援について整理 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	・テキストp.12-35,p.36-47の熟読(30分) ・小テスト振返り(15分) ・自己課題の整理の完成(15分)	第3回	事実収集型及びエピソード記述型による考察の方法について理解する 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	テキストp.48-57を熟読(30分) ・小テスト振返り(15分)	第4回	保育環境の観察と記録のポイントについて整理する 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	・保育所保育指針解説書 p.24-26,及びテキスト p.58-61を熟読(30分) ・小テスト振返り(15分)	第5回	実習指導案を作成する① 指導案立案の意義と理解 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	・テキストp.66-75を熟読し、指導案の素案を考案(30分) ・実習園の保育の概要及び保護者支援・子育て支援について調べる(30分)	第6回	実習指導案を作成する② 責任実習指導案の実際とポイント 実習園の子ども姿に応じた実習指導案の作成を進める 指導案の相互添削 (実習園の保育の概要・保護者支援・子育て支援について調査する)	・テキストp.102-120を熟読(30分) ・指導案の完成 ・実習園の保育の概要及び保護者支援・子育て支援について調べる(30分)
回数	内容	事前事後学習																						
第1回	保育実習Ⅱの意義と目的及び保育所保育における「養護」「保護者支援」について理解する 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	・保育所保育指針解説書 p.13-20,p.30-37を熟読(30分) ・小テスト振返り(15分)																						
第2回	保育実習Ⅱにおける実習課題とねらいの設定及び記録方法(実習日誌の書き方)について理解する 保育実習Ⅰの学びを振り返りと課題の整理 保育と保護者支援について整理 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	・テキストp.12-35,p.36-47の熟読(30分) ・小テスト振返り(15分) ・自己課題の整理の完成(15分)																						
第3回	事実収集型及びエピソード記述型による考察の方法について理解する 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	テキストp.48-57を熟読(30分) ・小テスト振返り(15分)																						
第4回	保育環境の観察と記録のポイントについて整理する 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	・保育所保育指針解説書 p.24-26,及びテキスト p.58-61を熟読(30分) ・小テスト振返り(15分)																						
第5回	実習指導案を作成する① 指導案立案の意義と理解 小テスト(保育用語を基本とした漢字テストを行う)	・テキストp.66-75を熟読し、指導案の素案を考案(30分) ・実習園の保育の概要及び保護者支援・子育て支援について調べる(30分)																						
第6回	実習指導案を作成する② 責任実習指導案の実際とポイント 実習園の子ども姿に応じた実習指導案の作成を進める 指導案の相互添削 (実習園の保育の概要・保護者支援・子育て支援について調査する)	・テキストp.102-120を熟読(30分) ・指導案の完成 ・実習園の保育の概要及び保護者支援・子育て支援について調べる(30分)																						

第7回	子どもの発達に応じた適切な関わり 事例をもとに学ぶ① -3歳未満児- (実習園の保育の概要・保護者支援・子育て支援について 調査する)	・ 保育所保育指針解説書 p.91-181を熟読(30分) ・ 小テスト振り返り(30分)
第8回	子どもの発達に応じた適切な関わり 事例をもとに学ぶ② -3歳以上児- 実習園の保育の概要・保護者支援・子育て支援について 整理しレポートにまとめる。	・ 保育所保育指針解説書 p.182-284を熟読(30分) ・ 実習園の保育の概要及 び保護者支援・子育て支 援について調べる(30分) ・ テキストp.122-135を熟 読(30分) ・ 指導案の見直し(30分) ・ テキスト②p.161-173の 熟読(30分)
第9回	実習指導案を作成する③ 責任実習指導案の添削を基に指導案を再考する	・ ワークシートの完成(30分) ・ 実習でのエピソード記 録の下書き(30分) ・ エピソード記録の討議 のまとめ(30分)
第10回	保育実習Ⅱの振り返り 実習の振り返り及び省察と自己課題の抽出 実習報告書の作成と実習事後の流れの確認	・ 保育所保育指針解説書 p.14-16,及び配布資料を熟 読(30分) ・ 授業内容の復習(30分)
第11回	保育実習Ⅱの振り返り 実習園のエピソード記録からの振り返り エピソードによるグループ討議からの学び合い (保育実習Ⅱの振り返りを中心に行う)	・ 保育所保育指針解説書 p.328-342を熟読 (30分) ・ 授業内容の復習(30分)
第12回	保育実習Ⅱの振り返り 保育士の専門性についてまとめる (復習として第11回授業のリアクションペーパーをもとに した振り返りを行う)	・ 保育所保育指針解説書 p.26-29及び配布資料を熟 読 (30分) ・ 授業内容の復習(30分)
第13回	保育所の役割再考① 子育て支援 (家庭支援) 保護者とのコミュニケーションの大切さを学ぶ (復習として第12回授業のリアクションペーパーをもとに した振り返りを行う)	・ 保育所保育指針解説書 p.344-354及び配布資料を 熟読 (30分) ・ 授業内容の復習(30分)
第14回	保育所の役割再考② 子育て支援 (社会的な役割) 地域における子育てセンターとしての保育所 (復習として第13回授業のリアクションペーパーをもとに した振り返りを行う)	
第15回	保育士の業務内容について整理し、保育士の職業倫理につ いて討議する (復習として第14回授業のリアクションペーパーをもとに した振り返りを行う)	
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を課す	
フィードバックの方法：小テストの解答及び、リアクションペーパーへのコメント。実習指導案の添削とコメント。必要に応じて、実習日誌他、記録方法について個別指導を行う。		
テキスト：① 小櫃智子編 『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』 わかば社 ② 大豆生田啓友他編著 『新しい保育講座 12 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房		
参考書・参考資料等： ・ 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 ・ 長島和代編 『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』 わかば社		
学生に対する評価：以下の5項目を総合的に評価して成績を判定する。①指導案及び実習に必要な事務的書類の提出(10%) ②授業で調べた内容等の記録及び発表 (20%) ③小テスト、授業内課題及びリアクションペーパー(20%) ④定時試験(40%) ⑤授業態度(10%)		
実務家教員による授業科目：保育園での30年以上にわたる勤務経験を活かし、実践現場での多様な具体的事例を交えながら、実習のための事前事後指導を実践的に行う。		

授業科目名：2600217021 保育実習Ⅲ 2年前期	必修：(卒)・(保)	単位数： 2単位	担当教員名：村上 悦子、岩井 幸博 担当形態：実習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 現場実習を通して児童福祉施設の役割や機能について理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解とともに、保護者支援や家庭支援の知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を体験させるとともに職業倫理について具体的に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 【テーマ】 保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえて養護全般に参加し、援助技術を習得するとともに、個別支援計画を作成、実践、評価をもとにして児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉や社会的養護、障害児支援などに対する理解を進めながら、保護者支援や家庭支援の知識・技能・判断力を養い、施設保育士としての総合的な能力の向上を目指す。			
施設実習の概要： 1. 施設の役割と機能 (1) 施設の生活（24時間）と一日の流れを理解し、支援員と一緒に養護活動に参加し、援助技術を習得する。 (2) 施設の役割と機能について体験を通して理解し、深める。 2. 施設における支援の実際 (1) 子どもの障がいや特性を理解し、受容的応答関係を築いていく。 (2) 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に障がいのある子どもや家庭環境の違いによる子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 (3) 支援計画を理解した上で養護活動に参加し、援助技術を習得する。 (4) 子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 (5) 職員間の役割分担、チームワーク等の組織的な活動のあり方や家庭・地域社会との関係調整の役割を理解する。 (6) 親元を離れて生活する子どもの現状からその子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。 3. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 職員の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。特に保育士の業務内容を理解する。 4. 施設保育士としての自己課題を明確にしていく。 【準備学習】 ・保育実習指導Ⅲの履修をする。※保育実習指導Ⅲの欠席が、実習前に4回以上になった、もしくは提出物等の提出が著しく遅れる・提出しない場合は保育実習Ⅲの履修を取り消すことがある。 ・実習先の施設概要をまとめる。 ・テキスト『施設実習ガイド』ミネルヴァ書房、2022、適宜プリント配布を熟読する。 ・施設実習日誌のオリエンテーション記録（P9）まで仕上げる。 ・実習施設に取り組むにあたり支援計画案を作成する（到達度に応じて、修正及び、再提出がある。また、実習日誌等記録方法についても必要に応じて個別指導が行われる）。 【事後学習】 ・実習報告書を作成する。 ・保育実習指導Ⅲの授業内において報告書をもとに振り返りを行う（個人・グループ発表）。 ・自己評価をもとに今後の自己課題を明確化する。			
＊保育実習Ⅲは、保育実習Ⅰ（保育所・施設）の単位を履修済の者が履修対象。授業履修後であっても、上記の単位が取れないことが分かった段階で履修取り消しとなる。			

実習計画：				
実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）
保育実習Ⅲ	80 時間	保育所以外の 児童福祉施設	観察、参加	2年7月

※実習時間 80 時間は、実習日数 10 日間である。なお、80 時間(10 日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。

事前：オリエンテーション（実習先施設）・オリエンテーション報告書・健康管理書類等の提出
事後：実習日誌・実習報告書の提出

テキスト：加藤洋子 一瀬早百合 飯塚美穂子 編 施設実習ガイド、ミネルヴァ書房、2022

参考書・参考資料等：公益財団法人 児童育成協会（監修）相澤仁、林浩康（編集）「社会的養護Ⅰ」中央法規、2019

学生に対する評価：実習施設での成績(70%)・その他大学への提出物、報告連絡相談（30%）

授業科目名：2600217121 保育実習指導Ⅲ 2年前期	必修：(卒)・(保)	単位数： 1単位	担当教員名：村上 悦子・岩井 幸博 担当形態：演習 合同																											
施行規則等に定める 科目区分又は事項等																														
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8																														
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 施設における子ども・利用者の生活や背景について理解し、適切な関わりについて説明できる。 2. 実習経験を振り返り、自己の課題や学びを整理し、言語化できる。 3. 子どもの権利擁護や倫理について理解し、保育者としての適切な行動を考えることができる。 4. 子ども理解に基づいた援助の視点を持ち、具体的な関わりを考えることができる。 5. 実習で得た学びを整理し、他者に分かりやすく伝えることができる。 【テーマ】 本授業は、児童福祉施設（保育所以外）等における保育実習の事前・事後指導として、実習目標の設定と実習後の振り返りを通して、子ども理解および支援の在り方について理解を深めることを目的とする。																														
授業の概要： 本授業は、児童養護施設・乳児院・障害児入所施設等における施設実習を通して得た経験を振り返り、子ども理解および支援の在り方についての理解を深めることを目的とする。あわせて、実習における自己の課題や学びを整理し、専門職として必要な倫理観・人権意識・対人援助の視点を身につけるとともに、それらを他者に分かりやすく伝える力を養う。																														
授業計画： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 60%;">内容</th> <th style="width: 30%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション (授業概要・実習の流れの確認・これまでの実習の振り返り) 本授業の目的と実習の位置づけを理解し、これまでの実習経験を振り返る。 リアクションペーパーの提出を求める(第15回まで同様)</td> <td>テキスト p9-p34、p43-p48、を読んでおくこと。実習の流れ・日誌の書き方・オリエンテーションに関する内容を確認しておくこと(60分)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>施設実習に向けた事前学習①(児童養護施設) 児童養護施設の目的・子どもの生活・支援の実際について理解する。</td> <td>テキスト p73-p82 を読んでおくこと。児童養護施設の目的・子どもの状況・支援内容について理解しておくこと(60分)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>施設実習に向けた事前学習②(乳児院) 乳児院の役割や子どもの状況、養育の特徴について理解する。</td> <td>テキスト p83-p90 を読んでおくこと。乳児院の目的・子どもの状況・支援の特徴について理解しておくこと(60分)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>施設実習に向けた事前学習③(障害児入所施設) 障害児施設の目的や支援方法、家族支援の在り方について理解する。</td> <td>テキスト p129-p179 を読んでおくこと。障害児施設の目的・支援方法・家族支援について理解しておくこと(60分)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>子ども理解と援助の視点①(生活支援・学習支援) 施設における生活支援・学習支援の具体的な関わりを理解して考える。</td> <td>テキスト p57-p75、p153 を読んでおくこと。施設における生活支援・学習支援の具体的な関わりについて考えておくこと(60分)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>子ども理解と援助の視点②(人権・権利擁護) 子どもの権利や安心・安全な環境の重要性について理解する。</td> <td>テキスト p57-p75 を読んでおくこと。子どもの権利・安心安全な環境・支援の在り方について考えておくこと(60分)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>事例検討①(倫理・関係性・実習生の葛藤) 実習場面の事例をもとに、倫理的課題や対人関係について考察する。</td> <td>テキストの各施設の事例およびこれまでの実習を振り返り、気づきや課題を整理しておくこと(60分)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>事例検討②(子ども理解と支援・保護者理解) 子ども理解および保護者支援の視点から適切な関わりにつ</td> <td>テキストの各施設の事例およびこれまでの実習を振り返り、気づき</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	オリエンテーション (授業概要・実習の流れの確認・これまでの実習の振り返り) 本授業の目的と実習の位置づけを理解し、これまでの実習経験を振り返る。 リアクションペーパーの提出を求める(第15回まで同様)	テキスト p9-p34、p43-p48、を読んでおくこと。実習の流れ・日誌の書き方・オリエンテーションに関する内容を確認しておくこと(60分)	第2回	施設実習に向けた事前学習①(児童養護施設) 児童養護施設の目的・子どもの生活・支援の実際について理解する。	テキスト p73-p82 を読んでおくこと。児童養護施設の目的・子どもの状況・支援内容について理解しておくこと(60分)	第3回	施設実習に向けた事前学習②(乳児院) 乳児院の役割や子どもの状況、養育の特徴について理解する。	テキスト p83-p90 を読んでおくこと。乳児院の目的・子どもの状況・支援の特徴について理解しておくこと(60分)	第4回	施設実習に向けた事前学習③(障害児入所施設) 障害児施設の目的や支援方法、家族支援の在り方について理解する。	テキスト p129-p179 を読んでおくこと。障害児施設の目的・支援方法・家族支援について理解しておくこと(60分)	第5回	子ども理解と援助の視点①(生活支援・学習支援) 施設における生活支援・学習支援の具体的な関わりを理解して考える。	テキスト p57-p75、p153 を読んでおくこと。施設における生活支援・学習支援の具体的な関わりについて考えておくこと(60分)	第6回	子ども理解と援助の視点②(人権・権利擁護) 子どもの権利や安心・安全な環境の重要性について理解する。	テキスト p57-p75 を読んでおくこと。子どもの権利・安心安全な環境・支援の在り方について考えておくこと(60分)	第7回	事例検討①(倫理・関係性・実習生の葛藤) 実習場面の事例をもとに、倫理的課題や対人関係について考察する。	テキストの各施設の事例およびこれまでの実習を振り返り、気づきや課題を整理しておくこと(60分)	第8回	事例検討②(子ども理解と支援・保護者理解) 子ども理解および保護者支援の視点から適切な関わりにつ	テキストの各施設の事例およびこれまでの実習を振り返り、気づき
回数	内容	準備学習																												
第1回	オリエンテーション (授業概要・実習の流れの確認・これまでの実習の振り返り) 本授業の目的と実習の位置づけを理解し、これまでの実習経験を振り返る。 リアクションペーパーの提出を求める(第15回まで同様)	テキスト p9-p34、p43-p48、を読んでおくこと。実習の流れ・日誌の書き方・オリエンテーションに関する内容を確認しておくこと(60分)																												
第2回	施設実習に向けた事前学習①(児童養護施設) 児童養護施設の目的・子どもの生活・支援の実際について理解する。	テキスト p73-p82 を読んでおくこと。児童養護施設の目的・子どもの状況・支援内容について理解しておくこと(60分)																												
第3回	施設実習に向けた事前学習②(乳児院) 乳児院の役割や子どもの状況、養育の特徴について理解する。	テキスト p83-p90 を読んでおくこと。乳児院の目的・子どもの状況・支援の特徴について理解しておくこと(60分)																												
第4回	施設実習に向けた事前学習③(障害児入所施設) 障害児施設の目的や支援方法、家族支援の在り方について理解する。	テキスト p129-p179 を読んでおくこと。障害児施設の目的・支援方法・家族支援について理解しておくこと(60分)																												
第5回	子ども理解と援助の視点①(生活支援・学習支援) 施設における生活支援・学習支援の具体的な関わりを理解して考える。	テキスト p57-p75、p153 を読んでおくこと。施設における生活支援・学習支援の具体的な関わりについて考えておくこと(60分)																												
第6回	子ども理解と援助の視点②(人権・権利擁護) 子どもの権利や安心・安全な環境の重要性について理解する。	テキスト p57-p75 を読んでおくこと。子どもの権利・安心安全な環境・支援の在り方について考えておくこと(60分)																												
第7回	事例検討①(倫理・関係性・実習生の葛藤) 実習場面の事例をもとに、倫理的課題や対人関係について考察する。	テキストの各施設の事例およびこれまでの実習を振り返り、気づきや課題を整理しておくこと(60分)																												
第8回	事例検討②(子ども理解と支援・保護者理解) 子ども理解および保護者支援の視点から適切な関わりにつ	テキストの各施設の事例およびこれまでの実習を振り返り、気づき																												

	いて考える。	や課題を整理しておくこと (60分)
第9回	実習の振り返り①(経験の整理・課題の明確化) 実習経験を整理し、自己の課題や学びを明確にする。	実習経験を振り返り、学びや課題を整理する(60分)
第10回	実習の振り返り②(子ども理解・支援の視点の整理) 子ども理解および支援の視点から実習での学びを整理する。	実習経験を振り返り、学びや課題を整理する(60分)
第11回	まとめ・発表準備①(テーマ設定・構成検討) 実習の学びをもとに発表テーマを設定し、構成を検討する。	実習経験を振り返り、学びや課題を整理する(60分)
第12回	まとめ・発表準備②(内容の具体化) 発表内容を具体化し、自分の考えを整理する。	実習経験を振り返り、学びや課題を整理する(60分)
第13回	まとめ・制作①(発表資料作成) 発表に向けた資料作成を行い、内容を整理する。	実習経験を振り返り、学びや課題を整理する(60分)
第14回	まとめ・制作②(発表資料完成・発表準備) 発表資料を完成させ、発表に向けた準備を行う。	実習経験を振り返り、学びや課題を整理する(60分)
第15回	発表・総括(展示・共有・振り返り) 実習の学びを共有し、振り返りを通して今後の課題を明確にする。	実習経験を振り返り、学びや課題を整理する(60分)
定期試験	定期試験期間中に、実習後の振り返りレポートを課す。	
フィードバックの方法： フィードバックとしてリアクションペーパーにコメントを返す。		
授業実施形態： 対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。 ※保育実習指導Ⅲの欠席が、実習前に4回以上になった、もしくは提出物などの提出が著しく遅れる・提出しない場合は保育実習Ⅲの履修を取り消すことがある。		
テキスト： 加藤洋子 一瀬早百合 飯塚美穂子 『施設実習ガイド』ミネルヴァ書房、2022、適宜プリント配布		
参考書・参考資料等： 乳児院・児童養護施設運営ハンドブック 『保育実習指導のミニマムスタンダード』一般社団法人 全国保育士協議会編集 中央法規出版		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価： 以下の5項目を総合的に評価して成績を判定する。		
① 振り返りレポート(試験相当)(30%)		
② 子ども理解・支援の視点(授業内課題、発表、レポート等)(20%)		
③ 倫理・人権理解(授業内課題、事例検討、レポート等)(20%)		
④ 発表・制作(20%)		
⑤ 授業参加・提出物(10%)		

授業科目名：2700217220 ゼミナール 2年通年	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：姜 華 担当形態：演習 分担
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：4. 6			
授業の到達目標及びテーマ：			
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する制度・政策の分析を通じて学校教育の現状と今日的課題について理解し、教職に必要な専門的資質・能力を身につけることができる。 ・子どもを取り巻く保育・教育環境の変化を理解し、それらをもとに、現代社会における教育をめぐる諸問題を批判的に考察する考え方を身につけることができる。 ・日本以外の外国の教育制度・政策や教育問題に触れつつ、比較研究を通じて世界の中の日本の教育問題、子どもを取り巻く環境等を客観視することができる。したがって、より良い保育・教育の在り方について自分なりの提案や提言ができるようになる。 <p>【テーマ】教育制度・政策、現代日本社会の教育問題、子どもを取り巻く環境、海外の保育・教育、比較研究</p>			
<p>授業概要：本学のゼミナールは、「保育者」を目指す全学生が2年間の集大成として、保育に関する専門分野の中からテーマを見出して取り組むものである。</p> <p>ゼミナールでは、自分が調べてみたいこと、学んできた内容からさらに深く掘り下げて研究してみたいことに、一人ひとり、別々に取り組むことができる。つまり、自分だけの研究を行う科目である。ゼミナールは指導教員がついて、助言をしたり、一緒に調査をしたり、研究についての指導を受けたりすることができる。保育者を目指し、共に学んできた中にも、一人ひとりの興味・関心は異なり、教員とのディスカッションを通じて自身の研究テーマを明確にし、研究を進め、まとめ、発表する。</p>			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）	ゼミナールについて学習する（60分）	
第2回	ゼミナール学習で各自が取り組むテーマについての調査	興味・関心があるテーマについて予め調べておく（60分）	
第3回	ゼミナール学習におけるテーマについてのまとめ	取り組む予定のテーマについて調べておく（60分）	
第4回	ゼミナール学習で取り組むテーマの決定	テーマの関連内容についてまとめておく（60分）	
第5回	アカデミック・スキル①：プレゼンテーションの基礎・方法	プレゼンテーションの基本について調べておく（60分）	
第6回	アカデミック・スキル②：文献検索・収集の方法、メディアリテラシー	メディアリテラシーについて調べておく（60分）	
第7回	プレゼンテーション演習①：発表資料の作成、文献収集	テーマに関する文献・資料を収集し、まとめる（60分）	
第8回	プレゼンテーション演習②：発表資料の作成、文献収集	テーマに関する文献・資料を収集し、まとめる（60分）	
第9回	プレゼンテーション演習③：発表資料の作成、文献収集	テーマに関する文献・資料を収集し、まとめる（60分）	
第10回	プレゼンテーション演習④：発表資料の作成、文献収集	テーマに関する文献・資料を収集し、まとめる（60分）	
第11回	研究成果の中間発表①：進捗状況の確認、内容の再検討	中間発表の準備（60分）	
第12回	研究成果の中間発表②：進捗状況の確認、内容の再検討	中間発表の準備（60分）	
第13回	研究成果の中間発表③：進捗状況の確認、内容の再検討	中間発表の準備（60分）	
第14回	研究成果の中間発表④：進捗状況の確認、内容の再検討	中間発表の準備（60分）	
第15回	文献による学習①：発表テーマに係る文献を用いて行う	テーマ内容について学ぶ（60分）	
第16回	文献による学習②：発表テーマに係る文献を用いて行う	テーマ内容について学ぶ	

第17回	文献による学習③：発表テーマに係る文献を用いて行う	(60分) テーマ内容について学ぶ
第18回	文献による学習④：発表テーマに係る文献を用いて行う	(60分) テーマ内容について学ぶ
第19回	個人発表①：発表テーマに関する報告、討議	(60分) 中間発表で指摘された課題等を再確認する
第20回	個人発表②：発表テーマに関する報告、討議	(60分) 中間発表で指摘された課題等を再確認する
第21回	個人発表③：発表テーマに関する報告、討議	(60分) 中間発表で指摘された課題等を再確認する
第22回	個人発表④：発表テーマに関する報告、討議	(60分) 中間発表で指摘された課題等を再確認する
第23回	中間発表のまとめ①：課題の再整理・検討	(60分) テーマ内容について再検討する
第24回	中間発表のまとめ②：課題の再整理・検討	(60分) テーマ内容について再検討する
第25回	他者の発表から学ぶ①：自己反省・課題の再整理・検討	(60分) 他者の発表から学んだもの、良いところ等をまとめておく
第26回	他者の発表から学ぶ②：自己反省・課題の再整理・検討	(60分) 他者の発表から学んだもの、良いところ等をまとめておく
第27回	ゼミナール発表会に向けての総括	(60分) 各自の発表資料・内容を再確認する
第28回		(60分) 発表会に向けて、各自総点検を行う
第29回	ゼミナール発表会での研究成果報告	(60分) 発表会に向けて、各自総点検を行う
第30回	振り返りと総まとめ	(60分) 発表会を振り返り、各自反省を行う
定期試験	論文等の期限までの提出と研究成果報告をもって評価する。	(60分) 発表会を振り返り、各自反省を行う

* 論文または課題の提出は、1月下旬を予定している。

準備学習として、次回授業までに各自研究を進めておくこと。

フィードバックは、毎回の授業時に研究の進め方やまとめ方等について指導や助言を直接行う。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：各自のテーマに沿うもの

学生に対する評価：

- ・取組状況：20%
- ・提出された研究成果：70%
- ・まとめ・成果報告発表：10%

授業科目名：2700217220 ゼミナール 2年通年	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 泰代 担当形態：演習 分担
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：4. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 運動分野における自ら選んだ運動や遊び（テーマ）について調べ、実践し、自己観察と他者観察を行うことで考察を深める。将来、保育現場に立った時に役立つ視点やアプローチの方法を身に付ける。 【テーマ】 自分が出来ないものにも取り組み、出来ないときの悔しさやもどかしい気持ちを知り、また、練習を積み効果的な指導法を受けることで出来た時の喜びを味わう。その中で、保育者に必要な見方・とらえ方を学ぶ。			
授業概要： 本学のゼミナールは、「保育者」を目指す全学生が2年間の集大成として、保育に関する専門分野の中からテーマを見出して取り組むものである。 ゼミナールでは、自分が調べてみたいこと、学んで来たことの中からさらに深く掘り下げて研究してみたいことに、一人ひとり、別々に取り組むことができる。つまり自分だけの研究を行う科目である。ゼミナールは指導教員がついて、助言をしたり、一緒に調査をしたり、研究についての指導を受けたりすることができる。保育者を目指し、共に学んできた中にも、一人ひとりの興味・関心は異なり、教員とのディスカッションを通じて自身の研究テーマを明確にし、研究を進め、まとめ、発表する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）	次回授業までに各自研究を進めておくこと。（60分）	
第2回	ゼミナール学習で各自が取り組むテーマについての調査		
第3回	ゼミナール学習におけるテーマについてのまとめ		
第4回	ゼミナール学習で取り組むテーマの決定		
第5回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第6回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第7回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第8回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第9回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第10回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第11回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第12回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第13回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第14回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第15回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第16回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第17回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第18回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う （運動の実践とビデオによる記録、内省の記録）		
第19回	ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う		

第20回	(運動の実践とビデオによる記録、内省の記録) ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う	
第21回	(運動の実践とビデオによる記録、内省の記録) ゼミナールメンバーのテーマについて実験を行う	
第22回	ゼミナール発表に向けまとめ (動画編集・パワーポイント等)	
第23回	ゼミナール発表に向けまとめ (動画編集・パワーポイント等)	
第24回	ゼミナール発表に向けまとめ (動画編集・パワーポイント等)	
第25回	ゼミナール発表に向けまとめ (動画編集・パワーポイント等)	
第26回	ゼミナール発表に向けまとめ (動画編集・パワーポイント等)	
第27回	ゼミナール発表に向けまとめ (動画編集・パワーポイント等)	
第28回	ゼミナール発表会での研究成果報告	
第29回	振り返りと総まとめ	
第30回	振り返りと総まとめ	
定期試験	論文等の期限までの提出と研究成果報告をもって評価する。	
*論文または作品の提出日は1月下旬を予定		
フィードバックは、毎回の授業時に研究の進め方やまとめ方等について指導や助言を直接行う。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：各自のテーマに沿うもの		
学生に対する評価：取組状況20% 提出された研究成果70% まとめ・成果報告発表10%		

授業科目名：2700217220 ゼミナール 2年通年	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：山本 伸一 担当形態：演習 分担																																												
施行規則等に定める 科目区分又は事項等																																															
学習成果該当番号：4, 6, 7																																															
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者として、行事の在り方、特に園外保育についてその必要性を理解するとともに、目的に応じて博物館等の施設を活用した園外保育のプログラムを作成できる。 ・様々な施設見学を通して、その施設のもつ園外保育の環境としての可能性を探る。 ・見学した施設の活用について研究ノートを作成する。 ・自分の研究成果を分かりやすくプレゼンテーションする力を身に付ける。 【テーマ】 行事・園外保育・博物館等の施設																																															
授業概要： 本学のゼミナールは、「保育者」を目指す全学生が2年間の集大成として、保育に関する専門分野の中からテーマを見出して取り組むものである。このゼミナールでは、園の行事、特に園外保育に焦点をあてて、園外保育プログラム作成の実践力を身に付けていく。 教育・保育要領には「行事の指導に当たっては、幼稚園生活の自然の流れの中で生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に楽しく活動できるようにすること。」とある。また、園外保育は「環境を通して行う教育」の重要な実践であり、身近な環境との関わりを通して、幼児の心身の発達を促し、健康・人間関係・環境・言葉・表現の五領域の「ねらい」や「10の姿」の育成を目指すものである。まず、保育者として園行事の重要性を大切さ学ぶ。都内には多種多様な博物館等の施設がある。博物館等の施設見学を通して、博物館等施設の良さや展示の工夫を知り、園外保育にどのように活用することができるかを考える力を養う。研究ノートを作成し、最終的に保育に役立つ冊子としてまとめていきたい。 ゼミナール発表会では、研究成果の報告発表を行う。																																															
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>ゼミナール学習の意義と内容について（合同）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ゼミナール学習の進め方及び学びのまとめ方について （校外学習の意義について調べ、まとめる）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>施設が持つ魅力について調べる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>保育に生かせる可能性を見出すための施設見学として見学の計画を立てる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>見学① （第5回以降の施設見学については、施設等の都合によりゼミの曜日変更を行う場合あり。必要な入館料及び交通費等は自費。）</td> <td rowspan="13"> 園外保育の計画や下見の重要性、園児や保護者への周知方法を考えておく。 見学に際しては、施設概要及び経路を調べておく。 移動方法や安全面の配慮についても検討しておく。 </td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>見学まとめ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>見学②</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>見学のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>見学③</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>見学のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>見学④</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>見学のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>見学⑤</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>見学のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>見学⑥</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>見学のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>第16回までの活動について振り返り、中間のまとめを行う</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>中間報告の資料作り</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）		第2回	ゼミナール学習の進め方及び学びのまとめ方について （校外学習の意義について調べ、まとめる）		第3回	施設が持つ魅力について調べる		第4回	保育に生かせる可能性を見出すための施設見学として見学の計画を立てる		第5回	見学① （第5回以降の施設見学については、施設等の都合によりゼミの曜日変更を行う場合あり。必要な入館料及び交通費等は自費。）	園外保育の計画や下見の重要性、園児や保護者への周知方法を考えておく。 見学に際しては、施設概要及び経路を調べておく。 移動方法や安全面の配慮についても検討しておく。	第6回	見学まとめ	第7回	見学②	第8回	見学のまとめ	第9回	見学③	第10回	見学のまとめ	第11回	見学④	第12回	見学のまとめ	第13回	見学⑤	第14回	見学のまとめ	第15回	見学⑥	第16回	見学のまとめ	第17回	第16回までの活動について振り返り、中間のまとめを行う	第18回	中間報告の資料作り
回数	内容	準備学習																																													
第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）																																														
第2回	ゼミナール学習の進め方及び学びのまとめ方について （校外学習の意義について調べ、まとめる）																																														
第3回	施設が持つ魅力について調べる																																														
第4回	保育に生かせる可能性を見出すための施設見学として見学の計画を立てる																																														
第5回	見学① （第5回以降の施設見学については、施設等の都合によりゼミの曜日変更を行う場合あり。必要な入館料及び交通費等は自費。）	園外保育の計画や下見の重要性、園児や保護者への周知方法を考えておく。 見学に際しては、施設概要及び経路を調べておく。 移動方法や安全面の配慮についても検討しておく。																																													
第6回	見学まとめ																																														
第7回	見学②																																														
第8回	見学のまとめ																																														
第9回	見学③																																														
第10回	見学のまとめ																																														
第11回	見学④																																														
第12回	見学のまとめ																																														
第13回	見学⑤																																														
第14回	見学のまとめ																																														
第15回	見学⑥																																														
第16回	見学のまとめ																																														
第17回	第16回までの活動について振り返り、中間のまとめを行う																																														
第18回	中間報告の資料作り																																														

第 19 回	中間報告の資料づくり
第 20 回	ゼミナール学習における中間報告
第 21 回	見学⑦
第 22 回	見学のまとめ
第 23 回	見学⑧
第 24 回	見学のまとめ
第 25 回	ゼミナール発表会準備
第 26 回	ゼミナール発表会準備
第 27 回	ゼミナール発表会準備
第 28 回	ゼミナール発表会での研究成果報告
第 29 回	振り返りと総まとめ
定期試験	研究ノート等の期限までの提出と研究成果報告をもって評価する。

*研究ノートの提出日は1月下旬を予定。

準備学習として、次回授業までに各自研究を進めておくこと。

フィードバックは、毎回の授業時に研究の進め方やまとめ方等について指導や助言を直接行う。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：各自のテーマに沿うもの

学生に対する評価：取組状況20% 提出された研究成果70% まとめ・成果報告発表10%

授業科目名：2700217220 ゼミナール 2年通年	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：岩井 幸博 担当形態：演習
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだテーマで学んだことについて他者に説明することができる。 ・健康や運動、スポーツ、日常生活の動作等についての疑問などを分析することができる。 ・ICT 機器を活用することができる。 <p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種運動遊び、スポーツ、障害者スポーツ、伝承遊びなどを実践する。 ・特にできない動き、苦手な動きを実践する。 ・日常生活に関する動きなども取り扱う。 ・動きに関する映像を撮影し、分析する。 			
授業概要：			
<p>体を動かすと同時に学びたい、深めたいテーマを探る。健康、運動、スポーツ、日常動作などのキーワードをもとに幅広い内容から関心のあるテーマを選択し、テーマに沿った情報収集、資料研究を行う。各自が研究テーマに関するレポート等を持ち寄り、ディスカッションを通して各々の研究内容を深めていく。テーマによっては実際に体を動かし、その動作や感覚を確かめる。必要であれば外部施設等も有効活用する。最終的に論文形式にまとめ、ゼミナール発表会で発表を行う。</p> <p>論文執筆にはパソコンのワード、エクセル、パワーポイント等を使用するため、使い方を習得する。また、研究テーマによっては運動・スポーツなどの動作を撮影するため、デジタルビデオカメラ、スマートフォン付属のカメラの撮影方法、編集方法も習得する。</p>			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）	どのようなテーマに興味があるか確認する（60分）	
第2回	ゼミナールでのテーマについての説明	自分のテーマと所属するゼミナールの内容を確認する（60分）	
第3回	取り組むテーマについての調査① 文献レビュー	取り組みたいテーマについて調べる（60分）	
第4回	取り組むテーマについての調査② 映像資料等の閲覧	取り組みたいテーマについて調べる（60分）	
第5回	取り組むテーマについての調査③ 新聞など最近の事例研究	取り組みたいテーマについて調べる（60分）	
第6回	テーマに関する実践① 各自のテーマについて実際に動く、調べる	テーマについて実践の準備をする（60分）	
第7回	テーマに関する実践② 各自のテーマについて実際に動く、調べる	テーマについて実践の準備をする（60分）	
第8回	テーマに関する実践③ 各自のテーマについて実際に動く、調べる	テーマについて実践の準備をする（60分）	
第9回	実践の記録、データ等のまとめ① 実際に動いて調べたことなどを記録し、データ等をまとめ、管理・共有する	データ管理方法を学んでおく（60分）	
第10回	実践の記録、データ等のまとめ② 実際に動いて調べたことなどを記録し、データ等をまとめ、管理・共有する	データ共有方法を学んでおく（60分）	
第11回	実践の記録、データ等のまとめ③ 実際に動いて調べたことなどを記録し、データ等をまとめ、管理・共有する	データ出力方法を学んでおく（60分）	
第12回	各自のテーマについてゼミ内発表① これまで調べた内容等	ゼミ内で発表できるように準	

第13回	をまとめ、ゼミ内で相互に発表する 各自のテーマについてゼミ内発表②	これまで調べた内容等をまとめ、ゼミ内で相互に発表する	備する (60分) ゼミ内で発表できるように準備する (60分)
第14回	各自のテーマについてゼミ内発表③	これまで調べた内容等をまとめ、ゼミ内で相互に発表する	ゼミ内で発表できるように準備する (60分)
第15回	前期振り返りとまとめ	前期に学んだ内容を整理する	前期に実施した内容を振り返る (60分)
第16回	後期研究計画の確認		後期研究計画を立てる (60分)
第17回	論文のまとめ方	Word・Excel・PowerPointの操作方法の確認	論文執筆のための参考図書を読む (60分)
第18回	論文作成①	章立てを考える	Wordの操作方法を確認する (60分)
第19回	論文作成②	方法、結果の整理	Excelの操作方法を確認する (60分)
第20回	論文作成③	方法、結果の整理	Excelでデータ整理をする (60分)
第21回	論文作成④	結果に対する考察	実験結果や映像等を確認する (60分)
第22回	論文作成⑤	結果に対する考察	実験結果や映像等を確認する (60分)
第23回	論文作成⑥	まとめ	全体の章立てなどを確認し、修正箇所を見つけておく (60分)
第24回	発表の準備①	PowerPointの発表のアウトラインを作成	PowerPointの操作方法を確認する (60分)
第25回	発表の準備②	詳細を検討	発表で使用する資料等をまとめておく (60分)
第26回	発表の準備③	スライドの調整	発表で使用する資料等をまとめておく (60分)
第27回	発表の準備④	発表原稿の作成	発表時間に合わせた原稿の準備をする (60分)
第28回	ゼミナール発表会での研究成果報告		発表練習をする (60分)
第29回	ゼミナール発表会での研究成果報告		発表練習をする (60分)
第30回	振り返りとまとめ		発表の振り返りを行う (60分)
定期試験	論文等の期限までの提出と研究成果報告をもって評価する。		
フィードバックの方法： フィードバックは、毎回の授業時に研究の進め方やまとめ方等について指導や助言を行う。			
ICT活用について： Microsoft Teamsを活用して撮影した映像、データの共有、Word・Excel・PowerPoint等の資料作成を行う。連絡はチャット等を活用する。これらのアプリやデジタル機器等を使いこなせるように学習する。			
テキスト： ・テーマ内容に関する論文や書籍などプリントを作成し、適宜配付する。			
参考書・参考資料等： ・『子ども運動・遊び・発達～運動のできる子どもに育てる』宮丸凱史、学研教育みらい、2011。 ・『保育と幼児期の運動遊び』岩崎洋子編著、萌文書林、2008。 ・『0歳からはじめるうごきづくり』太田昌秀・豊田泰代・久保景子著、幻冬舎ルネッサンス、2008。 ・『幼児の発達運動学』小林寛道他、ミネルヴァ書房、1990。			
オープンな教育リソース：			

学生に対する評価：

- 授業に取り組む姿勢、態度（30％）：観察や発表内容、提出物によって評価する
- 提出された研究成果（40％）：論文等にまとめ提出された内容によって評価する
- 成果報告発表（20％）：PowerPointの資料をもとに発表した内容を評価する

授業科目名：2700217220 ゼミナール 2年通年	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：津布楽 杏里 担当形態：演習
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：4. 6. 7			
授業の到達目標及びテーマ：			
<p>【到達目標】 子ども向け音楽だけでなく、幅広い音楽に接することにより、自身の音楽観を広げることを目標とする。また、音楽技術の向上だけでなく、音楽を通してコミュニケーションの取り方も身に付けていく。</p> <p>【テーマ】 本ゼミでは、音楽に関すること全般を扱う。子ども向けに作られた音楽に接することにより、子ども向け音楽の特徴、音楽表現を追求する。生活の歌などの作詞・作曲を経験し、最終的に子ども向けの歌や行事の歌の作詞・作曲を行う。または、子どものための歌やクラシック曲に限らず、幅広いジャンルの音楽に触れ、ピアノ演奏技術の向上を目指す。</p>			
<p>授業概要： 本学のゼミナールは、「保育者」を目指す全学生が2年間の集大成として、保育に関する専門分野の中からテーマを見出して取り組むものである。</p> <p>ゼミナールでは、自分が調べてみたいこと、学んで来たことの中からさらに深く掘り下げて研究してみたいことに、一人ひとり、別々に取り組むことができる。つまり自分だけの研究を行う科目である。ゼミナールは指導教員がついて、助言をしたり、一緒に調査をしたり、研究についての指導を受けたりすることができる。保育者を目指し、共に学んできた中にも、一人ひとりの興味・関心は異なり、教員とのディスカッションを通じて自身の研究テーマを明確にし、研究を進め、まとめ、発表する。</p>			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）	準備学習として毎回出される課題を次ゼミナールまでに学習してくること。 (毎回60分以上)	
第2回	ゼミナール学習で各自が取り組むテーマについての検討		
第3回	ゼミナール学習におけるテーマについてのまとめ		
第4回	ゼミナール学習で取り組むテーマの決定		
第5回	子どもの歌の歴史を概観する。		
第6回	子どもの歌の特徴について学習する。		
第7回	子ども向け音楽について学習する。		
第8回	子どもの歌の歌詞について学習する。		
第9回	歌詞とメロディの関係性について学習する。		
第10回	子どもの声域について学習する。		
第11回	伴奏の付け方について学習する。		
第12回	コードネームについて学習する。		
第13回	記譜法について学習する。		
第14回	指導法について学習する。		
第15回	演奏法について学習する。		
第16回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第17回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第18回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第19回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第20回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第21回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第22回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第23回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第24回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第25回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第26回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		
第27回	卒業制作（作曲作品、演奏）、練習、レッスンなど。		

第28回	ゼミナール発表会での研究成果報告
第29回	
第30回	振り返りと総まとめ
定期試験	論文等の期限までの提出と研究成果報告をもって評価する。

*論文または作品の提出日は1月下旬を予定

準備学習として、次回授業までに各自研究を進めておくこと。

フィードバックは、毎回の授業時に研究の進め方やまとめ方等について指導や助言を直接行う。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：各自のテーマに沿うもの

学生に対する評価：取組状況20% 提出された研究成果70% まとめ・成果報告発表10%

授業科目名：2700217220 ゼミナール 2年通年	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：近藤 健太 担当形態：演習 分担																																																			
施行規則等に定める 科目区分又は事項等																																																						
学習成果該当番号：4. 6																																																						
授業の到達目標及びテーマ：																																																						
<p>【到達目標】 本ゼミナールでは、放課後等デイサービスおよび児童発達支援事業所へ実際に出向き、利用者の子供とかわることや、職員カンファレンス、心理検査への陪席を行うことで、実際の臨床現場での実践を体験する。また、心理学に関連するトピックの中で、自身が興味のあるものに対し、調査を行い、最終的には論文の形でまとめることを目的とする。質問紙を使用した調査研究や履修者同士を対象にした行動実験などを行い、データを収集し、論文にまとめることを中心にゼミを進めていく。</p> <p>【テーマ】 心理学、応用行動分析学、調査研究、文献研究、行動実験、論文執筆</p>																																																						
<p>授業概要：本学のゼミナールは、「保育者」を目指す全学生が2年間の集大成として、保育に関する専門分野の中からテーマを見出して取り組むものである。 ゼミナールでは、自分が調べてみたいこと、学んで来たことの中からさらに深く掘り下げて研究してみたいことに、一人ひとり、別々に取り組むことができる。つまり自分だけの研究を行う科目である。ゼミナールは指導教員がついて、助言をしたり、一緒に調査をしたり、研究についての指導を受けたりすることができる。保育者を目指し、共に学んできた中にも、一人ひとりの興味・関心は異なり、教員とのディスカッションを通じて自身の研究テーマを明確にし、研究を進め、まとめ、発表する。</p>																																																						
<p>授業計画：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>ゼミナール学習の意義と内容について（合同）</td> <td>シラバスを読み、ゼミナールの活動と学習目標について予習する(60分)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>訪問施設の概要と放課後等デイサービスにおける実践の実際を知る</td> <td>第2回から第14回 放課後等デイサービスにおける実践や発達障害への対応について調べ、施設訪問時の目標を考える(60分)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>施設訪問① 今後、施設訪問中に行う活動に関しては訪問施設との協議のうえ、都度決定することとする。施設の都合により、訪問時期が前後する可能性がある。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>施設訪問のまとめ① 施設にて行ったことや子供とのかかわりなどで気になった点をまとめ、発表し今後の目標を設定する。今後の施設訪問のまとめに関しても同様に進めることとする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>施設訪問②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>施設訪問のまとめ②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>施設訪問③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>施設訪問のまとめ③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>施設訪問④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>施設訪問のまとめ④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>施設訪問⑤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>施設訪問のまとめ⑤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>施設訪問⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>施設訪問のまとめ⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>先行研究の調査方法を学習し、先行研究を収集する。</td> <td>自身の研究論文について執筆を進める(60分)</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>論文における「方法」を執筆する。</td> <td>自身の研究論文について執筆を進める(60分)</td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）	シラバスを読み、ゼミナールの活動と学習目標について予習する(60分)	第2回	訪問施設の概要と放課後等デイサービスにおける実践の実際を知る	第2回から第14回 放課後等デイサービスにおける実践や発達障害への対応について調べ、施設訪問時の目標を考える(60分)	第3回	施設訪問① 今後、施設訪問中に行う活動に関しては訪問施設との協議のうえ、都度決定することとする。施設の都合により、訪問時期が前後する可能性がある。		第4回	施設訪問のまとめ① 施設にて行ったことや子供とのかかわりなどで気になった点をまとめ、発表し今後の目標を設定する。今後の施設訪問のまとめに関しても同様に進めることとする。		第5回	施設訪問②		第6回	施設訪問のまとめ②		第7回	施設訪問③		第8回	施設訪問のまとめ③		第9回	施設訪問④		第10回	施設訪問のまとめ④		第11回	施設訪問⑤		第12回	施設訪問のまとめ⑤		第13回	施設訪問⑥		第14回	施設訪問のまとめ⑥		第15回	先行研究の調査方法を学習し、先行研究を収集する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)	第16回	論文における「方法」を執筆する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)
回数	内容	準備学習																																																				
第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）	シラバスを読み、ゼミナールの活動と学習目標について予習する(60分)																																																				
第2回	訪問施設の概要と放課後等デイサービスにおける実践の実際を知る	第2回から第14回 放課後等デイサービスにおける実践や発達障害への対応について調べ、施設訪問時の目標を考える(60分)																																																				
第3回	施設訪問① 今後、施設訪問中に行う活動に関しては訪問施設との協議のうえ、都度決定することとする。施設の都合により、訪問時期が前後する可能性がある。																																																					
第4回	施設訪問のまとめ① 施設にて行ったことや子供とのかかわりなどで気になった点をまとめ、発表し今後の目標を設定する。今後の施設訪問のまとめに関しても同様に進めることとする。																																																					
第5回	施設訪問②																																																					
第6回	施設訪問のまとめ②																																																					
第7回	施設訪問③																																																					
第8回	施設訪問のまとめ③																																																					
第9回	施設訪問④																																																					
第10回	施設訪問のまとめ④																																																					
第11回	施設訪問⑤																																																					
第12回	施設訪問のまとめ⑤																																																					
第13回	施設訪問⑥																																																					
第14回	施設訪問のまとめ⑥																																																					
第15回	先行研究の調査方法を学習し、先行研究を収集する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)																																																				
第16回	論文における「方法」を執筆する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)																																																				

第 17 回	論文における「結果」を執筆する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)
第 18 回	論文における「結果」を執筆する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)
第 19 回	論文における「考察」を執筆する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)
第 20 回	論文における「考察」を執筆する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)
第 21 回	論文における「序論(目的)」を執筆する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)
第 22 回	論文における「序論(目的)」を執筆する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)
第 23 回	論文における「序論(目的)」を執筆する。	自身の研究論文について執筆を進める(60分)
第 24 回	発表資料の作成を開始する	資料作成の準備を行う(60分)
第 25 回	発表資料を作成する	自身の発表資料の作成を進める(60分)
第 26 回	発表資料を完成させる	自身の発表資料の作成を進める(60分)
第 27 回	発表の練習を行う	自身の発表の練習を進める(60分)
第 28 回	ゼミナール発表会での研究成果報告	
第 29 回		
第 30 回	振り返りと総まとめ	
定期試験	論文等の期限までの提出と研究成果報告をもって評価する。	
*論文または作品の提出日は1月下旬を予定		
準備学習として、施設での目標及び各自の研究を次回授業までに進めておくこと。 フィードバックは、毎回の授業時に研究の進め方やまとめ方等について指導や助言を直接行う。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：各自のテーマに沿うもの		
学生に対する評価：取組状況20% 提出された研究成果70% まとめ・成果報告発表10%		

授業科目名：2700217220 ゼミナール 2年通年	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：村上 悦子 担当形態：演習 分担																																				
施行規則等に定める 科目区分又は事項等																																							
学習成果該当番号：4. 6																																							
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ・遊びの意義と役割を理解する・遊びの実践力を身に付ける・教材作成のスキルを習得する ・保育における遊びの応用力を育てる・協働と振り返りを通じた自己成長を促す 【テーマ】 「遊びでつなぐ子どもの未来」遊びを通じて子どもの発達を支え、保育士としての実践力を高めることを目的とした学びを展開する。さらに遊びが持つ地域連携や子育て支援の可能性についても深く考察し、現場で活用できる具体的なスキルを身につける。																																							
授業概要： 本学のゼミナールは、「保育者」を目指す全学生が2年間の集大成として、保育に関する専門分野の中からテーマを見出して取り組むものである。 本ゼミナールでは、自分が調べてみたいこと、学んで来たことの中からさらに深く掘り下げて研究してみたいことに、一人ひとり、別々に取り組むことができる。つまり自分だけの研究を行う科目である。ゼミナールは指導教員がついて、助言をしたり、一緒に調査をしたり、研究についての指導を受けたりすることができる。保育者を目指し、共に学んできた中にも、一人ひとりの興味・関心は異なり、教員とのディスカッションを通じて自身の研究テーマを明確にし、研究を進め、まとめ、発表する。																																							
授業計画： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 60%;">内容</th> <th style="width: 30%;">準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>ゼミナール学習の意義と内容について（合同）</td> <td>「ゼミナール学習とは何か」について調べ、自分が期待することや関心のある分野を書き出してくる。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ゼミナール学習で各自が取り組むテーマについての調査</td> <td>「遊び」に関する本や資料を探し、自分が興味を持つ遊びについて調べて要点をまとめる</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>ゼミナール学習におけるテーマについてのまとめ</td> <td>第2回の調査結果を基に、1～2枚のレジュメを作成してくる。調査内容とそれに関する自分の意見疑問も記載する</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ゼミナール学習で取り組むテーマの決定</td> <td>第3回の発表内容を振り返り、自分がゼミで特に取り組みたいテーマを考えて簡単に文章化してくる。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>第5回～9回・発達段階に応じた遊び 発達段階ごとに適した遊びを、実践を行う。 乳幼児の感覚あそび、幼児期のルールのある遊び</td> <td>第5回～9回 各回のテーマに関する内容を調べ、実践のヒントを考える</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>発達段階に応じた遊び 社会性を育てる遊び（グループ遊びや役割遊び）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>発達段階に応じた遊び 創作遊び（素材を使った遊び：紙、布、自然物）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>発達段階に応じた遊び 想像力を広げる遊び（ごっこ遊び・物語あそび）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>発達段階に応じた遊び 各回の遊びの実践の振り返りとディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>第10回～15回・教材の作成と活用 玩具や絵本、パネルシアターの作成・実践を通してスキルを習得する 玩具の選び方と作り方（発達段階に合った遊びとは？）</td> <td>第10回～15回 実践活動に必要な素材や情報を事前に用意する。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>教材の作成と活用</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回数	内容	準備学習	第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）	「ゼミナール学習とは何か」について調べ、自分が期待することや関心のある分野を書き出してくる。	第2回	ゼミナール学習で各自が取り組むテーマについての調査	「遊び」に関する本や資料を探し、自分が興味を持つ遊びについて調べて要点をまとめる	第3回	ゼミナール学習におけるテーマについてのまとめ	第2回の調査結果を基に、1～2枚のレジュメを作成してくる。調査内容とそれに関する自分の意見疑問も記載する	第4回	ゼミナール学習で取り組むテーマの決定	第3回の発表内容を振り返り、自分がゼミで特に取り組みたいテーマを考えて簡単に文章化してくる。	第5回	第5回～9回・発達段階に応じた遊び 発達段階ごとに適した遊びを、実践を行う。 乳幼児の感覚あそび、幼児期のルールのある遊び	第5回～9回 各回のテーマに関する内容を調べ、実践のヒントを考える	第6回	発達段階に応じた遊び 社会性を育てる遊び（グループ遊びや役割遊び）		第7回	発達段階に応じた遊び 創作遊び（素材を使った遊び：紙、布、自然物）		第8回	発達段階に応じた遊び 想像力を広げる遊び（ごっこ遊び・物語あそび）		第9回	発達段階に応じた遊び 各回の遊びの実践の振り返りとディスカッション		第10回	第10回～15回・教材の作成と活用 玩具や絵本、パネルシアターの作成・実践を通してスキルを習得する 玩具の選び方と作り方（発達段階に合った遊びとは？）	第10回～15回 実践活動に必要な素材や情報を事前に用意する。	第11回	教材の作成と活用	
回数	内容	準備学習																																					
第1回	ゼミナール学習の意義と内容について（合同）	「ゼミナール学習とは何か」について調べ、自分が期待することや関心のある分野を書き出してくる。																																					
第2回	ゼミナール学習で各自が取り組むテーマについての調査	「遊び」に関する本や資料を探し、自分が興味を持つ遊びについて調べて要点をまとめる																																					
第3回	ゼミナール学習におけるテーマについてのまとめ	第2回の調査結果を基に、1～2枚のレジュメを作成してくる。調査内容とそれに関する自分の意見疑問も記載する																																					
第4回	ゼミナール学習で取り組むテーマの決定	第3回の発表内容を振り返り、自分がゼミで特に取り組みたいテーマを考えて簡単に文章化してくる。																																					
第5回	第5回～9回・発達段階に応じた遊び 発達段階ごとに適した遊びを、実践を行う。 乳幼児の感覚あそび、幼児期のルールのある遊び	第5回～9回 各回のテーマに関する内容を調べ、実践のヒントを考える																																					
第6回	発達段階に応じた遊び 社会性を育てる遊び（グループ遊びや役割遊び）																																						
第7回	発達段階に応じた遊び 創作遊び（素材を使った遊び：紙、布、自然物）																																						
第8回	発達段階に応じた遊び 想像力を広げる遊び（ごっこ遊び・物語あそび）																																						
第9回	発達段階に応じた遊び 各回の遊びの実践の振り返りとディスカッション																																						
第10回	第10回～15回・教材の作成と活用 玩具や絵本、パネルシアターの作成・実践を通してスキルを習得する 玩具の選び方と作り方（発達段階に合った遊びとは？）	第10回～15回 実践活動に必要な素材や情報を事前に用意する。																																					
第11回	教材の作成と活用																																						

第12回	手作り玩具の実践①（紙を使った玩具作り） 教材の作成と活用	
第13回	手作り玩具の実践②（自然素材や廃材を活用） 教材の作成と活用	
第14回	絵本の選び方と読み聞かせの基礎 教材の作成と活用	
第15回	絵本の読み聞かせ実践（ペアやグループで練習） 教材の作成と活用	
第16回	パネルシアターの作り方 第16回～20回・地域子育て支援との連携 遊びを活用した地域支援のアイデア出しや計画作成を行う 地域の子育て支援における遊びの役割（事例紹介）	第16回～20回 ・地域子育て支援に関する情報を収集する ・地元の子育て支援センターやイベントについて調べ、その中で行われている遊びをまとめてくる。
第17回	地域子育て支援との連携 子どもと保護者が一緒に楽しめる遊びの提案	
第18回	地域子育て支援との連携 地域イベントでの遊び活動のアイデア出し	
第19回	地域子育て支援との連携 学生自身のあそびの体験発表（振り返りと共有）	
第20回	地域子育て支援との連携 活動案のまとめと発表準備	
第21回	第21回～26回・実践力の向上 オリジナルのあそびや活動案を企画・実践し、フィードバックを得る。学生オリジナル遊び活動の企画①（グループで計画）	第21回～26回 ・自分たちで企画する活動案について準備を進める
第22回	実践力の向上 オリジナルのあそびや活動案を企画・実践し、フィードバックを得る。学生オリジナル遊び活動の企画②（活動案の共有と改善）	
第23回	実践力の向上 オリジナルのあそびや活動案を企画・実践し、フィードバックを得る。実践シミュレーション（ゼミ内で模擬実施）	
第24回	実践力の向上 オリジナルのあそびや活動案を企画・実践し、フィードバックを得る。活動に対するフィードバック	
第25回	実践力の向上 オリジナルのあそびや活動案を企画・実践し、フィードバックを得る。さらなる発展案の検討	
第26回	実践力の向上 オリジナルのあそびや活動案を企画・実践し、フィードバックを得る。	
第27回	まとめと発表	・発表に向けて必要な資料や教材を準備する。
第28回	ゼミナール発表会での研究成果報告	
第29回	振り返りと総まとめ	
第30回	振り返りと総まとめ	
定期試験	論文等の期限までの提出と研究成果報告をもって評価する。	
*論文または作品の提出日は1月下旬を予定		
フィードバックは、毎回の授業時に研究の進め方やまとめ方等について指導や助言を直接行う。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：各自のテーマに沿うもの		
学生に対する評価：取組状況20% 提出された研究成果70% まとめ・成果報告発表10%		